

**設置の趣旨等を記載した書類（薬学部）**

## 目 次

|                              |       |
|------------------------------|-------|
| 1. 設置の趣旨及び必要性                | P. 2  |
| 2. 学部・学科等の特色                 | P. 13 |
| 3. 学部・学科等の名称及び学位の名称          | P. 14 |
| 4. 教育課程の編成の考え方及び特色           | P. 14 |
| 5. 教員組織の編成の考え方及び特色           | P. 24 |
| 6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件         | P. 28 |
| 7. 施設、設備等の整備計画               | P. 37 |
| 8. 入学者選抜の概要                  | P. 41 |
| 9. 取得可能な資格                   | P. 45 |
| 10. 実習の具体的計画                 | P. 45 |
| 11. 管理運営                     | P. 51 |
| 12. 自己点検・評価                  | P. 52 |
| 13. 情報の公表                    | P. 54 |
| 14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修     | P. 56 |
| 15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制     | P. 57 |
| 16. 学科間の差異・特徴                | P. 60 |
| 17. 実務の経験を有する教員の配置に関する考え方・計画 | P. 60 |
| 18. 長期実務実習の具体的計画             | P. 61 |
| 19. 教育課程と指定規則等との対比表          | P. 66 |
| 20. 転入学する学生への措置について          | P. 67 |

## 1. 設置の趣旨及び必要性

### (1) 設置の趣旨

今般の薬学部及び大学院薬学研究科の設置は、既存の大学に新たに学部及び研究科を新設するのではなく、学校法人大阪医科薬科大学が設置している大阪医科大学と大阪薬科大学を統合することが目的である。そのための手続きとして、大阪医科大学に薬学部及び大学院薬学研究科を設置するものである。

大学統合の目的は、両大学を医学・薬学・看護学が連携・融和した先進的・専門的な教育・研究を推進し、それに基づく高度な医療体制を構築・提供する我が国有数の医療系総合大学へと発展させることである。

本法人は、平成 28 年に大学統合に先んじて法人合併を成し遂げたが、その検討段階よりこの 2 大学の統合を合併の目的としていた。

法人合併を検討していた数年前までは、設置者変更による大学統合・学部譲渡の制度が整備されていなかったこともあり、まずは学校法人の合併を先行させることとし、両大学間の教育・研究面での連携を深めるとともに、両大学の学生、教職員及び各々の同窓会や学生保護者、関係諸団体等のステークホルダーとの間で統合に向けた機運の醸成に努めてきたものである。

なお、設置する薬学部及び大学院薬学研究科は、令和元年 5 月 10 日文科科学省告示第 1 号「学校法人の寄附行為及び寄附行為の変更の認可に関する審査基準の一部を改正する告示」及び令和元年 5 月 13 日文科高第 28 号「私立学校法施行規則等の一部改正について（通知）」に基づき、現在の組織並びに校地並びに施設及び設備の同一性を保持する他、教育課程や教員組織、学生支援体制等の全てを大阪薬科大学より承継することとしている。

また、薬学部及び大学院薬学研究科の設置と合わせ、大学名称を現在の法人名称と同様に「大阪医科薬科大学」へと変更することとしており、令和元年 10 月に名称変更に係る事前相談を実施し、大学設置・学校法人審議会大学設置分科会運営委員会より、届出による手続きで可能との結果を受けている。

※薬学部及び大学院薬学研究科の設置に係る具体的なスケジュールは以下の通り

1. 大阪医科大学に薬学部及び大学院薬学研究科の設置認可申請（令和 2 年 3 月）
2. 設置認可予定（令和 2 年 8 月）
3. 大学名称変更の届出（令和 2 年 9 月）
4. 大阪医科大学に薬学部及び大学院薬学研究科を新設（令和 3 年 4 月 1 日付）

5. 大阪薬科大学薬学部及び大学院薬学研究科の全学生を大阪医科大学へ転学  
(令和3年4月1日付)
6. 大学名称を「大阪医科大学」から「大阪医科薬科大学」へ変更(令和3年4月1日付)
7. 大阪薬科大学を廃止(令和3年4月1日付)

## (2) 設置に至る経緯

### ①学校法人の目的及び設置大学の沿革

平成28年4月、学校法人大阪医科大学(設置校:大阪医科大学、高槻中学校・高等学校)と、学校法人大阪薬科大学(設置校:大阪薬科大学)が法人合併し、学校法人大阪医科薬科大学(設置校:大阪医科大学、大阪薬科大学、高槻中学校・高等学校)となった。

学校法人大阪医科薬科大学の目的は、「学校教育法並びに私立学校法に従い、学校等を設置し、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践を通して、創造性と人間性豊かで人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成すること」としている。

大阪医科大学は、昭和2年に設立された日本で最初の5年制医学専門学校である「大阪高等医学専門学校」を前身とする。昭和21年に旧制「大阪醫科大學」となり、その後昭和27年には医学部を有する新制「大阪医科大学」に移行し、昭和34年には大学院医学研究科医学専攻博士課程を設置、平成22年には看護学部を設置、平成26年には大学院看護学研究科看護学専攻博士前期課程及び同後期課程を設置した。また、令和2年度より大学院医学研究科に医科学専攻修士課程を設置(令和元年8月認可)する。

建学の精神を「医育機関の使命は医学教育と医学研究であり、またその研究は実地の医療に活かすことで完成する。」と定め、「豊かな人間性を備え、人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材、変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材、及び地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探究心を持って活躍する人材を育成するための教育を実践する」ことを目的として、これまでに、約9,000名の医師と約4,500名の看護師を輩出してきた。

大阪薬科大学は、明治37年に設立された「大阪道修薬学校」を前身とする。その後、日本で最初の女子薬学専門学校である「帝国女子薬学専門学校」を経て、昭和25年には薬学部を有する新制「大阪薬科大学」となり、昭和50年には大学院薬学研究科を設置した。平成18年度からの薬学6年制への移行に伴い、現在の薬学部薬学科(6年制)及び薬科学科(4年制)を設置し、その完成年度に合わせ平成22年度には薬科学科(4年制)を基礎とする薬科学専攻修士課程を、平成24年度には同修士課程(博士前期課程へ変更)に接続す

る博士後期課程と、薬学科（6年制）を基礎とする薬学専攻博士課程（4年制）を設置し、平成30年度からは薬科学科（4年制）の学生募集を停止し、今日に至っている。

建学の精神を「自助自立した精神を涵養し、深く薬学の知識を授けることにより、豊かな人間性を備えた薬剤師・薬学人を養成し、もって人類の福祉と文化の向上に寄与する」と定め、「教育基本法及び学校教育法の規定に基づき広く知識を授けると共に深く薬学に関する教育研究を行い、有為な人材を育成し、人類の福祉と文化の向上に寄与する」ことを目的として、これまでに、約21,000名の薬剤師等の薬学関連領域で活躍する人材を輩出してきた。

## ②設置に至る経緯及び趣旨

平成28年4月の法人合併の目的は、「我が国の人口構造と社会情勢の変化を見据えて次世代を担う良質の医療人の養成、並びに医学・薬学・看護学が連携・融和する先進的医療体制の構築・提供を目指し、特色ある学際的教育・研究と新たなチーム医療教育を推進すると共に、魅力ある学校作りを行い、もって新法人大阪医科薬科大学の運営と経営の基盤を強化すること」であり、その効果をより高めるためには将来、両大学の統合が必須であるとの認識のもとにまずは法人合併を実現させたもので、合併当初はもとより、その検討段階から、法人合併より数年後の大学統合を視野に入れていた。

両大学は、それぞれが歴史と伝統のある大学であり、これまで優秀な人材の育成と研究成果の還元を通じて社会に貢献してきた。しかしながら、18歳人口は平成4年の約205万人をピークに平成21年には約121万人まで減少し、その後は横ばいで推移していたところ、平成30年以降再び減少し、令和6年には約106万人まで減少すると予測されている。こうした人口構造の変化は国公立を問わず、大学の置かれている環境をより厳しくするものであり、いずれ大学淘汰の時代の到来が予想される中、両大学の強みや特色を活かし、時代を先取りした我が国有数の医療系総合大学に発展させる必要があるとして、両大学を統合することを決定した。

大学統合に先行し、平成30年度からは、大阪医科大学の医学部・看護学部と大阪薬科大学の薬学部による専門職連携教育（IPE：Interprofessional Education）をスタートさせているが、両大学の統合により、人的資源と物的資源を効果的に活用し、前述した法人合併の目的である「次世代を担う良質の医療人の養成、並びに医薬看が連携・融和する先進的医療体制の構築・提供を目指し、特色ある学際的教育・研究と新たなチーム医療教育を推進する」ことを一層具現化させていく。

統合にあたっては、現時点で同一法人内の2大学を直接的に統合する制度は存在しないことから、大阪医科大学に薬学部を第1・2・3・4・5・6年次、大学院薬学研究科を薬学専攻博士課程は第1・2・3・4年次、薬科学専攻博士前期課程は第1・2年次、同博士後期課

程は第1・2・3年次の同時開設として設置し、新入学生を受け入れるとともに、統合期日に在籍する大阪薬科大学の薬学部及び大学院薬学研究科の全学生を転学させた後、大阪薬科大学を廃止する計画としている。また、薬学部及び大学院薬学研究科の設置に合わせ、大学名称を大阪医科薬科大学に変更する。

なお、現在の大阪薬科大学の組織並びに校地並びに施設及び設備は、設置・統合の前後でその同一性を保持する他、教育課程や教員組織、学生支援体制等の全てを大阪薬科大学より承継することとし、転学する大阪薬科大学の在籍学生が統合により不利益を被ることがないように万全を期すこととしている。

### ③募集停止中の学科の取扱い

大阪薬科大学薬学部では、平成18年度からの薬学6年制への移行時より、薬剤師の養成を主目的とする6年制の薬学科と薬学研究者や技術者の養成を主目的とする4年制の薬科学科を設置してきた。

大阪薬科大学薬学部の特徴として、学生募集・入学試験は、薬学部として一括で行い、1年次から3年次までは学部共通のカリキュラムで学び、4年次進級時に学生の学科選択によりそれぞれの学科に配属する制度を採用してきた。しかし、薬科学科を希望する学生が少なく、収容定員を充足できない状況が続いていたため、平成30年度より薬科学科の学生募集を停止している。以下に大阪薬科大学薬学部薬科学科の収容定員と現員の変遷を記す。

| 薬科学科<br>(4年制) | 平成29年度 | 平成30年度<br><b>*募集停止</b> | 平成31年度 | 令和2年度   | 令和3年度<br><b>*設置</b> |
|---------------|--------|------------------------|--------|---------|---------------------|
| 収容定員          | 120名   | 90名                    | 60名    | 30名     | 0名<br>→設置後2名        |
| 現員            | 3名     | 1名                     | 2名     | (見込み)1名 |                     |

設置時の令和3年度以降の入学生及び転学する平成30年度以降の入学生は、入学時より全員が6年制の薬学科の配属となり募集停止中の薬科学科の選択権はないが、平成29年度以前の入学生は、4年次進級時に学科選択の権利を有することとなる。

薬科学科は、平成30年度からの募集停止後の年次進行により、標準修業年限内に対象となる学科選択権を有する平成29年度以前の入学生全員が卒業するか、又は6年制薬学科を選択すれば、令和2年度末をもって在籍学生がいなくなるため、廃止手続きを行うことができる。しかしながら、本申請の時点で標準修業年限内に卒業できない留年者が複数在籍しているため、これらの学生が不利益を被ることがないように、入学時に約束した教育課程の提供（募集停止中の薬科学科の選択権）を保証しなければならない。

そのため、薬学部には、6年制の薬学科（入学定員294名、収容定員1,764名）を設置するとともに、平成29年度以前の入学生への措置として4年制の薬科学科（募集停止：入学定員0名、学科配属年次となる4年次の収容定員2名）を学生募集停止を継続したまま設置することとし、転学する学生の教育条件の維持に万全を期す必要がある。4年次の定員2名を定めた根拠は、上表に示す同学科の過去からの学科配属現員（1名～2名で推移）と、この先の同学科のニーズ及び学科選択の動向を勘案したものであり、可能な限り実人員に則して設定した。

当然ながら、募集停止中の薬科学科の教育課程、履修要件等は、対象となる学生が入学した際の大阪薬科大学薬学部薬科学科のものを踏襲するものとし、その取扱いは「20 転入学する学生への措置について」において後述する。

なお、設置認可申請は、設置時の入学生に対する完成年度に至るまでの諸計画であることから、原則として募集停止中の学科はその対象とならないところ、前述の通り、大阪医科大学薬学部へ転学させる学生の教育条件の維持を目的として、例外的に薬科学科を含めた薬学部として設置認可申請を行うこととしている。

この薬科学科の学生募集停止に関し、薬学科の入学定員を平成30年度に270名から294名に変更し、合わせて編入学定員（2年次：5名）を廃止しているため、薬学科の収容定員は、令和3年度1,721名、令和4年度1,740名となり、令和5年度から1,764名となる。

### **（3）薬学部設置の必要性と大学統合後の展望**

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（平成30年11月26日中央教育審議会）において、「一法人一大学となっている国立大学の在り方の見直し、私立大学における学部単位等での事業譲渡の円滑化、国公私立の枠組みを越えて大学等の連携や機能分担を促進する制度の創設など、（中略）大学等の連携・統合を円滑に進めることができる仕組みや、これらの取組を促進するための情報の分析・提供などの支援体制の構築など実効性を高める方策について検討することが必要である。」と提言されているとおり、複数の大学等の人的・物的資源を効果的に共有すると同時に教育研究機能の強化を図るためにも、学部譲渡や大学統合は強く求められているものである。前述の私立学校法施行規則、学校法人の寄附行為及び寄附行為の変更の認可に関する審査基準等の一部改正は、この要請を受けてのものと考えられる。今般の大学統合は、本法人が法人合併の当初よりこれらの必要性を認識してきたものを具現化するものと言える。

また、同グランドデザインでは、「社会全体の急速な変化や18歳人口の減少を踏まえるとともに、将来の更なる変化を見据え、大学が選択する機能と、その比重の置き方につい

て改めて見直すことにより、自らの強みや特色を意識した上で、将来の発展の方向性を考えていくことが重要である。」「現時点の「強み」の維持・強化にとどまることなく、不断の大学改革により、新たな「強み」を持続的に生み出していくとともに、次代の社会を牽引するような新たな価値を創造することが期待されている。」「大学として「強み」や「特色」を明確にした上で、それらを伸ばしていくために、(中略) 大学間の連携・統合を進めていくことも一つの方策である。」と提言されている。これは、「我が国の人口構造と社会情勢の変化を見据えて次世代を担う良質の医療人の養成、並びに医学・薬学・看護学が連携・融和する先進的医療体制の構築・提供を目指し、特色ある学際教育・研究と新たなチーム医療教育を推進すると共に、魅力ある学校作りを行う」という法人合併の目的に合致するものであり、両大学が有する医療系大学としての特色の強化にとどまらず、医療系3学部が連携・融和することによる新たな「強み」と「価値」を創造することで、「時代を先取りした我が国有数の医療系総合大学に発展させる」という大学統合の趣旨・目的と適合するものである。

18歳人口を含む我が国全体の人口の減少が見込まれる一方で、薬系大学・薬学部は増加しており、将来的な薬剤師の供給過剰が予測されている中、薬系大学間の競争は今後、さらに激化していくものと考えられる。

また、これまで薬剤師が担ってきた「調剤業務」も「調剤業務のあり方について」(平成31年4月2日厚生労働省医薬・生活衛生局総務課長通知)において、一定の条件下、調剤業務を薬剤師以外の者が実施することは差し支えない旨の通知がなされ、調剤機器や情報技術の発達により、AIやロボットを活用した対物業務の効率化・省人化が進むなど、薬剤師が置かれている状況は変革の時を迎えている。すなわち、薬剤師に求められる職能が、これまでの調剤等の“対物”を中心とした業務から、医師や看護師等の医療従事者、患者との議論・対話をベースとした“対人”業務へとシフトしていくこととなる。これは同時に、6年制薬学教育に対し、臨床現場でのチーム医療の一員として、また、厚生労働省が提唱する地域包括ケアシステムの構築における地域医療の担い手として、薬に対する高度な知識と技術、高い生命倫理観を持ち合わせた上で、患者の状態・病態を把握し医師と議論を重ねることのできる薬剤師の養成が社会から求められているということである。つまり、薬学教育には、患者の身体の健康状態を評価し薬物の適正使用及び副作用出現の有無を確認するためのフィジカルアセスメント等の技能、医療人としての倫理観の醸成はもとより、臨床現場でのチーム医療において、医師や看護師等の医療従事者との実践的なコミュニケーション能力までをカバーすることが求められている。

今般の大学統合に伴う薬学部の設置により、医学、薬学、看護学の3学部を擁する大学となることで、これまでの薬学教育で不足していた実践的な教育、特に3学部及び附属病



院を含む専門職連携教育（IPE）をさらに推進し、医療系総合大学としての強みを最大限に活かし、社会からそして臨床現場から真に求められる質の高い薬剤師を輩出することを目指す。

加えて、将来的な薬剤師の供給過剰予測に対し、現状においては薬剤師不足が続いており、特に地方の薬剤師不足は深刻な状況にある。大阪薬科大学薬学部では、薬剤師が不足している鳥取県などの地方自治体と就職支援協定を締結し、様々な活動を通じて地方の薬剤師不足に貢献する活動を行ってきた。今般、設置する薬学部においても、この活動を継続するだけでなく、さらに発展させて西日本の薬剤師不足の地域にまで広げていく計画であり、地方の地域医療に積極的に参画できる薬剤師を養成し、都市部や関西圏のみならず地方への社会貢献を果たしていく。

今般、設置する薬学部に関し、近隣の関連する職能団体からの意見を聴取した結果、大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会、京都府薬剤師会（京都府病院薬剤師会は、京都府薬剤師会の下に病院診療所薬剤師部会として設置）、兵庫県薬剤師会、兵庫県病院薬剤師会より薬剤師養成に関する要望書が提出された。

要望書では、薬剤師業務が対物から患者や地域社会との関わりの大きい対人業務に大きく転換していく中で、こうした社会のニーズに則した魅力ある薬学部薬学科の設置により、医学部・看護学部との専門職連携教育（IPE）の実践等を通じた実際の医療・臨床現場における質の高い薬剤師の養成を強く求められており、今般の大学統合に対する期待の高さが伺える。

両大学は、平成28年4月の法人合併当初より、数年後の大学統合を視野に入れていた。平成30年度からは、大阪医科大学の医学部・看護学部と大阪薬科大学の薬学部による専門職連携教育（IPE）がスタートしているが、大学統合と、近い将来の医学部・看護学部の近隣地域へのキャンパス移転により、医療系3学部による連携教育のさらなる発展や共同研究の推進を加速させていく。

大学統合により、人的資源と物的資源を効果的に活用し、法人合併の目的として定めた「次世代を担う良質の医療人の養成、並びに医薬看が連携・融和する先進的医療体制の構築・提供を目指し、特色ある学際的教育・研究と新たなチーム医療教育を推進する」ことを、より具現化することができる。

なお、募集停止中の薬科学科は、これまで大阪薬科大学において実施してきた薬学教育を踏襲し、同時に設置する大阪医科大学大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程での教育・研究への連繋も踏まえたものとする。

こうした教育課程を経た者の進路は、製薬企業における研究開発、医薬情報、治験、製薬・製剤、流通等の担当者、創薬・創剤研究者・技術者、教育関係者等、極めて多岐にわたることとなり、「時代を先取りした我が国有数の医療系総合大学に発展させる」という大学統合の趣旨・目的に更なる多様性を持たせるとともに、多様な薬学関連領域における薬学出身者の活躍を促してきたこれまでの実績に基づく、大阪薬科大学から続く薬学教育の特色と言えるものである。

#### (4) 統合後の大学の建学の精神、教育上の理念、目的、養成する人材像等

建学の精神及び学是、並びに大学の理念及び目的は、大阪医科大学及び大阪薬科大学それぞれの精神を受け継ぎ、融合・発展させた次の内容である。

##### ①建学の精神及び学是

建学の精神と学是は以下の通りである。

###### 建学の精神

『医療人育成機関の使命は、教育と研究であり、またこれらは医療の実践に活かすことで達成される』

大阪医科大学の前身となる大阪高等医学専門学校は、旧財団法人大阪高等医学専門学校を設立した吉津度（よしづわたる）の唱える「医育機関の使命は医学教育と医学研究であり、またその研究は実地の医療に活かすことで完成する。」との理念の下、卒業生が医人として「救世仁術」の域に達することを念じて、昭和2年に開設され、昭和27年には大阪医科大学となり、現在に至っています。大阪医科大学では、吉津度の唱えた『医育機関の使命は医学教育と医学研究であり、またその研究は実地の医療に活かすことで完成する。』を建学の精神としています。

大阪薬科大学の前身となる大阪道修薬学校は、薬業界の創始期にあった明治37年に、薬種商、売薬業者、製薬業者の社員に広く薬学学修の機会を与えるという使命を担って建学されました。その後我が国最初の女子薬専となる帝国女子薬学専門学校へと引き継がれ、昭和25年には男女共学の大阪薬科大学となり現在に至っています。こうした歴史と伝統を受け継ぎ大阪薬科大学は、『自助自立した精神を涵養し、深く薬学の知識を授けることにより、豊かな人間性を備えた薬剤師・薬学人を養成し、もって人類の福祉と文

化の向上に寄与する』ことを建学の精神としています。

大阪医科薬科大学の設立に当たっては、この双方の建学の精神を受け継ぎながら、『医療人育成機関の使命は、教育と研究であり、またこれらは医療の実践に活かすことで達成される』を建学の精神と定め、医薬看を持つ医療系総合大学として、広く医療人の育成を使命とすることとし、教育と研究双方の実践、臨床現場における実務教育の充実、多職種連携教育の強化を目指すこととしています。

## 学是

### 『至誠仁術』

至誠とは孟子の「至誠にして動かざる者は、未だ之れ有らざるなり」に由来しています。

「至誠仁術」には「誠実」、「医学・薬学・看護学教育」、「医学・薬学・看護学研究」、「実地医療」、「国際化」といった5つのキーワードが込められています。

吉津度の唱える「救世仁術」における「救世」は、豊かな人間性に基づくもので、人格として最高の表現とされる「integrity（誠実性）」に共通すると考えられます。この「integrity」の持つ崇高な人間性は、孟子の「是の故に誠は、天の道なり。誠を思うは、人の道なり。至誠にして動かざる者、未だ之れ有らず。誠あらざれば、未だ能く動かす者有らず。」における「至誠」に相当、或いは共通すると考えられます。

## ②理念

大学の理念は以下の通りであり、学則に明示する。

### 大学の理念

建学の精神及び学是（至誠仁術）に基づき、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、人間性豊かで創造性に富み人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人を育成する。

## ③大学の目的

大学の目的は以下の通りであり、学則に明示する。

### 大学の目的

大学の理念に基づき、豊かな人間性と国際的視野を備えた次の人材を育成することを目的とする。

(1) 人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努

める人材

- (2) 変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材
- (3) 地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探究心を持って活躍する人材

#### ④薬学部薬学科・薬科学科の目的及び養成する人材像

大学の理念及び目的を実現するため、設置する薬学部の教育上の目的を以下の通り定め、養成する人材像を明確にする。薬学科の目的は薬学部規程に、薬科学科の目的は薬科学科規程に明示する。

##### 薬学部薬学科の目的

- (1) 生命の尊厳と人権の尊重を基本に、人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を育成する。
- (2) 多様な人材と共同し、薬学や医療の分野で国際的に通用する新しい知識や技術を創造できる能力を育成する。
- (3) 科学的知識と倫理的判断に基づき、薬学に関する専門知識、情報や技術を効果的に活用した医療が実践できる能力を育成する。
- (4) 薬剤師として地域社会の特性を学び、多職種と連携し協働してさまざまな健康課題に取り組むことができる能力を育成する。
- (5) 薬剤師として専門能力と教育能力を自律的に探求し、継続的に発展させる基本的姿勢を育成する。

##### 薬学部薬科学科の目的

健康、生命に関する有機的・総合的な知識を持つとともに、応用力、研究力を身に付けた薬学を基盤とする多様な分野で活躍できる人材の養成を目的とする。

なお、薬学科の目的は、大阪薬科大学薬学部薬学科の目的を踏襲するとともに、統合後の大学の目的との関連や他学部の目的の表現等を踏まえ整理したものである。薬学科については、薬剤師の養成が主目的であり、6年制薬学教育が準拠すべき「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年12月25日）」において明示された「薬剤師として求められる基本的な資質」を全て踏まえた内容として、社会が薬剤師に求める臨床に係る実践的な能力と医療人としての自負並びに倫理感を併せ持つ人材の養成について示している。

一方、薬科学科については、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおり、学生募集停止を継続したまま設置する学科であるため、大阪薬科大学薬学部薬科学科の目的から一切の変更はない。大学院進学を踏まえた薬学研究者・技術者等の養成が主目的であり、基礎薬学分野における多様な人材の養成について示している。

## ⑤学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

薬学部薬学科・薬科学科の目的に基づく学修成果の目標として、以下のとおり学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定める。これらのディプロマ・ポリシーについても、大阪薬科大学薬学部における内容を踏襲するものであり、また、人材養成の目的との関連性や薬学科においては「薬剤師として求められる基本的な資質」を踏まえた内容として、卒業時まで学生が身に付けておくべき能力の目標を明示する。このディプロマ・ポリシーを起点として大学に求められる教育の質の保証にこれまで同様に対応していく。

### 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

#### 【薬学科】

薬学科において、必要な所定の単位を修得し、以下の資質と能力を有した学生に対して卒業を認定し、「学士（薬学）」を授与します。

1. 医療人として相応しい倫理観と社会性を有していること。
2. 国際化に対応できる基礎的な語学力を有していること。
3. 薬の専門家として必要な幅広い科学的知識・技能・態度を有していること。
4. 薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度を有していること。
5. チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度を有していること。
6. 薬の専門家に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること。
7. 地域における必要な情報を適切に発信し、人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有していること。
8. 薬学・医療の進歩に対応するために自己研鑽し、次なる人材を育成する意欲と態度を有していること。
9. 薬学・医療の進歩と改善に役立つ研究を遂行する意欲と科学的根拠・研究に基づく問題発見・解決能力を有していること。

#### 【薬科学科】

薬科学科において、必要な所定の単位を修得し、以下の資質と能力を有した学生に対して卒業を認定し、「学士（薬科学）」を授与します。

1. 医療に関わるために必要な倫理性と社会性を身に付けていること。
2. 国際化に対応できる基礎的な語学力を有していること。

3. 創薬研究などに必要な基礎的知識と技能・態度を有していること。
4. 科学的な課題を探求し、解決する能力を有していること。
5. 研究者に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること。

## (5) 研究対象とする学問分野

設置する薬学部薬学科・薬科学科が研究対象とする中心的な学問分野は、「薬学」である。

## 2. 学部・学科等の特色

設置する薬学部は、大阪薬科大学薬学部としてこれまでより、薬剤師をはじめ、薬学技術者、研究者、教育関係者、行政関係者、その他多様な人材を養成・育成することにより、長く社会に貢献してきた。特に薬学科においては、日進月歩の医療の進歩と医薬分業の進展の中で、薬剤師がその役割を十分果し得るよう豊かな教養と確かな薬学の基礎学力を身に付けさせるとともに、医療薬学領域の知識を広く修得させ、その上で実務に関する十分な実践的教育を行うことに重点を置き、病院・薬局の医療の場で活動するものに対する社会の要請に応え得る知識、技能、心構えの充実した、患者や医療チームの構成員から薬の専門家として信頼される薬剤師の養成にあたってきた。設置する薬学科では、大阪薬科大学薬学部薬学科で展開してきたこのような特色を踏襲し、薬剤師に求められる職能の高度化・複雑化に対応できる人材を輩出する教育を実践する。また、我が国の課題である「多職種が連携するチーム医療に貢献できる良質な医療従事者の養成」に対応すべく、大学統合により医学部・薬学部・看護学部の専門職連携教育（IPE）のさらなる発展・深化を目指し、他の医療従事者等とのチーム医療に参画できる質の高い薬剤師を養成する。このことから、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえた上で、「高度専門職業人養成」に比重を置く取組みを特色とし、もって社会に貢献する。

一方、平成30年度より学生募集を停止している薬科学科では、企業や教育機関、各種薬学関連研究所等における研究者、技術者、教育関係者、その他薬学を基盤とする多様な分野で活躍する人材の養成を目的としているため、卒後大学院博士前期課程における教育・研究への連繋も可能とすべく構築し、「薬学専門教育」を中心として薬学の基礎知識及び薬の物性と構造、反応などについて展開してきた。この薬科学科については、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおり、学生の権利保証のため、学生募集停止を継続したまま設置する学科であり、在籍する又は進級する権利を有する学生がいなくなり次第廃止することとするが、廃止するまではこのような特色を踏襲する。

### 3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

組織として研究対象とする中心的な学問分野及び人材養成の目的を反映する最も相応しい名称として、学部・学科・学位の名称は次のとおりとする。

また、これらの英訳名称については、国際的な通用性に留意して次のとおりとする。

学部の名称：薬学部「Faculty of Pharmacy」

学科の名称：薬学科「Division of Pharmacy」

薬科学科「Division of Pharmaceutical Sciences」

学位の名称：学士（薬学）「Bachelor of Pharmacy」

学士（薬科学）「Bachelor of Pharmaceutical Sciences」

### 4. 教育課程の編成の考え方及び特色

#### (1) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成・実施にあたっては、内部質保証を念頭に「卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針」の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）を踏まえた3つのポリシーの一体的な策定を基本とする。また、「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年12月25日）」に準拠し、「薬剤師として求められる基本的な資質」を達成するための一般目標（GIO）と到達目標（SBO）に基づく学習成果基盤型教育を行う。

これらの前提を踏まえ、人材養成の目的の実現やディプロマ・ポリシーに掲げる内容の達成のため、設置する薬学部薬学科・薬科学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のとおり定める。なお、このカリキュラム・ポリシーについても、ディプロマ・ポリシーと同様に大阪薬科大学薬学部における内容を踏襲するものである。

#### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

##### 【薬学科】

薬学科では、薬に対する幅広い知識を持つとともに、医療人に相応しい、高い実践能力と研究力、倫理観と使命感を併せ持つ、社会に貢献できる質の高い薬剤師の養成を目的とし、以下のカリキュラムを編成しています。

##### 1. 基礎教育・ヒューマニズム教育

薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と医療人に相応しい倫理観と社会性、及びコミュ

コミュニケーション能力の基本を身に付けます。

## 2. 語学教育

国際化に対応できる語学力を養います。

## 3. 薬学専門教育

「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基本とした、薬物に関する幅広い科学的知識を修得します。

## 4. 医療薬学教育

薬の専門家として患者や医療チームから信頼される薬剤師を養成します。また、薬剤師として必要な知識・技能及び態度を修得するために、病院と薬局において参加型実務実習を行い、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力及び生涯にわたる自己研鑽力と次世代を担う人材を育成する意欲と態度の必要性を体得します。さらに、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を養います。

## 5. 実習科目

講義で得た知識に基づいて、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力を醸成するために、4年次から研究室に所属し卒業研究を行います。

### 【薬科学科】

薬科学科では、健康、生命に関する有機的・総合的な知識を持つとともに、応用力、研究力を身に付けた薬学を基盤とする多様な分野で活躍できる人材の養成を目的とし、以下のカリキュラムを編成しています。

### 1. 基礎教育・ヒューマニズム教育

薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と、医療の担い手に相応しい倫理性と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けます。

### 2. 語学教育

国際化に対応できる語学力を養います。

### 3. 薬学専門教育

薬学の基礎知識及び薬の物性と構造、反応などの知識について体系的に修得します。

### 4. 実習科目

講義で得た知識に基づき、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力及びプレゼンテーション能力を醸成するために研究室に所属し卒業研究を行います。

このカリキュラム・ポリシーに加え、学修成果を把握し評価するための学修成果・評価の方針（アセスメント・ポリシー）を別に策定している。【資料1：薬学部 学修成果評価の方針（アセスメント・ポリシー）】



## (2) 教育課程の編成とその体系及び特色

### ＜薬学部薬学科＞

カリキュラム・ポリシーにて柱立てた方針内容に基づき、教育課程を編成するものとするが、より体系的な編成のために教育内容に応じてさらに区分する。具体的には、「基礎教育・ヒューマニズム教育」においては「教育系」「薬学と社会」の2系統、「語学教育」においては「教育系」の1系統、「薬学専門教育」においては「物理系」「有機系」「生物系」の3系統、「医療薬学教育」においては「医療系」「薬学臨床系」「薬学と社会」「総合」の4系統に整理・区分する。また、「実習科目」においては「薬学専門教育」「医療薬学教育」を横断させ、最終的には卒業研究である「特別演習・実習」と繋がるように編成するものとする。このように整理する系統毎に、授業科目は「基礎教育科目」「基礎薬学科目」「応用薬学科目」「医療薬学科目」「実習科目」に区分して配置することをもって、臨床への対応を念頭に置き、基礎教育から応用教育へと進展・深化させる体系的な教育課程の編成を図る。

なお、下述のとおり、カリキュラム・ポリシー及びこれら科目区分に沿った教育課程の編成とその体系について記載するが、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー及び体系を整理するための科目区分との関連において「どの学年次にどの授業科目を配置するか」を示す「カリキュラム・マップ」を策定しているので、併せて参照願いたい。【資料2：薬学科カリキュラムマップ】

### ①基礎教育・ヒューマニズム教育、語学教育の編成

この区分においては、カリキュラム・ポリシーに掲げるとおり、薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と医療人に相応しい倫理観と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けさせるとともに、国際化に対応できる語学力を養うための教育課程を編成する。

「基礎教育・ヒューマニズム教育」では、「教育系：基礎教育科目」の区分において1年次に薬学専門教育への準備学習を行うための科目として、「物理学1、2（必修）」「化学（必修）」「生物学（必修）」「数学1、2（必修）」、大学での多様な学びを進めるための基本的姿勢を修得させる科目として、「アカデミックスキル（必修）」を配置する。加えて、専門性がより高い薬学専門教育や医療統計に繋げるための準備学習科目として2年次に「数理統計学（必修）」を配置する。

また、「薬学と社会：基礎薬学科目」の区分において1年次に医療と社会における薬学・医学の役割や薬剤師の使命を理解させる科目として「薬学入門（必修）」や、「薬学と社会：医療薬学科目」の区分において1年次に入学後の早い段階で病院や薬局などの医療施設等の現場を見学体験させて薬学を学ぶモチベーションを高める科目として「早期体験学習（必

修)」とともに、医療に関わる専門職種の役割・機能や医療人として相応しい態度を自覚させる科目として医学部と看護学部合同で実施する「医療人マインド（必修）」を配置することをもって、医療人に相応しい倫理観や社会性、コミュニケーション能力の基本を身に付けさせる。加えて、「薬学と社会：基礎薬学科目」と「薬学と社会：医療薬学科目」の区分において2年次に「医療心理学（必修）」、3年次に「生命医療倫理（必修）」「医療と法（必修）」、4年次に「コミュニケーション（必修）」「キャリアデザイン概論（必修）」「医療政策論（選択）」を配置し、医療人として相応しい責任感や倫理観、様々な立場の人や多職種との間で行う情報収集と提供のためのコミュニケーション能力と薬学人としての職業観の修得を図る。

その他教養を深めるため、「教育系：基礎教育科目」の区分において1年次から2年次に「文学の世界（選択）」を始めとした複数の教養科目や、「薬学と社会：基礎薬学科目」の区分において2年次に医学・工学・看護学・薬学の学際領域を学ぶ「医工薬連環科学（選択）」を配置する。

また、グループワーク主体の授業方法と学部間の学生数の違いから現時点では選択科目ではあるが、医学部と看護学部合同で実施する授業科目を配置する。具体的には、「薬学と社会：医療薬学科目」の区分において2年次に「専門職連携医療論（選択）」、実務実習を経た6年次に「多職種融合（連携）ゼミ（選択）」を配置し、チーム医療に参画できる質の高い薬剤師の育成に資するための体系化を図る。この専門職連携教育（IPE）については、大学統合を機にさらに拡充を進め、医療薬学教育との繋がりを強化させる。

「語学教育」では、「教育系：基礎教育科目」の区分において1年次に「英語リスニング1、2（必修）」「英語リーディング1、2（必修）」、2年次に「英語スピーキング1、2（必修）」「英語ライティング1、2（必修）」といった科目を配置し、英語の4技能をバランスよく養成できるようにしているほか、3年次には英文講読を通じて異文化理解を深めるための「異文化言語演習1、2（必修）」、「教育系：応用薬学科目」の区分において4年次に薬学の研究分野で必要となる英文講読の知識と技能を修得するための「薬学英语（必修）」を配置し、段階を踏んで英語能力を高められるよう体系化する。その他「教育系：基礎教育科目」の区分において1年次では「ドイツ語1、2（選択必修）」「中国語1、2（選択必修）」「ハンダール1、2（選択必修）」を配置し、いずれかの第二外国語を履修させることをもって、国際化・多様化する社会への対応を図る。

## ②薬学専門教育の編成

この区分においては、カリキュラム・ポリシーに掲げるとおり、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基本とした、薬物に関する幅広い科学的知識を修得させるための教育課

程を編成する。なお、この区分におけるモデル・コアカリキュラムへの対応は、【C 薬学基礎：物理、化学、生物】【D 衛生薬学】が該当する。

「物理系：基礎薬学科目」の区分において1年次から2年次に「物理化学1、2、3（必修）」「分析化学1、2（必修）」「生物無機化学（必修）」、3年次に「放射化学（必修）」を配置し、医薬品を含む化学物質を構成する原子、分子の性質や挙動を司る基本的な原理、医薬品を含む化学物質の分析法の基本的な事項、放射線の測定原理を修得する。「物理系：応用薬学科目」の区分においては3年次に「応用分析学（必修）」を配置し、電気化学分析、生物学分析を中心に応用的な分析法を学べるようにしているほか、アドバンストの選択科目として「応用放射化学（選択）」、4年次に「生物物理化学（選択）」を配置する。

次いで、「有機系：基礎薬学科目」の区分において1年次から3年次に「基礎有機化学（必修）」「有機化学1、2、3（必修）」「有機スペクトル学演習（必修）」、4年次に「有機化学4（必修）」を配置し、代表的な有機化合物の構造、性質、反応、分離法、構造決定法、及び無機化合物の構造と性質に関する基本的事項を修得する。また、「有機系：応用薬学科目」の区分において1年次から2年次に「薬用植物学（必修）」「薬用天然物化学（必修）」「生薬学（必修）」を配置し、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用及び天然生物活性物質の単離、構造、物性、作用等に関する事項を修得する。これらに並行して3年次から4年次に「医薬品化学1（必修）」「医薬品化学2（必修）」を配置し、医薬品の生体内での作用を化学的に理解できるようになるために、医薬品標的及び医薬品の構造と性質、生体反応の科学に関する事項を修得する。また、アドバンストの選択科目として4年次に「精密有機合成化学（選択）」を配置する。

「生物系：基礎薬学科目」の区分において1年次から2年次に「基礎細胞生物学（必修）」「生化学1、2（必修）」「分子生物学（必修）」、2年次から3年次に「微生物学（必修）」「免疫学（必修）」、「生物系：応用薬学科目」の区分において2年次から3年次に「衛生薬学1、2、3（必修）」「分子細胞生物学（必修）」「病原微生物学（必修）」を配置し、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項、健康と環境に関する基本的事項、人体の構造、機能、調節に関する基本的事項、免疫反応による生体防御機構とその破綻、及び代表的な病原微生物に関する基本的事項を修得する。また4年次にアドバンストの選択科目として「先端分子医科学（選択）」を配置する。

このように、「物理系」「有機系」「生物系」における科目の配置をもって、系統毎に基礎薬学から応用薬学へと段階的な能力の養成を図るとともに、上位学年次においては学生各自の興味関心に応じてさらに深く学べるよう選択科目が配置されている。また、これらの授業科目により得た専門知識の発展を図り、技能・態度の修得へと繋げるため、1年次に「基礎有機化学実習（必修）」、2年次に「分析化学実習（必修）」「物理化学実習（必修）」「漢方・生薬学実習（必修）」「生物学実習（必修）」、3年次に「有機化学実習（必修）」「生物科学実

習（必修）」「衛生薬学・放射化学実習（必修）」を配置することをもって効果的な教育課程の体系化を図る。

### ③医療薬学教育の編成

この区分においては、カリキュラム・ポリシーに掲げるとおり、薬の専門家として患者や医療チームから信頼される薬剤師を養成するための医療系科目、薬剤師として必要な知識・技能及び態度を修得するための病院・薬局参加型実務実習並びにこれに繋げていく実務実習事前学習科目等の薬学臨床系科目をもって編成する。

「医療系：基礎薬学科目」の区分において1年次から2年次に人体の仕組みを理解させるための科目として「機能形態学1、2（必修）」や、「医療系：医療薬学科目」の区分において1年次に医療現場で使用されている様々な技能・手技等に実際に触れさせる科目「臨床薬学導入学習（必修）」を配置する。これに加え、上述の「薬学専門教育科目」の履修と繋げて「医療系：応用薬学科目」として2年次に「基礎漢方薬学（必修）」、3年次に「物理薬剤学（必修）」を配置する。

また、「医療系：医療薬学科目」の区分において2年次から3年次に薬剤学と薬理学の修得に係る科目として「薬理学1、2、3、4（必修）」「生物薬剤学1、2（必修）」「薬物速度論（必修）」「製剤設計学（必修）」を配置する。これらに並行して、2年次から4年次に代表疾患についての薬物治療や医療現場での感染症について学ぶ科目として「薬物治療学1、2、3、4、5（必修）」「臨床感染症学（必修）」を配置するとともに、これらの授業科目により得た専門知識の発展を図り、技能・態度の修得へと繋げるため、3年次に「薬剤学実習（必修）」「薬理学実習（必修）」を配置することをもって効果的な教育課程の体系化を図るものとする。加えて、3年次に「臨床化学（選択）」、4年次に「医薬品安全性学（選択）」「アドバンスト薬物治療学」、6年次に「漢方医学概論（選択）」「アドバンスト薬理学（選択）」を配置し、学生各自の興味関心に応じてさらに深く学べるよう選択科目が用意されている。

「薬学臨床系：医療薬学科目」の区分において3年次に「臨床薬学概論（必修）」「医薬品情報学（必修）」、4年次に「臨床導入学習1、2（必修）」「個別化医療（必修）」「コミュニティファーマシー（必修）」を配置し、これまでの基礎教育から応用教育並びに医療教育の進展を経て、実務実習事前学習として5年次の病院・薬局での参加型実務実習を迎えるに必要となる知識、技能、態度の修得を図るほか、アドバンストの必修科目として「臨床薬物動態学」を配置し、科学的根拠に基づいた薬物治療の個別化や、最適な薬物投与計画の立案に必要な基礎理論を修得させる。「薬学臨床系：応用薬学科目」の区分においては、4年次に「医療統計学（必修）」を配置し、これまでに得た知識や技能を臨床現場における統計に活用するための知識を修得させる。

前述の実務実習準備教育を経て薬学共用試験（CBT、OSCE）に合格した学生を対象に、5年次において「病院実務実習（必修）」「薬局実務実習（必修）」を履修させ、実際の臨床現場で薬剤師等の医療人から実務的指導を受け、また、協働させることをもってこれまでに得た知識、技能、態度を深化させ、さらにコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上、薬剤師としての自己研鑽や人材育成の必要性を体得させる。なお、これらの実務実習については、「薬学実務実習に関するガイドライン（平成27年 2月10日薬学実務実習に関する連絡会）」に基づき適切に実施する。

「薬学と社会：医療薬学科目」の区分において4年次に「薬事関連法・制度（必修）」「社会保障論（必修）」を配置し、医療人・薬剤師として必要な法規や制度について修得させるとともに、並行する実務実習事前教育や5年次における病院・薬局での参加型実務実習に繋げる。

「総合：医療薬学科目」の区分において4年次に「薬学基礎演習（必修）」を配置し、実務実習の実施に向けた知識の総括を行う。また、4年次から6年次に「統合薬学演習（必修）」を配置し、実務実習で学んだ経験を含めた5年次までの学修成果を活かして、コアカリス示される代表的8疾患について分野横断的に症例検討することにより、様々な専門科目により修得した知識・技能・態度を統合したものとし、医療において薬の専門家としての役割を十分に果たせるまでに醸成させる。さらに6年次に「薬学総合演習（必修）」を配置し、卒業して薬剤師となるために必要な知識や技能、総合的判断力が備わっているかどうかについての総確認を行う。

最後に、「総合：実習科目」の区分において4年次から6年次に卒業研究科目である「特別演習・実習」を配置する。この卒業研究では、学生を研究室に所属させ研究テーマに沿った研究活動を指導する。研究指導に基づき研究活動を実践させることにより、科学的根拠に基づく研究遂行能力の養成及びこれまでに得た知識、技能、態度を向上・深化させて問題発見・解決能力、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の醸成を図る。

### <薬学部薬科学科>

カリキュラム・ポリシーに示された方針に基づいた教育課程が編成されている。具体的には、「基礎教育・ヒューマニズム教育」「語学教育」及び「薬学専門教育」の区分を中心に編成し、「薬学専門教育」の授業で得た知識に基づき研究活動に必要な技能・態度を身に付けるための「実習科目」を置き、最終的には卒業研究である「特別演習・実習」へ繋がるように編成するものとする。このように整理した下で、授業科目は「基礎教育科目」「基礎薬学科目」「応用薬学科目」「医療薬学科目」「実習科目」に区分して配置することをもって、基礎教育から応用教育へと進展・深化させる体系的な教育課程の編成を図る。

なお、薬科学科については、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおり、学生の権利保証のため、学生募集停止を継続したまま設置する学科である。教育課程については、大阪薬科大学薬学部薬学科の旧教育課程の1年次から3年次までを学部共通としており、4年次の教育課程のみが独自のものとなる。また、薬科学科の教育課程は、薬学研究科薬科学専攻博士前期課程への進学を前提として設定されている。

下述のとおり、カリキュラム・ポリシー及びこれら科目区分に沿った教育課程の編成とその体系について記載するが、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー及び体系を整理するための科目区分との関連において「どの学年次にどの授業科目を配置するか」を示す「カリキュラム・マップ」を策定しているため、併せて参照願いたい。【資料3：薬科学科カリキュラムマップ】

### ①基礎教育・ヒューマニズム教育、語学教育の編成

この区分においては、カリキュラム・ポリシーに示すとおり、薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と医療の担い手に相応しい倫理観と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けさせるとともに、国際化に対応できる語学力を養うための教育課程を編成する。

「基礎教育・ヒューマニズム教育」では、「基礎教育科目」の区分において1年次に「物理学1、2（必修）」「化学、化学演習（必修）」「数学1、2（必修）」などの薬学専門教育への準備学習を行うための科目、「情報科学演習（必修）」「情報科学（選択）」などの大学での学びに不可欠な情報リテラシー等を修得させる科目を配置する。加えて、専門性がより高い薬学専門教育の準備学習科目として2年次に「数理統計学（必修）」を配置する。

また、「基礎薬学科目」の区分において1年次に医療と社会における薬学・医学の役割や薬剤師の使命を理解させる科目として「薬学入門（必修）」や、「医療薬学科目」の区分において1年次に「早期体験学習1（必修）」を配置し、入学後の早い段階で病院や薬局などの医療施設等の現場を見学体験させて薬学を学ぶモチベーションを高める。加えて、「基礎教育科目」の区分において2年次に「心理社会（必修）」、3年次に「コミュニケーション（必修）」や「医療と法（必修）」を配置し、医療人として相応しい責任感や倫理観、様々な立場の人とのコミュニケーション能力の修得を図る。

その他教養を深めるため、1年次から2年次に「文学の世界（選択）」を始めとした複数の教養科目や、2年次に医学・工学・看護学・薬学の学際領域を学ぶ「医工薬連環科学（選択）」を配置する。

「語学教育」では、「基礎教育科目」の区分において1年次に「英語リスニング1、2（必修）」「英語リーディング1、2（必修）」、2年次に「英語スピーキング1、2（必修）」「英語ライティング1、2（必修）」を配置し、英語の4技能をバランスよく修得できるようにしているほか、3年次には英文講読を通じて異文化理解を深めるための「異文化言語演習1、2

（必修）」を開講し、段階を踏んで英語能力を高められるよう工夫されている。その他1年次では「ドイツ語1、2（選択必修）」「中国語1、2（選択必修）」「ハングル1、2（選択必修）」を配置し、いずれかの第二外国語を履修させることをもって、国際化・多様化する社会への対応を図る。

## ②薬学専門教育の編成

この区分においては、カリキュラム・ポリシーに示すとおり、薬学の基礎知識及び薬の物性と構造、反応などの知識について体系的に修得させるための教育課程を編成する。なお、この区分が薬科学科の教育課程の中心となる。

まず「基礎教育科目」の区分においては、1年次に「基礎有機化学（必修）」「生物学（必修）」を配置し、本格的な薬学専門教育への準備学習を実施した上で、「基礎薬学科目」の区分において、薬学に必要な「物理」「化学」「生物」の基本的な知識を修得するための科目を配置する。具体的には、「物理」に関しては1年次から2年次に「物理化学1、2、3（必修）」「分析化学1、2（必修）」「生物無機化学（必修）」、3年次に「放射化学（必修）」を配置し、医薬品を含む化学物質を構成する原子、分子の性質や挙動を司る基本的な原理、医薬品を含む化学物質の分析法の基本的な事項、及び放射線の測定原理を修得する。また、「化学」に関しては1年次から3年次に「有機化学1、2、3、4（必修）」「有機スペクトル学解析学（必修）」を配置し、代表的な有機化合物の構造、性質、反応、分離法、構造決定法、及び無機化合物の構造と性質に関する基本的事項を修得する。さらに、「生物」に関しては1から2年次に「基礎細胞生物学（必修）」「生化学1、2、3（必修）」「機能形態学1、2（必修）」、2年次から3年次に「微生物学（必修）」「免疫学（必修）」を配置し、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項、人体の構造、機能、調節に関する基本的事項、免疫反応による生体防御機構とその破綻に関する基本的事項を修得する。

「応用薬学科目」の区分では「物理」「化学」「生物」の応用的な内容を取り扱い、この区分が薬科学科においては教育課程の中心的な役割を担う。「物理」に関しては、3年次に電気化学分析法、生物学的分析法について学ぶ「応用分析学（必修）」、製剤学を学ぶために必要な物理化学的知識を修得するための「物理製剤学（必修）」を配置する。4年次には薬科学科独自の必修科目として、新薬開発における標的分子となるタンパク質の構造と機能を理解し、タンパク質の構造に基づいた分子設計を学ぶ「分子設計学（必修）」を配置する。アドバンストの選択科目としては3年次に「応用放射化学（選択）」、4年次に「生物物理化学（選択）」を配置する。「化学」に関しては、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用及び天然生物活性物質の単離、構造、物性、作用等に関する基本的事項を修得するために1年次から3年次に「生薬学（必修）」「基礎漢方薬学（必修）」「薬用天然物化学1、2（必修）」

を配置するほか、3年次に実際に臨床で使用されている医薬品の化学合成法について学ぶ「合成化学（必修）」を配置する。アドバンストの選択科目としては4年次に「医薬品化学（選択）」「薬品合成化学（選択）」を配置する。「生物」に関しては、2年次から3年次に「衛生薬学1、2、3、4（必修）」を配置し、現代社会における健康と環境について修得する。また、2年次に代表的な病原微生物について学ぶ「病原微生物学（必修）」、3年次に生命現象を細胞・分子レベルで理解するための「分子細胞生物学（必修）」、ゲノム情報を理解するために必要とされる分子生物学的知識を修得するための「ゲノム医科学（必修）」を配置する。4年次には薬科学科独自の必修科目である「バイオインフォマティクス（必修）」を配置し、医薬品の開発や研究に必要な生体分子の構造や機能に関して、それらの情報や解析などに関する基本的知識、技能、態度を修得させる。また、その他3年次には統計学に関する授業科目として、統計手法の正しい適用及び統計学による医療への展開について修得するための「医療統計学（必修）」を配置する。

「医療薬学科目」の区分では、薬理、病態、薬物治療、医薬品情報、患者情報、薬物動態、及び製剤に関する分野の内容を扱う。1年次には「人体の構造と病態1、2（必修）」、医療現場での手技等を体験する「早期体験学習2」、2年次から3年次には生体内での薬物動態について学ぶ「生物薬剤学1、2（必修）」「薬物動態解析学（必修）」、医薬品の薬理作用について学ぶ「薬理学1、2、3（必修）」、薬物治療の実際について学ぶ「薬物治療学1、2、3、4（必修）」、疾患の発症と進展機構を細胞及び分子レベルで学ぶ「病態生化学（必修）」、製剤化のサイエンスについて学ぶ「製剤学（必修）」、医薬品情報の取扱いについて学ぶ「医薬品情報学」を配置する。4年次にはアドバンストの選択科目として「薬理学4（選択）」を配置する。

以上の講義演習科目で得た知識を踏まえ、各学年に配置されている実習科目により必要な技能、態度を身に付ける編成となっている。総合的な学修成果は、4年次に配置する「特別演習・実習（前期）」「特別演習・実習（後期）」により卒業論文として仕上げていく。この卒業研究では、学生は研究室に所属し、研究テーマに沿った研究活動を行う。研究活動を行うことにより、科学的根拠に基づく研究遂行能力の養成、また、これまでに得た知識、技能、態度を向上・深化させて問題発見・解決能力、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の醸成を図る。

### （3）大阪薬科大学薬学部からの教育課程の変更状況

大阪薬科大学の組織及び教育課程等は全て大阪薬科大学より大阪医科大学へ承継することとしている。このように、大学統合に係る組織の移行であることを踏まえ、設置する薬学部の教育課程は大阪薬科大学薬学部の教育課程を踏襲して編成することを基本とし、教育の質の同一性を保持する。なお、この度の大学統合に係る組織設置にあたり、薬学部薬



学科の教育課程については単位数の整数化やこれに伴う授業科目の統廃合、開講科目の充実等の改善を趣旨とする若干の変更を行うが、これまでの大阪薬科大学薬学部薬学科において実施する教育課程からの抜本的な内容変更ではない。

また、薬学部薬科学科については、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載しており、学生募集停止を継続したまま設置するため、大阪薬科大学薬学部薬科学科において実施する教育課程からの変更は一切ない。【資料4：設置時からの教育課程の変更状況】

## 5. 教員組織の編成の考え方及び特色

### (1) 教員組織の編成の考え方と概要

設置する薬学部は、薬学科・薬科学科の目的の達成と、それぞれの教育課程の遂行及び高度な研究を推進するために、基礎薬学並びに臨床・医療薬学領域における十分な教育経験と研究能力を備えた教員と、薬剤師実務において豊富な実践力を有する実務家教員（臨床系教員）によって教員組織を編成する。

大阪薬科大学薬学部には、令和2年4月1日付にて採用予定の教員3名を含め、設置前年度には計87名の専任教員が在籍することとなる。そのうち、令和2年度末に3名が定年後の再雇用期間満了による退職を予定しており、これら3名の教員及び任期満了により退職する現大阪薬科大学学長1名を除いた計83名が設置する薬学部へ異動し、教員組織を構成する。

専任教員83名のうち、薬学部薬学科には76名の専任教員（うち教授26人）を配置する。これは、薬学科の収容定員1,764名に対し、大学設置基準が定める専任教員数40名（うち教授20名）という基準を満たしている。なお、薬学科の専任教員は、併せて設置する薬科学科（募集停止）の兼任教員となる。

一方、大阪薬科大学からの募集停止を継続しつつ設置する薬学部薬科学科には、7名の専任教員（うち教授4名）を配置する。これは、薬科学科の収容定員2名に対し、大学設置基準が定める専任教員数7名（うち教授4名）という基準を満たしている。薬科学科の設置に至る経緯や収容定員の考え方等については前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載しておりである。なお、薬科学科の専任教員も同様に、薬学科の兼任教員となることで、両学科のシームレスな連携により、薬学部全体の教員組織の充実を図ることとする。

また、薬学科を構成する専任教員76名のうち実務家教員（臨床系教員）は11名であり「薬学部における教員（実務家教員を含む）に関する基準」が定める実務家教員数6名という基準を満たしている。

専任教員は、原則として大阪薬科大学で担当している授業科目を引き継ぎ、主に教育課程等の概要で示した「基礎薬学科目」、「応用薬学科目」、「医療薬学科目」及び実習科目を

担当する。特に、「応用薬学科目」及び「医療薬学科目」のコアとなる必修科目については主に専任教員の教授あるいは准教授が担当する。また、「基礎教育科目」については、専任教員の他、主に兼担・兼任教員が担当する。

薬学部の教員組織は、6つの専門研究領域の中に20の研究室と3つのセンター（臨床薬学教育研究センター、薬学教育研究センター、生涯学習センター）及び附属施設である共同研究センターを構成する「RI研究施設」「中央機器研究施設」や「三大学医工薬連環科学教育研究機構」に専任教員を配置することをもって編成する。

各研究室は、原則として教授を研究室責任者として計3名のスタッフにより運営しており、組織の改編、教員の退職等によりスタッフが3名に満たない研究室は、将来的な教員組織構想や人事構想を踏まえつつ、適切な人員補充等を行うこととする。

以下に、主要な6つの専門研究領域と、それぞれの教育研究体制を示す。

#### ①医療薬学領域

医療薬学領域は7つの研究室で構成され、教授6名、准教授3名、講師2名が配置されている。医療薬学領域の教員は、該当する専門領域である薬理学、医療薬学等についての科目を担当するほか、関連領域における研究を行う。また、助教7名、助手1名を配置することで実習科目の指導体制を整えている。

#### ②薬学臨床領域

薬学臨床領域は3つの研究室及び臨床薬学教育研究センターで構成され、教授11名（うち特任教授5名）、准教授4名、講師1名が配置されている。薬学臨床領域の教員の多くは臨床経験を有する実務家教員であり、該当する専門領域である薬剤学、製剤学についての科目を担当するほか、常に臨床との繋がりを意識した臨床研究を通して、質の高い薬剤師教育を行っている。また、助教4名、助手1名を配置することで実習科目の指導体制を整えている。

#### ③生物・予防薬学領域

生物・予防薬学領域は5つの研究室で構成され、教授3名、准教授5名、講師2名が配置されている。生物・予防薬学領域の教員は、該当する専門領域である衛生化学、微生物学、物理化学、生物化学についての科目を担当するほか、関連領域における研究を行う。また、助教3名を配置することで実習科目の指導体制を整えている。

#### ④創薬化学領域

創薬化学領域は5つの研究室で構成され、教授5名、准教授3名、講師1名が配置されている。創薬化学領域の教員は、該当する専門領域である有機化学、生薬化学・天然物化学等についての科目を担当するほか、関連領域における研究を行う。また、助教6名を配置することで実習科目の指導体制を整えている。

## ⑤薬学教育領域

薬学教育領域は2つのセンター（薬学教育研究センター、生涯学習センター）で構成され、教授3名、准教授2名、講師1名が配置されている。教員の専門領域は多岐にわたり、教員毎に専門領域に関連する科目を担当している。また、助教1名を配置することで実習科目の指導体制を整えている。薬学教育研究センターでは、アクティブ・ラーニングやICTを取り入れた効果の高い双方向性教育手法をセンター教員自ら積極的に実践しており、その評価や検証などの薬学教育研究及び学生の学修支援を行っている。生涯学習センターでは、薬剤師の生涯学習教育の提供及び研究を行っている。

## ⑥総合科学領域

総合科学領域は、言語文化学グループ、自然科学グループ、人間文化学グループ及び環境医療学グループの4分野で構成され、教授2名、准教授4名、講師1名が配されている。グループ毎に、例えば言語文化学グループの教員であれば、薬学関連の英語系科目等を担当し、医学・薬学領域における英語能力の向上や医療現場・医療研究の現場における医療英語の活用についての研究を行う。他のグループも同様に、その名称に示す教育を担い、また研究を実施する。

### （2）教員組織編成の特色

編成する専任教員83名（令和3年4月現在）のうち、博士の学位を有する者は77名、修士の学位を有する者は2名である。博士の学位を有する者のうち、48名が薬学博士、博士（薬学）又は博士（薬科学）である。いずれも、所属する部門・分野に関連する豊富な教育歴と研究業績、教育研究指導の能力を有している。

建学の精神、大学の理念、大学の目的、薬学部の目的に定めている通り、設置する薬学部では臨床現場で活躍できる医療人の育成を目指している。これを実現するため、11名の実務家教員を配置し、教育を行う。実務家教員は「医療薬学領域」に1名、「薬学臨床領域」の中核を担う臨床薬学教育研究センターに10名が所属している。これら、多くの実務家教員を配置する教員組織は、専門職連携教育（IPE）の強力な推進役となり、臨床現場から真に求められる質の高い薬剤師の輩出を目指す医療系総合大学として大きな特色と言える。

大阪薬科大学では、一部の実務家教員を臨床能力の維持、臨床教育・研究の推進のため週次で医療施設に派遣しており、大学統合後も引き続き派遣することとしている。現在の派遣施設は、「大阪医科大学附属病院」、「国立循環器病研究センター」、「神戸市立医療センター中央市民病院」、「京都府立医科大学附属病院」、「大阪医科大学関西 BNCT 共同医療センター」等である。

実例を挙げると、「国立循環器病研究センター」とは、教育・研究・医療に関わる交流等を促進するための包括協定を締結し、実務家教員を3名派遣し（延べ1名/日）、回診及びカンファレンスに参加するなど他の医療専門職種と協働して業務を行い、実務実習においても施設と共に教育指導を行うなど連携体制を整えている。また、「神戸市立医療センター中央市民病院」に派遣している実務家教員は、緩和ケアを含むがん治療などにおいてチーム医療を実践した業務を行い、その活動を通して教育研究に生かす試みを行っている。教育においては、「臨床導入学習1」、「臨床導入学習2」等の科目を担当し、高い実践力を備えた次世代の薬剤師の育成に努めており、今後もこれらの取組みを継続し、さらに充実させることとする。

### （3）教員配置と年齢構成

教員の年齢構成と学科毎の教員配置は、以下のとおりであり、完成年度において教育・研究水準の維持向上に支障がない構成となっている。なお、60歳代以上の世代が全体の20%を占め、50歳代以上では54%となることから、短期的には組織の活性化のため、長期的には組織の維持・向上のためにも、戦略的に有能な若手教員の採用を推進し、年齢構成等に配慮した適正な人員配置を実行していく。

【教員の年齢構成表（設置時）】

|     | 39歳以下 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～69歳 | 70歳以上 | 合計  |
|-----|-------|--------|--------|--------|-------|-----|
| 教授  | 0名    | 6名     | 11名    | 13名    | 0名    | 30名 |
| 准教授 | 0名    | 8名     | 10名    | 4名     | 0名    | 22名 |
| 講師  | 0名    | 3名     | 7名     | 0名     | 0名    | 10名 |
| 助教  | 17名   | 4名     | 0名     | 0名     | 0名    | 21名 |
| 合計  | 17名   | 21名    | 28名    | 17名    | 0名    | 83名 |

本学における専任教員の定年年齢は65歳であるが、定年年齢に達した専任教員については、「大阪医科薬科大学薬学部 定年退職規則」によって67歳まで嘱託教員として再雇用することができる。【資料5：大阪医科薬科大学薬学部 定年退職規則】

就任予定教員の中には、完成年度を迎える前に定年年齢に達する者及び定年後の嘱託教員として勤務する者も複数在籍することとなるため、薬学部及び薬学研究科での教育研究

を適切に実施することを目的に、上記の再雇用期間が終了した後も、理事長が法人（大学）の運営上特に必要と認めた者について、「大阪医科薬科大学薬学部 定年退職者の再任用に関する特例内規」により、完成年度を迎えるまでの間、67歳を超えて再任用できると定めており、教員組織の継続性の維持に努める。【資料6：大阪医科薬科大学薬学部 定年退職者の再任用に関する特例内規】

なお、専任教員に完成年度末までに定年年齢に達する者及び定年後の再雇用及び再任用期間を満了する者が一定数いること、また、教員組織の将来構想と有望な若手教員の育成や積極的な登用などを念頭に、完成後の教育研究水準の維持向上に努めるための中期的な計画を策定するとともに、毎年度、教員組織の編成に関する計画を策定し、同計画に基づき、教員の採用・昇任等の諸人事を遂行することとしている。

#### **（４）完成年度後の教員の採用計画**

設置時の就任予定教員83名のうち、薬学部完成年度末（令和8年度末）に定年年齢に達した後、嘱託教員としての再雇用期間及び嘱託後の再任用期間が満了となり退職する専任教員は、教授12名、准教授1名の計13名となる。

完成年度末に13名の専任教員が退職することに対応するため、先に述べた中期的な計画に基づき策定する教員組織の編成に関する年次計画により、完成年度末までの間に若手教員を中心に、公募による積極的な採用を行うとともに、昇任基準に基づき薬学部内の教員を後任者として昇任させる。これらの教員に対し、経験や実績を積んだ退職予定教員等からの引継ぎや教育研究に対する的確な助言等を綿密に行うことで、教育研究水準の維持向上に努めるとともに、教員組織の継続性を担保し、完成年度後においても設置時の専任教員数83名を維持する。

なお、これらの教員人事については、完成年度以降も教育研究水準の維持向上と、教員組織の活性化を目的に、前述の毎年度の計画に対する結果検証を踏まえ、継続して実施することとしている。

## **6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件**

### **（１）教育方法**

#### **①授業の方法**

薬学部の授業は、その教育の目的に応じ講義、演習、実習の3つの学習方法又はこれを併用して実施する。講義は知識の修得及び理解を目的とする。演習は知識の理解及び技能の修得を目的とし、学生は主体的・能動的に課題に取り組むことにより知識及び技能を定着させる。実習は知識の理解、技能の修得に加え、態度を統合的に学習することを目的と

し、学生はグループディスカッションやロールプレイを通じて、講義や演習で得た知識、技能を体得させる。

シラバスでは、授業を担当する専任教員のオフィス・アワー一覧、授業科目毎に指導教員、配当年次・期間、単位、選択・必修区分のほか、授業の目的と概要、一般目標（GIO）、授業の方法、アクティブ・ラーニングの取組、成績評価方法、試験・課題に対するフィードバック方法、ディプロマ・ポリシーとの関連、関連する授業科目、具体的な授業計画を明示しており、授業計画には各授業における到達目標（SBO）とその内容、事前学習の具体的内容と必要な時間について記載する。

授業科目の単位数算定の基準は、大学設置基準を踏まえ、1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準として、授業の方法に応じ、教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、「講義、チュートリアル及び演習については、15時間から30時間までの範囲で学部規程に定める時間の授業をもって1単位」「実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で学部規程に定める時間の授業をもって1単位」とする。学則に定めるこれらの全学的な前提を踏まえ、薬学部では「講義及び演習による授業は、原則として15時間の授業をもって1単位」「実習及び実技による授業は、原則として45時間の授業をもって1単位」「教育上必要があると認めるときは、講義及び演習については15時間から30時間までの範囲、実習及び実技については30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とすることができる」「授業は、原則として90分を1回」とする。なお、講義、演習、実習を複合的に取り入れた科目である卒業研究科目については必要な学修等を考慮して単位数を設定する。これらの授業時間及び単位数算定の基準については、薬学部規程及び薬科学科規程に明示する（薬学部規程、薬科学科規程）。また、1年間の授業期間は試験期間以外に35週にわたることとする（学則）。これを受け、薬学部では学期における授業期間を「定期試験等の期間を除き原則として15週」とする。この授業期間については、薬学部規程及び薬科学科規程に明示する。

なお、薬学教育評価機構が実施する6年制薬学教育プログラムの第1期評価に関するガイドラインにおいて、卒業研究の実施期間は通算して約1年間確保することと併せて、「卒業研究やproblem-based learningなどの問題解決型学習の実質的な実施時間数が18単位（大学設置基準における卒業要件単位数の1/10）以上に相当するよう努めていること」と示されている。薬学科では、卒業研究である「特別演習・実習」の開設期は4年次前期から6年次前期までの間とする。この間においては病院・薬局での参加型実務実習や講義などが併行して設定されており、2年半という期間において講義や実習のない期間を有効に使って、実質的に1年程度の研究期間を確保することとする。単位数は14単位とし、その他の問題発見・解決能力の醸成に係る授業科目の実施時間数と合わせて18単位を超える構成とする。

一方、薬科学科では、卒業研究である「特別研究（前期）」「特別研究（後期）」を4年次の前期及び後期で実施する。薬科学科においては、集中的に卒業研究を実施できることから、単位数は前期5単位と後期6単位を合計して11単位とする。

## ②学生数の設定

薬学部では、1学年の学生数（入学定員）が300名程度であることを踏まえ、1科目あたりの学生数が適切になるように考慮して授業を編成する。すなわち、基本的には1学年を2クラス編成とし、1授業あたりの学生数を150名程度とし、授業効果を図る。

この2クラス編成を基本として、1年次に配置する「数学1、2」は1クラス80名程度、1・2年次に配置する「化学」「英語リスニング1、2」「英語リーディング1、2」「英語スピーキング1、2」「英語ライティング1、2」、4年次に配置する「薬学英语」については1クラスが概ね40名程度、3年次に配置する「異文化言語演習1、2」は1クラス15名程度となるよう、複数名の担当者を配置してクラス編成する。また、実習科目についても4クラス編成として1クラス80名程度で開講する。このような編成は、薬学専門教育の実施に向けた準備教育への対応、語学教育の性質を踏まえた対応、指導密度を保った実習指導等、効果的に授業を実施するための措置である。

## ③配当年次

### <薬学部薬学科>

教育課程の編成については、前述の「教育課程の編成とその体系及び特色」に記載するとおりである。配当年次の考えとしては、次のような考え方で科目を配置している。【資料2：薬学科カリキュラムマップ】

1年次では薬学専門教育に繋げる学習や大学での学びの基本姿勢やスキルを修得させるための準備学習科目、教養科目や語学科目を中心に配置する。また、入学早期の段階で、薬学の役割、薬剤師の使命、医療人連携の概要、病院等の現場体験等について学習する授業科目を配置する。さらに、後期より、物理系・有機系・生物系の基礎薬学科目を中心に配置する。

2年次では1年次に引き続き教養科目や語学科目も配置するが、物理系・有機系・生物系の基礎薬学科目を中心に配置する。並行して、医療薬学科目として薬理学や薬物治療学、薬物動態学に関する科目の配置を開始する。

3年次では、引き続き物理系・有機系・生物系の応用薬学科目を配置し、原則として、この学年次において基本的な物理系・有機系・生物系の学習を終了させる。あわせて本格的に医療薬学科目を配置し、3年次に引き続き薬理薬剤、薬物動態、薬物治療に関する科目を

履修させるとともに、実務実習事前学習についても一部開始する。その他、語学科目も継続的に配置し、異文化理解に基づく国際的なコミュニケーション能力を涵養する。

4年次では、医療薬学科目を中心に配置し、薬事関連法、社会保障や医療政策について学ばせるとともに、実務実習事前学習を行う。応用薬学科目では物理系・有機系・生物系のアドバンストの選択科目を配置する。また5年次の実務実習を見据え、ここまでの修得した知識の統合を狙いとする薬学基礎演習を配置する。さらに、この学年次から卒業研究である「特別・演習実習」を開始する。加えて、卒業研究との繋がりを踏まえた「薬学英语」や、実務実習の実施や将来の職業選択等を意識した「コミュニケーション」「キャリアデザイン概論」を配置する。

5年次では病院・薬局での実務実習と卒業研究を配置し、実務実習を実施しない期間は卒業研究に注力させる。

6年次では卒業研究とともに、アドバンストの医療薬学科目や6年間で修得した知識の統合と総まとめ的な授業科目「薬学総合演習」を配置する。なお、卒業研究は前期に終了し、後期は総合演習による6年間の学修成果の総まとめに注力する。

その他 IPE に関する授業科目は、1年次に「医療人マインド」、2年次に「専門職連携医療論」、6年次に「多職種融合（連携）ゼミ」として、段階を踏んだ内容で配置する。

### <薬学部薬科学科>

教育課程の編制については、前述の「教育課程の編成とその体系及び特色」に記載するとおりである。【資料3：薬科学科カリキュラムマップ】

薬科学科については、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおり、学生の権利保証のため、学生募集停止を継続したまま設置する学科である。教育課程については、大阪薬科大学薬学部薬科学科の旧教育課程と1年次から3年次までを学部共通としており、4年次の教育課程のみが独自のものとなる。大阪薬科大学薬学部としての配当年次の考えは設置する薬学科に踏襲するため、この度設置する薬科学科の教育課程とは一部授業科目が異なるものの、学部共通の教育課程としてきた薬科学科の1年次から3年次までの配当年次の考えは、前述の薬科学科の1年次から3年次までの考えと根本的には同様である。

4年次では、薬科学科としての独自の授業科目である「バイオインフォマティクス」「分子設計学」等を配置するとともに、卒業研究である「特別演習・実習（前期）」「特別演習・実習（後期）」を配置する。なお、薬剤師養成教育に係る授業科目は配置せず、卒業研究に注力することができようとしている。

## (2) 成績評価基準の明示



全学的な成績評価及び単位の認定については学則に明示し、薬学科の詳細な事項は薬学部規程に明示する。具体的には、授業科目における成績評価は試験その他の方法をもって100点法によって行い、90点以上を秀(S)、80点以上89点以下を優(A)、70点以上79点以下を良(B)、60点以上69点以下を可(C)、59点以下を不可(D)、特に薬学部においては不可のうち29点以下を不可(E)で評価し、SからCを合格とする。また、授業科目の成績評価については、授業科目毎に担当教員が授業内容に対する学生の学習到達度によって行い、到達目標及び成績評価方法はシラバスに示す。単位は、授業科目の成績評価により合格とする者に認定する。学生への周知については、シラバスへの記載に合わせて年度当初の学年毎の履修ガイダンスにおいて説明するとともに、授業において担当教員から学生に説明する。

一方、薬科学科の詳細な事項は、薬科学科規程に明示する。具体的には、授業科目における成績評価は試験その他の方法をもって100点法によって行い、80点以上を(A)、70点以上79点以下を(B)、60点以上69点以下を(C)、59点以下を(D)で評価し、AからCを合格とする。このように、薬学科の成績評価基準とは若干異なっているが、これは前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおり、学生の権利保証のために募集停止前の教育課程等を踏襲することによるものである。その他については、薬学科と同様である。

### **(3) 履修指導の方法**

#### **①ガイダンス**

入学時と年度初めのガイダンスを実施する。その中でディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー、その学年での学習目標、教育課程に開設される科目の概要、進級・卒業要件、試験制度等について説明・指導する。また、1年次から2年次で履修することになる一般教養の選択科目や単位互換制度の利用方法等については、別途担当教員よりガイダンスを行う。

留年者に対しては、別途各学期の初めにガイダンスを行う。ここでは履修上の注意点や進級要件等について説明した上で、アドバイザー教員による個別指導を行い、その学期の履修計画を教務課に提出させる。アドバイザー教員については、下述の「アドバイザー制度」を参照願いたい。

5年次に実施する実務実習を控えた学生に対しては、4年次の5月に当該学生を対象に最初の実習ガイダンスを行い、実務実習施設(病院・薬局)への配属方法と基準について説明する。その後、12月に実習先施設の発表と提出書類等、実習実施の1ヵ月前に施設内容、直前の心構え、「実務実習指導・管理システム」の使用方法等についてガイダンスを行う。

その他、年度の前期の成績が判明した段階で、各学生の成績を分析し、教授会で報告の上、成績不良者には各学生のアドバイザー教員同席の下でガイダンスを実施し、後期の修学への指導を行う。

## ②アドバイザー制度について

大阪薬科大学薬学部における制度を踏襲し、専任教員（教授・准教授・講師）が学年毎に約 6 名ずつの学生を担当するアドバイザー制度を設ける。アドバイザー教員の主な役割は、「修学指導と学業成績の伝達」「種々の相談への助言」「問題行動に対する指導」「諸手続きの確認」である。学生の意見や相談がアドバイザー教員に寄せられた場合、アドバイザー教員は必要に応じて学内における学生支援組織と連携して対応する。特に、「修学指導と学業成績の伝達」にあたり、アドバイザー教員は担当学生の成績評価結果を年 4 回（前期定期試験結果、前期最終結果、後期定期試験結果、後期最終結果）学生に手渡すとともに、修学・学生生活等の指導・助言を行い、学期毎の最終試験結果を保護者に送付する際には、必要に応じて、学修状況や家庭での指導に関するコメントを付記する。このようなアドバイザー制度を導入することにより、入学から卒業まで継続して担当学生の学業から生活面までの総合的な事項に対して適切に助言できるシステムを構築する。

## ③学習支援について

公募制推薦入試又は指定校制推薦入試に合格し、早期に入学が決定した学生を対象に、入学前教育として物理、化学、生物、数学、英語に関する課題を与えており、指定校推薦入試合格者に対しては、併せて 3 月上旬に課題に関する学力確認試験を課す。入学直後の 4 月上旬には、新入生全員に化学、生物、数学の試験並びに大学におけるジェネリックスキルを測定するための PROG テスト等を実施し、アドバイザー教員より結果に基づいた修学指導を行う。さらに、これらの試験結果等を踏まえ学生の習熟度や学習歴を考慮し、手厚くきめ細やかな教育指導を行うことを目的とし、「化学」では 40 名程度の比較的少人数のクラス編成を行う。「数学 1、2」についても 80 名程度の少人数制で開講する。進級判定の際、進級・卒業要件に満たない学生個人の成績結果と、留年と判定される予定の学生数を学年別にまとめた資料をもって、経年的な内容を含めた状況把握を行う。また、留年経験者全員の入学年次及び在籍状況を把握するために、年度初めの教授会で「留年経験調査表」を配布し、情報を共有するとともに、教育指導上の参考資料として役立てる。

留年者には、前述の「ガイダンス」に記載する留年者対象の履修ガイダンスを別途実施する。

その他、学生の学籍異動（留年・休学・退学）の情報は、教授会で共有しており、また、前期は 5 月、後期は 10 月に学生の出席状況調査を行い、出席不良者には指導を行う。精神

面での問題を抱えた学生が結果的に学力不振に陥り、留年・休学・退学にいたるケースもあることから、学内における学生支援組織が連携し対応にあたる。

#### ④他大学等における授業科目の履修等について

教育上有益と認めるときは、本学入学前の学生の他大学における既修得単位について、合計 30 単位を限度に本学において修得したものと認定することができることとする。また、本学の他学部及び他大学との協議に基づき、学生に当該学部や他大学の授業科目を履修させることができるものとし、これは学則に明示する。薬学部における具体的な単位互換制度については単位互換規程に定め、既修得単位の認定数の合計は大学設置基準に定める 60 単位を超えるものではない。【資料 7：大阪医科薬科大学薬学部 単位互換実施に関する規程】

### (4) 卒業要件

#### <薬学部薬学科>

薬学科の目的に基づく学位授与の基本的な方針及び学修成果の目標については、前述の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に記載するとおり、ディプロマ・ポリシーとして明確にしている。

薬学科の卒業要件は、「修業年限である 6 年以上在学し、薬学部規程に定める所定の単位を修得した者には、薬学部教授会の議を経て、薬学部長が卒業を認定し、学長が決定の上、卒業証書及び学士（薬学）の学位を授与する」と学則に明示する。なお、薬学部規程に定める所定の単位及びその内訳は、下表の通りであり、合計数は法令要件を越す 187 単位とする。

| 種 別    | 区分等   | 単位数    | 備 考  |
|--------|---|--------|--|
| 必修科目   | 基礎教育科目  | 27 単位  |  |
|        | 基礎薬学科目  | 34 単位  |  |
|        | 応用薬学科目  | 23 単位  |  |
|        | 医療薬学科目  | 49 単位  |  |
|        | 実 習   | 44 単位  |  |
| 選択必修科目 | 基礎教育科目<br>「ドイツ語 1, 2」「中国語 1, 2」<br>「ハングル 1, 2」から 1 カ国語 2 科目   | 2 単位   |  |
| 選択科目   | ①基礎教育科目<br>1・2 年次配当<br>「文学の世界」「歴史と社会」<br>「地球環境論」「政治と社会」<br>「基礎心理学」「法と社会」<br>「経済の世界」「数理論理学」<br>「社会分析の基礎」「人間と宗教」<br>「文化人類学」「倫理と社会」<br>「コーチング論」「スポーツ・運動 2」 | 4 単位以上 | ・<その他>に区分する科目を除き、1 年次では各学期に 1 科目、2 年次では各学期に 2 科目まで選択して履修できる。 |

|  |  |   |   |
|--|--|---|---|
|  | 「情報科学」 各科目 1 単位<br><その他><br>「本学の他学部、他大学等との単位互換の制度を利用して履修した科目」  |   |   |
|  | ②基礎薬学科目、応用薬学科目、医療薬学科目<br>2 年次配当<br>「医工薬連環科学」「専門職連携医療論」<br>3 年次配当<br>「応用放射化学」「精密有機合成化学」<br>「臨床化学」<br>4 年次配当<br>「生物物理化学」「先端分子医科学 1」<br>「医薬品安全性学」「医療政策論」<br>「アドバンスト薬物治療学」<br>6 年次配当<br>「多職種融合（連携）ゼミ」<br>「漢方医学概論」<br>「アドバンスト薬理学」<br>各科目 1 単位 | 4 単位以上<br>（2～4 年次配当科目からは 3 単位以上、6 年次配当科目からは 1 単位） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 年次配当科目は、2 科目まで選択して履修できる。</li> <li>・ 6 年次配当科目は、1 科目選択して履修する。</li> </ul> |
|  | 合 計  | 1 8 7 単位以上  |   |

前述の「教育課程の編成とその体系及び特色」に記載するとおり、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関連を踏まえ体系的に編成した教育課程から、このような卒業要件単位数を設定する。薬学教育モデル・コアカリキュラムに示される到達目標を全て修得させることが求められること、また、前述の「配当年次」に記載するとおり、5 年次に控える病院・薬局での参加型実務実習を迎えるに必要な知識、技能、態度の修得にあたり、3 年次までに薬学専門教育や主な実務実習事前学習を除く医療薬学教育を体系的にかつ確実に実施するための授業時間を適切に確保する必要がある、3 年次までに修得すべき単位数は学年次毎に大きな差がないよう配慮の上で比較的多く設定している。なお、4 年次からは実務実習事前学習に該当する主な授業科目や卒業研究に該当する「特別演習・実習」に関する学習時間を適切に確保するための単位数設定としている。【資料 8：薬学科履修モデル】

必修科目の割合が高いものの、いわゆる「出口管理」に関しては、選択科目の履修や再履修等に配慮するため CAP 制（各学年次において原則上限 55 単位）を導入する。また、厳格な成績評価と学修成果を把握・評価のため、GPA を導入する。これらについては、大阪薬科大学薬学部薬学科からの内容を踏襲するものであり、薬学部規程において明示する。

### <薬学部薬科学科>

薬科学科の目的に基づく学位授与の基本的な方針及び学修成果の目標については、前述の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に記載するとおり、ディプロマ・ポリシーとして明確にしている。

薬科学科の卒業要件は、「修業年限である4年以上在学し、所定の単位を修得した者には、薬学部教授会の議を経て、薬学部長が卒業を認定し、学長が決定のうえ卒業証書及び学士（薬科学）の学位を授与する」と薬科学科規程に明示する。なお、薬学部規程に定める所定の単位及びその内訳は、下表の通りであり、合計数は法令要件を越す136.5単位とする。

| 種 別    | 区分等   | 単位数       |
|--------|---|-----------|
| 必修科目   | 基礎教育科目  | 26.5単位    |
|        | 基礎薬学科目  | 31単位      |
|        | 応用薬学科目  | 25単位      |
|        | 医療薬学科目  | 23単位      |
|        | 実 習   | 21単位      |
| 選択必修科目 | 基礎教育科目<br>「ドイツ語1,2」「フランス語1,2」<br>「中国語1,2」「ハングル1,2」から1ヵ国語2科目   | 2単位       |
| 選択科目   | ①基礎教育科目<br>「教養科目（各1単位）」<br>「情報科学（1単位）」「医工薬連環科学（1.5単位）」<br>「3大学連携、5大学連携、コンソーシアム大阪の各プログラム」の中から<br>※但し、「教養科目」からは3単位以上修得すること    | 5単位以上     |
|        | ②基礎教育科目以外<br>応用薬学科目<br>「応用放射化学（1単位）」「生物物理化学（1.5単位）」<br>「薬品合成化学（1.5単位）」「医薬品化学（1.5単位）」<br>医療薬学科目<br>「薬理学4（1.5単位）」<br>計7単位の中から | 3単位以上     |
| 合 計    |   | 136.5単位以上 |

前述の「教育課程の編成とその体系及び特色」に記載するとおり、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関連を踏まえ体系的に編成した教育課程から、このような卒業要件単位数を設定する。3年次までに薬学専門教育で物理、化学、生物の基礎的な知識を修得させる教育課程としていることから、修得すべき単位数は学年次毎に大きな差がないよう配慮の上で、適切な授業時間数を確保できるような単位数の設定としている。なお、4年次は授業科目が薬科学科としての独自の「バイオインフォマティクス」「分子設計学」等が中心となり、必要な授業時間数は少なくなる。卒業研究に該当する「特別演習・実習（前期）」「特別演習・実習（後期）」に係る学習時間数を適切に確保できる単位数の設定とする。【資料9：薬科学科履修モデル】

薬科学科は、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に詳述するとおり、学生の権利保証のため、学生募集停止を継続したまま設置する学科である。卒業要件及びその単位数についても、当然に大阪薬科大学薬学部薬科学科のものを踏襲する必要がある。また、薬学科と異なりCAP制やGPAについても導入しないが、これも同じ理由による。

## 7. 施設、設備等の整備計画

大阪薬科大学キャンパスは高槻市奈佐原（最寄り駅：JR摂津富田駅）に位置し、大阪医科大学キャンパスは高槻市大学町（最寄り駅：阪急高槻市駅）に位置している。

大学統合後も薬学部及び大学院薬学研究科における教育・研究は、引き続き大阪薬科大学キャンパスの校地並びに施設及び設備をそのまま利用して実施することとし、大学統合に伴いキャンパス名を「阿武山キャンパス」とする。「阿武山（あぶやま）」とは、大阪薬科大学が位置する高槻市奈佐原を含み、隣接する茨木市にまたがる山とその周辺地域の総称として、大阪府北部地域において過去より親しまれてきた名称である。

大阪薬科大学では、平成8年にこの地に移転して以来、教育研究環境の整備と充実に積極的に取り組んでおり、キャンパスをそのまま引き継ぐこととなる薬学部及び大学院薬学研究科における教育研究のために必要な校地、校舎、施設及び設備等はこれまでの20余年の間に増築、更新、改修等の計画的な実施により十分に整備されている。整備計画の詳細については以下の通りである。

### （1）校地、運動場の整備計画

大阪薬科大学から引き継ぐ阿武山キャンパス全体の校地等の総面積は約59,260㎡、校地面積は53,191.63㎡で、設置時の収容定員1,766名から算出すると学生一人あたり約30㎡以上となり、学生の休息、その他の利用のための適当な空地を含む十分な校地面積が確保されている。なお、大学全体の校地等の総面積は約160,972㎡であり、設置基準上必要な校地面積を十分に満たしている。キャンパスは自然が豊かで閑静な地域に位置しており、大学教育に相応しいゆとりある落ち着いた環境を整備している。

また、運動場は、13,930㎡の面積を確保しており、天然芝生のグラウンドは、体育の授業をはじめ、クラブ活動では主にサッカー部、ラグビー部、陸上競技部が利用している。さらに全天候型のテニスコートを4面備え、主に学生のクラブ活動を中心に利用している。

### （2）校舎等施設の整備計画

校舎等施設の整備については、大阪薬科大学キャンパスの校舎等をそのまま維持・管理するとともに、教育・研究の必要性及び学生等からの要望に応じ発展させていく考えである。阿武山キャンパスの校舎の面積は25,924.98㎡で、校舎面積に算入されない施設等を加えた総面積は約35,735㎡となる。大学全体の校舎の総面積は約75,795㎡であり、設置基準上必要な校舎面積を十分に満たしている。なお、キャンパスの校舎等施設の維持・管理は、大阪薬科大学の「建物・設備長期保全計画」を承継し、本計画に基づき適切に実施することとしている。

また、阿武山キャンパスは主に7棟の施設を有している。各棟の概要は以下の通りである。

- ・ A 棟（事務局・図書館棟） 地上4階建て
- ・ B 棟（研究棟） 地上6階地下1階建て
- ・ C 棟（講義・実習棟） 地上4階建て
- ・ D 棟（講義・実習棟） 地上3階地下1階建て
- ・ 体育館
- ・ 学生会館（学生食堂、ブックセンター、クラブ活動場）
- ・ 学生クラブハウス（クラブ活動場）

C棟及びD棟（講義・実習棟）は、500名が収容可能な講堂1室及び300名以上が収容可能な大講義室2室、160名から240名が収容可能な中講義室10室を有している。現大阪薬科大学では原則1学年2クラス編成（1授業あたりの学生数150名程度）としており、大学統合後もこのクラス制度を継続することから、C棟及びD棟を維持・管理することで、講義を十分継続実施できると言える。また、150名以下の少人数制教育を行う語学科目等に対応するため、60名が収容可能な小講義室8室、10～30名が収容可能なセミナー室7室、10名が収容可能な演習室8室等も備えている。

平成21年に新築したD棟は、新薬学教育制度にかかる臨床薬学教育・薬学実務実習の事前学習（科目名「臨床導入学習1、2」）に対応できる施設となっている。実習科目では、技能・態度の「修得」に加え、グループディスカッションやロールプレイを通じた「体得」の必要性があり、例えば、少人数クラス制を取っている「臨床導入学習1、2」では、担当教員1名あたり10名程度の学生を担当することとなっている。「臨床導入学習1、2」の実施のために、D棟2階フロアに模擬調剤室（227㎡）、模擬無菌製剤室（107㎡）、製剤準備室（36㎡）、一般製剤室（107㎡）、薬剤交付カウンター、スモールディスカッション（SGD）室8室（17.52㎡×3室、16.28㎡×5室）等を備えており、これらが薬学専門知識の「体得」を施設面から支えていると言え、各部屋の広さについても、クラスの人数から見て、十分であると考えられる。また、器機についてもクラス人数に適正な数を用意している。

例えば、模擬調剤室には全自動分割分包機 1 台、全自動錠剤包装機 2 台及び散薬調剤台、水剤台、錠剤台、軟膏外用台、調剤監査台が各 8 台設置されており、一般調剤室には集塵機能付き実験台 6 台を中心に、各種製剤機器が設置されている。以上の通り、D 棟を維持・管理することで、薬学実務実習事前学習を含む臨床薬学教育を十分に継続実施できると言える。また、その他実習科目についても、C 棟実習室に多数実験機器等を揃えることで、実施体制を整えている。【資料 10：実習科目に係る主な機械・器具等一覧】

なお、講義室確保については、設置する薬学部薬学科の授業時間割モデルを作成し、支障ないことを確認している。【資料 11：薬学科授業時間割モデル】

また、学生に快適な学習環境を提供するため、D 棟には 128 名収容の自習室を設置するとともに、D 棟 1 階ラウンジとホワイエに自由に利用可能な約 500 席の自習スペースを確保している。加えて、A 棟図書館にも計 301 名の学生が収容できる図書館閲覧室・図書館自習室・グループ学習室等を整備している。

B 棟（研究棟）については、研究室毎に、第一研究室（約 108 m<sup>2</sup>）、第二研究室（約 30 m<sup>2</sup>）、教授室（約 25 m<sup>2</sup>）、大学院研究室（約 27 m<sup>2</sup>）が整備されている。室数は、専任教員 83 名（令和 3 年 4 月現在）に対し 82 室となり、研究室の教員構成によっては 1 室を複数名の教員が利用する場合があるが、研究室運営に支障が生じることはない。また、複数名の教員が研究室を共同利用する場合、広さが十分に確保されている第一研究室（約 108 m<sup>2</sup>）を主に活用することとなるため、室数及び研究室の広さともに不足はない。

また、B 棟には共同研究センターとして、1 階に高度な研究が可能な研究設備を設置する中央機器研究施設、地下 1 階には動物実験や放射性物質を使用した研究が可能な動物関連研究施設、RI 研究施設が整備されている。

大阪薬科大学で使用している機器・備品等約 2,800 点については、大学統合後も引き続き活用する。平成 30 年度には中央機器研究施設に高速微量成分分析システム（研究装置）を整備し、平成 31 年度には RI 研究施設に小動物用インビボイメージングシステム（研究装置）を整備する等、教育・研究のため機器等の充実に努めている。これらの研究機器は、適切な維持・管理を継続する他、今後も計画的な研究機器の整備を進め、研究環境の向上に努める。

### （3）図書等の資料及び図書館の整備計画

阿武山キャンパス図書館については、大阪薬科大学図書館の施設設備、所蔵図書をそのまま引き継ぐとともに、大阪医科大学本部キャンパス図書館との相互利用や連携をより推進し、全学部の学生や教職員が有効利用できるよう整備する。



図書館は、A棟3階に事務室、閲覧室、グループ学習室、図書館自習室、ブラウジングコーナー、4階に閲覧室、AV利用室、資料展示室を整備しており、延べ床面積は1,994㎡である。このうち、閲覧室等の面積は、1,273㎡である。

図書館は、事務職員1名（専任、統括）、契約職員及び派遣職員合わせて3名（司書2名）で運営し、司書2名は図書館事務業務全般や利用者の対応にあたる。また、図書館システム「CARIN」を導入することにより、図書館業務の効率化を図っている。

図書館開館時間は、平日（月から金曜日）は9時～20時、土曜日は10時～16時30分（なお、試験期間中は18時まで）である。また、学生の利用の便宜を図るため、図書館自習室は月から土曜日の7時～22時まで開放している。

総座席数は、2室ある図書館自習室の座席数29席、グループ学習室の座席数12席と合わせて301席確保している。また、館内の各階に情報検索コーナーとして20台の端末パソコンを設置し、学生の利便性向上を目的とした施策を実行してきた。なお、情報検索コーナーでは学生証（ICカード）で図書館プリントシステムが利用でき、レポート、課題、関連資料等の印刷が可能である。

図書館の令和2年3月現在の蔵書数は92,477冊、学術雑誌が618種類（和雑誌225種、洋雑誌393種）、視聴覚資料が1,924点である。

図書資料は、収集・管理・提供等の運営を通じて本学の目指す研究・教育に貢献するものである。新規購入図書は、薬学、医学、化学分野の学術図書が圧倒的に多いが、近年では、人権、就職、情報関連や実用書、又は新書・文庫等、教員・学生からの要望をできるだけ取り入れられるよう、購入希望図書の募集等、電子資料も含めた多様な資料の購入に努めている。

電子ジャーナルは、冊子体の学術雑誌に代わって研究者にとって必要不可欠な情報源であり、積極的に導入している。図書館は、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）、日本薬学図書館協議会コンソーシアム等を通して12種のコンソーシアムに参加し、これらコンソーシアムが提供するパッケージを中心に契約しており、現在3,655種類の電子ジャーナルが図書館ホームページからアクセスでき、教育研究活動の効率化に大きく寄与している。

大学図書館が教育研究活動を支える基盤であるためには、医学部・看護学部が利用する本部キャンパス図書館（本館）や、学外施設との相互協力が不可欠となる。図書館は国立情報学研究所が提供する目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）に参加し、図書館間相互協力により資料提供サービスを実施しているが、さらに、日本薬学図書館協会に加盟し、薬系大学はもとより、製薬企業、研究所、試験所の加盟図書館とも情報交換及び連携を図っている他、機関リポジトリを活用した情報発信の強化に努めている。

## 8. 入学者選抜の概要

### (1) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

大学の理念、目的、設置する学部の目的、養成する人材像並びにディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、薬学部薬学科の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）について、求める学生像、大学入学までに身につけておくべき教科・科目等、入学者選抜の基本方針により、以下のとおり定める。

なお、薬学科と併せて設置する薬科学科は、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するのとおり、大阪薬科大学から転学する平成 29 年度以前の入学生の教育条件（学科選択の権利）の維持を目的として、大阪薬科大学における平成 30 年度からの同学科の学生募集停止を継続したまま設置するものであり、新たに入学者を受け入れることはないため、本項における記述を省略する。

#### 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

薬学部薬学科では、医療人としての自覚と高い倫理観をもち、薬学の基礎的、応用的、実践的知識や技能を修得することに加え、人に対する思いやりと豊かな人間性を備え社会に貢献できる質の高い薬剤師を養成するため、次のような学生を求めています。

#### 求める学生像

1. 薬の専門家として社会に貢献する意思をもち、そのための努力を継続できる人
2. 薬学を学ぶために必要な基礎学力と語学力に加え、論理的思考力と応用力をもつ人
3. 将来の医療人としての自覚をもち、人に対する思いやりの心と協調性・倫理性をもつ人
4. 薬剤師として必要な知識・技能・態度を修得し、高いコミュニケーション能力を身に付けることができる人
5. 豊かな人間性を自らに育む意思をもち、患者・生活者の立場に立って医療に取り組むことができる人
6. 薬学・医療の進歩と改善に関心をもち、課題を見出して解決する能力を涵養できる人

#### 大学入学までに身につけておくべき教科・科目等

薬学は化学、生物、物理などに基礎をおく総合科学であると同時に、医療、衛生、環境問題を通して人間の生命や社会と深く関わるため、人文社会科学的側面も強く合わせもつ領域です。大学入学までに確実に修得しておくことが不可欠な教科・科目は入試科

目として評価します。

理科：化学、生物、物理について、科学的知識とそれに基づいた思考力・応用力

数学：数学的・論理的に思考し表現する能力

外国語：英語についての読解力・表現力と、英語による基礎的なコミュニケーション能力

また、入試科目に含まれない国語、社会、数学Ⅲについても、高等学校卒業相当の基礎的な学力を保持していることが望まれます。

### 入学者選抜の基本方針

#### 1. 学校推薦型選抜

##### (1) 指定校制推薦入学試験

薬学を学ぼうとする意欲、コミュニケーション能力および基礎学力について、調査書や志望理由書等の提出書類を参考に、面接試験と学力確認試験（化学）により評価・判定を行い、入学者を選抜します。

##### (2) 公募制推薦入学試験（併願可）

活動実績報告書等の提出書類を参考に、調査書（全体の学習成績の状況）と理科（化学または生物）、数学（数学Ⅲを除く）、英語の学力試験により基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜します。

#### 2. 一般選抜

##### (1) 一般入学試験A

理科（化学または生物）、数学（数学Ⅲを除く）、英語の学力試験により基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜します。一般入試Aでは、理科に秀でた学生を選抜するために、その配点を高くしています。

##### (2) 一般入学試験B

理科（化学）、英語に加え、数学（数学Ⅲを除く）または理科（生物）の学力試験により基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜します。

##### (3) 大学入学共通テスト利用入学試験

大学入学共通テストにより、理科（化学）、数学（数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B）、英語の基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜します。

#### 3. その他

##### (1) 帰国生徒特別選抜入学試験

志望理由書等の提出書類を参考に、面接と理科（化学または生物）、数学（数学Ⅲを除く）、英語の学力試験により基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜します。

アドミッション・ポリシーは、大阪薬科大学薬学部薬学科における内容を踏襲するものであり、「3 ポリシーの策定及び運用に関するガイドライン（平成 28 年 3 月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）」を踏まえ、「学力の三要素（1 知識・技能の確実な習得、2 これを基にした思考力、判断力、表現力、3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）」を念頭に置き策定したものである。

## （2）入学者選抜の体制、実施・選抜方法

薬学部の入学者選抜制度（試験科目、募集人員等）は、アドミッション・ポリシーに基づき、薬学部における入学者選抜に係る調査・研究、企画・立案、分析及び評価等を担うアドミッション・オフィスにおいて、入学試験結果の分析・評価等に基づき検討・策定し、入試業務の具体的実施計画の策定及びその遂行に当たる入試委員会が確認し、教授会での審議を経て、学長が決定する体制としている。

この入学者選抜制度では、アドミッション・ポリシーに沿い、薬学部にふさわしい学生を公正な選考により受け入れるため、「指定校制推薦入学試験（専願）」「公募制推薦入学試験（併願）」「一般入学試験 A」「一般入学試験 B」「大学入学共通テスト利用入学試験」「帰国生徒特別選抜入学試験（専願）」の 6 つの入学試験を設定する。試験区分毎の入学者選抜の実施・選抜方法は以下のとおりである。

なお、学校推薦型入試と一般選抜の募集定員は、それぞれ 130 名と 164 名であり、学校推薦型入試を全募集定員の 50%以内とする。

### ①（学校推薦型入試）指定校制推薦入学試験

専願

実施時期：11 月下旬

募集人員：40 名

実施・選抜方法：高等学校長宛てに「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を示すとともに、薬学を意欲的に勉学する意思を有し、理科は化学基礎・化学と生物基礎・生物又は化学基礎・化学と物理基礎・物理を履修している全体の学習成績の状況が 3.5 以上の生徒の推薦依頼を行う。高等学校長からの推薦を受け、調査書、志望理由書等の提出書類と基礎学力確認の面接及び化学基礎・化学の学力確認試験により総合的に評価・判定し、入学者を選抜する。

### ②（学校推薦型入試）公募制推薦入学試験

併願

実施時期：11 月下旬

募集人員：90名

実施・選抜方法：薬学を意欲的に勉学する意思を有し、全体の学習成績の状況が3.2以上の生徒を対象に高等学校長からの推薦を受け、理科（化学基礎・化学又は生物基礎・生物）、数学（数Ⅲを除く）、英語の学力試験及び調査書、推薦書、高校生活で主体性をもって取り組んだことや学んだことを志願者本人が記載する活動実績報告書により基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜する。

### ③（一般選抜）一般入学試験 A、④（一般選抜）一般入学試験 B

実施時期：2月上旬～中旬

募集人員：一般入学試験 A・100名、一般入学試験 B・50名

実施・選抜方法：一般入学試験 Aは理科（化学基礎・化学又は生物基礎・生物）、数学（数Ⅲを除く）、英語の学力試験により基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜する。一般入学試験 Bは理科（化学基礎・化学）、英語、並びに数学（数学Ⅲを除く）または理科（生物基礎・生物）の学力試験により基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜する。

### ⑤（一般選抜）大学入学共通テスト利用入学試験

実施時期：2月中旬

募集人員：14名

実施・選抜方法：大学入学共通テストにより、理科（化学）、数学（数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B）、外国語（英語）の基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜する。

### ⑥（その他）帰国生徒特別選抜入学試験

専願

実施時期：11月下旬

募集人員：若干名

実施・選抜方法：薬学を意欲的に勉学する意思を有した帰国生徒を対象に募集を行い、理科（化学基礎・化学又は生物基礎・生物）、数学（数Ⅲを除く）、英語の学力試験及び成績証明書、推薦書、志望理由書等の提出書類と面接によりコミュニケーション能力並びに基礎学力を総合的に評価・判定し、入学者を選抜する。

薬学部として独自に実施する入学試験（学力試験及び学力確認試験）の教科・科目は、全て記述式問題（英語：英作文・和訳等、数学：計算式・グラフ等、化学：構造式・計算等、生物：計算・論述等をそれぞれ含む）とし、知識・技能を十分に有しているか確認することに加え、思考力、判断力、表現力を評価し、選抜する。

## 9. 取得可能な資格

設置する薬学部薬学科を卒業することにより、薬剤師国家試験受験資格を得ることができるとする。

## 10. 実習の具体的計画

### (1) 実習の基本計画

設置する薬学部薬学科は、薬剤師の養成が主目的であり、6年制薬学教育が準拠すべき「薬学教育モデル・コアカリキュラム」において明示された「薬剤師として求められる基本的な資質」及びディプロマ・ポリシーに定める「薬剤師として医療に関わるための知識・技能・態度、チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度、薬の専門家に必要なコミュニケーション能力」等を獲得させることを目的に薬学実務実習を実施する。

「薬学教育モデル・コアカリキュラム」は平成25年12月に改訂され、平成27年度からこれに基づくカリキュラムを実施している。また改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した大学の薬学実務実習を適正に実施するための指針を示した「薬学実務実習に関するガイドライン」が示されており、大阪薬科大学薬学部においては、ガイドラインに沿った実施体制の整備、学習方略の検討、大学と病院・薬局間の連携を進め、平成31年度から、これに沿った実習を実施している。

近畿地区各府県の薬剤師会及び病院薬剤師会と近畿地区に所在する薬系大学から構成する一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構が薬学実務実習の実施に関する事項を総括し、本機構の下、大学と病院、薬局間の連携や実施体制の整備が行われてきた。設置する薬学部においても、調整機構の方針に基づき、大阪薬科大学で行われてきた体制を踏襲し、薬学実務実習を実施する計画である。

大阪薬科大学では、実務実習等に関する具体的な方針又は計画等について審議する実務実習等専門委員会を薬学実務実習実施の総括組織とし、その下に実務実習実施部会を置き、本部会において以下の事項を審議し、薬学実務実習の円滑な実施に当たってきた。【資料12：実務実習 実施・指導・連携体制図】

- ・実習受入れ施設の調整と決定
- ・実習前準備（抗体検査・予防接種、各種保険への加入、報告・連絡システムの整備、学生へのオリエンテーションなど）
- ・評価（修得度）表及び日報の書式作成

- ・訪問指導の準備（指導要領作成とその訪問指導担任教員への周知徹底、スケジュール調整等）
- ・訪問指導
- ・訪問指導担任教員からの報告の収集と定期的（緊急時はその都度の）検討と対応
- ・指導薬剤師及び訪問指導担任教員からの実習に係わる種々の要望及び相談への対応
- ・学生配属研究室の主任教員からの報告の収集及び対応要請
- ・定期的実習評価と単位認定
- ・成績不良者への対応
- ・指導薬剤師との総合懇談会の定期的開催
- ・実習期間中の学生に対する就職活動支援
- ・実習成果のまとめ（報告集作成、報告会の開催など）
- ・緊急時（病気、事故、災害、人的トラブル、その他ドロップアウトなど）への即時対応

薬学実務実習での大学と施設の連携・学生指導は、5名の特任教員（教授：大規模病院等での薬剤部長等の要職経験者の実務家教員）がこの窓口となり、薬学部の教員全体が実務実習に関わる体制をとっている。設置する薬学部においても、これら委員会組織及び実習の実施体制のすべてを承継することとする。【資料13：大阪医科薬科大学薬学部 実務実習等専門委員会規程】

## （2）実習先の確保の状況

実習施設として登録するには、実務実習指導薬剤師（指導薬剤師）が確保され、「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」のSBOsに基づく実習内容を実施できることが条件となる。これら登録施設は調整機構から提示され、各大学の申請を基に調整機構にて調整を行い実習施設の確保を行う。なお、平成31年度実務実習に向け調整機構から提示のあった近畿地区での延べ実習受入人数は2,790名余りに上り、近畿地区14大学の薬学部入学定員（2,459名）を上回る状況であった。以上から、近畿地区出身の学生のみならず他地域からの出身者の実習に関しても受入に支障は無いと言える。

また、他地域からの出身者のうち、出身地の地域医療に貢献したいという強い意志を持つものに関しては、調整機構を通じ、出身地域の調整機構に依頼し、実習施設を確保する。

## （3）実習先との契約内容

調整機構が提供する「薬学部学生の病院・薬局実習に関する契約書」を用い、大学と実習施設間で契約を締結する。この契約では実習に係る費用や個人情報、秘密及びプライバシーの保護、法人機密情報の保護及び実習生の疾病及び傷害に関することが含まれる。【資

料 14：薬学部学生の病院実習に関する契約書】【資料 15：薬学部学生の薬局実習に関する契約書】

また、個人情報、秘密及びプライバシー保護等については、薬学教育協議会が提供する取り扱い例に倣い、大学は「病院・薬局等における実習等の誠実な履行並びに個人情報等及び法人機密情報の保護に関する説明文書」に基づいて守秘義務の遵守に関する指導を行い、実習生より提出させた個人情報・法人機密情報の保護に関する誓約書を実習施設に提出する。【資料 16：病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書】【資料 17：病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書】

#### （４）実習水準の確保の方策

指導薬剤師が確保され、「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）」の SBOs に基づく実習内容を実施できることが、調整機構への実務実習施設としての登録条件である。また指導薬剤師の育成も調整機構が「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」を開催し、この任に当たっている。大学では、実習施設と契約を交わす際、当該施設に認定実務実習指導薬剤師が配置されていることを確認し、実習施設としての適性を判断している。

特任教員は、実務実習開始前に病院・薬局と合同での協議会を開催し、薬局と病院のグループ化を図り、実習計画が改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した内容となるよう調整を行う。また、実習開始前と実習開始後に 2 回、併せて 3 回施設を訪問し、実習の進捗状況の把握、指導薬剤師へのアドバイスを行うほか、「薬学臨床」の中項目 GI0 の 5 項目（薬学臨床の基礎（臨床における心構え）、処方せんに基づく調剤、薬物療法の実践、チーム医療への参画、地域の保健・医療・福祉への参画）の到達度を用いて学生の形成的評価を行い、実習水準が適正であることを確認する。

学生は実務実習終了後に実習施設の概要、実習内容を記載した実務実習報告書を大学に提出する。実務実習報告書の内容は特任教員が確認を行い、実習施設へフィードバックし、実習水準の向上に役立てている。

なお、実習の日々の記録には、富士ゼロックスシステムサービス株式会社の提供する「実務実習指導・管理システム」を導入しており、学生はこれを利用して、オンライン上で日誌・週報の作成と SBOs の達成状況を記載し、特任教員や研究室の指導教員はオンライン上で担当する学生の実習日誌・週報、進捗状況を把握し、必要に応じて指導薬剤師に実習状況を確認する。



薬学実務実習は薬学教育協議会が指定する4期で実施する。実務実習の日数等については、調整機構の「薬学実務実習に関するQ&A（平成25年度改訂版）」によって、11週の考え方、1日の実習時間の考え方、実習期間中の病欠の考え方、勉強会・講演会・在宅訪問等による時間外の実習に対する考え方が定められている。これらに従い薬学実務実習を実施するが、実習期間が11週より短くなった場合は、原則として補習で対応するなど、実習水準を担保するために実習時間の確保にも努める。【資料18：実務実習スケジュール】

### （5）実習先との連携体制

薬学実務実習期間中は、特任教員が学生を支援するとともに実習施設との連携を図る。継続して実習施設とかかわることが、実習施設との円滑な連携を図るため重要であると考え、実習実施年度によって教員の担当施設及び担当地区が変わることのないよう可能な限り配慮した配置としている。

また、施設との連絡を密にするため、事前訪問の際に、「実務実習指導・管理システム」のメッセージ機能の利用について確認をとり、特任教員だけでなく研究室の指導教員とも連絡が取れることを周知する。学生と特任教員や研究室の指導教員、指導薬剤師は、このシステムを利用して相互に連携し実習を円滑に実施する。

加えて、前述の「教員組織編成の特色」にて詳述した通り、一部の実務家教員を臨床能力の維持、臨床教育・研究の推進のため週次で実務実習先となる医療施設に派遣しており、実務実習においても施設と共に教育指導を行う等、実務実習先との連携体制の強化に注力する。

### （6）実習前の準備状況

薬学実務実習は臨床現場での実習であることから、実務実習学生、患者及び他の医療関係職の安全確保の面から、感染症予防への対応が求められる。設置する薬学部薬学科では、現在の大阪薬科大学における指導と同様に、必要な予防接種の対応について事前指導を行う。

薬学教育協議会が公表している「病院における長期実務実習に対する基本的な考え方」「6年制薬局実習の受入薬局に対する基本的な考え方」に基づき、毎年4月に定期健康診断を実施する。4年次には定期健康診断と合わせて、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘及びB型肝炎の抗体検査を行い、抗体価が低い学生に対してはワクチンを接種するよう指導し、指導後のワクチン接種の有無を確認する。実務実習学生の抗体検査の結果は、実務実習施設に提示する。なお、学生に対しては、臨床導入学習や実務実習に関するガイダンスを通じ、健康診断・ワクチン接種の意義を説明する。【資料19：令和元年度 実務実習ガイダンス資料】

また、学生自身の傷害に対応するために公益財団法人日本国際教育支援協会が提供している「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」に全学生を対象に大学として加入する他、実習中に実習施設へ損害を与えた場合の補償のため「学研災付帯賠償責任保険」にも同様に加入する。さらに、学研災で対応できない感染症に罹患した際の対応として、薬学実務実習災害補償規程を定め、補償に対応すべく大学として約定履行保険に加入する。

実習中に知り得た個人情報、機密情報等の取り扱いは、「病院・薬局等における実習等の誠実な履行並びに個人情報等及び法人機密情報の保護に関する説明文書」に基づいて守秘義務の遵守に関する指導を行い、実習生に個人情報・法人機密情報の保護に関する誓約書を提出させる。【資料 16：病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書】【資料 17：病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書】

## （7）事前・事後における指導計画

### ①事前指導

特任教員は薬学実務実習開始前の施設訪問時に、学生の提出したプロフィールに基づき指導上必要な情報を指導薬剤師に伝え、また施設の作成した実習スケジュール表をもとに、実習計画が「薬学実習モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）」に準拠していることを確認する。

学生に対する実務実習直前の指導として、実務実習の全体ガイダンス終了後に学生と特任教員の個別面談を行う。面談では、実習施設の概要、実習スケジュール、施設からの連絡事項、その他注意事項などを確認する。

実務実習のための事前学習は、3 年次に配置する「臨床薬学概論」、「医薬品情報学」、4 年次に配置する「臨床導入学習 1」「個別化医療」、「コミュニティファーマシー」、「臨床導入学習 2」で行う。これらの科目を通じて、実務実習に臨むに際して必要な、医療人としての態度の醸成、薬剤師の職責の重さ及び薬剤師業務の概要を理解させる。【資料 20：授業科目の概要（実務実習事前学習）】

### ②事後指導

実務実習終了後、学生は実務実習報告書と実習中に作成した資料及び到達度確認のために「実務実習指導・管理システム」から出力した進捗レポートを提出し、特任教員の最終的な内容の確認を受ける。

## （8）教員の配置並びに巡回指導計画

近畿2府4県を、大阪府北部、大阪府南部・奈良・和歌山、京滋、兵庫と大まかに4つのエリアに分け、それぞれのエリアに特任教員1~2名を各エリア担当教員として割り当て、学生の実習状況などの学習面と生活面を支援する。

実務実習期間中、特任教員は実習施設に常駐するのではなく、各施設での実務実習の指導は施設の指導薬剤師が行う。特任教員は学生が記録した日誌・週報を「実務実習指導・管理システム」で確認し、指導薬剤師と連携をとり必要な指導を行う。

実習施設の巡回については、特任教員が実務実習開始前と実習開始後1ヶ月内、及び終了1ヶ月前を目安に計3回、それぞれ施設を訪問する。なお、特任教員は実習施設訪問と並行し、大学での授業も担当するが、大学での教育活動と特任教員の負担を考慮した訪問計画となるよう配慮している。【資料21：薬学実務実習における教員配置計画】

### **(9) 実習施設における指導者の配置計画**

実習施設には指導薬剤師が確保され、「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」のSB0sに基づく実習内容を実施できることが、調整機構への実務実習施設としての登録条件となっており、実習施設の指導薬剤師が学生の指導にあたる。

また、実習施設のうち、多くの学生を受け入れている大阪医科大学附属病院及び国立循環器病研究センターでは、当該施設所属の指導薬剤師が指導にあたる他、本学の特任教員による巡回指導に加え、実務家教員である専任教員も週に一度のペースで訪問し、施設の指導薬剤師と共に学生指導に当たる。

### **(10) 成績評価体制及び単位認定方法**

実務実習の成績評価は、平成27年2月10日に薬学実務実習に関する連絡会議より示された「薬学実務実習に関するガイドライン」に従い、学習成果基盤型教育(OBE)の考え方に基づいて、「薬学臨床」の中項目GIO(5項目)の到達度を指標とした評価とする。

到達度の指標については、「薬学実務実習に関するガイドライン」に基づき、平成28年11月30日に薬学実務実習に関する連絡会議から「薬学実務実習の評価の観点について(例示)」が示され、さらに平成30年2月28日にはこれに一部改訂がなされた。

これらに従い、成績評価・単位認定はシラバス記載のとおりとしている。

これまでは、本学教員の評価50%、指導薬剤師の評価50%として総合評価を行うこととしていたが、目標達成度に重点を置き大学が主体的に評価を行うという観点から、以降、実務実習記録による評価50%、学生との懇談内容10%、指導薬剤師による評価30%、学生のルーブリック10%という割合で、総合評価を行う。【資料22：病院実務実習シラバス・薬局実務実習シラバス】【資料23：実務実習 ルーブリック】

## 11. 管理運営

本学の教学マネジメントは、学長をリーダーとし、その下に各学部の学部長を置くとともに、学長が必要と認めた場合は、副学長を置くことができる体制とする。

また、学長－学部長のマネジメント体制を効果的に機能させるため、以下の会議体や教  
学面における管理運営に必要な組織を設置し、教学のガバナンスを構築する。

### (1) 学部間協議会

学部間協議会（仮称）は、学長、副学長、学部長・研究科長及び各学部・研究科の必要  
な教員をもって構成し、学長が議長となり、定例として原則毎月一回開催する。

学部間協議会は、各学部・研究科教授会での審議事項の共有、各学部・研究科間の調整  
を行うとともに、次に掲げる事項について学長が決定するに当たり、審議のうえ意見を述  
べる。

- ・教育・研究・大学運営面における全学的又は学部・研究科横断的な重要事項
- ・学則その他重要な全学的又は学部・研究科横断的規則の改廃
- ・その他、必要と認められる事項

### (2) 教授会

学則第 47 条に基づき、学部毎に教授会を設置する。教授会は、学部毎に学部長及び教授  
で構成し、学部長が議長となり、定例として毎月一回開催する。薬学部においては、実務  
家教員である教授を構成員に加え、教育課程の編成や教育研究上の組織運営に参画させる  
こととしている。なお、学長は教授会に陪席することができる。

教授会は、次に掲げる事項について学長が決定するに当たり、審議のうえ意見を述べる。

- ・学生の入学、卒業及び課程の修了
- ・学位の授与
- ・上記の他、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの（以下の 1～9）
  1. 学則制定、改廃に関する事項
  2. 学部の管理、運営及び諸規程の制定、改廃に関する事項
  3. 教授、准教授その他教員の候補者に対する適格性審査に関する事項
  4. 教育課程、授業、試験又は進級判定等に関する事項
  5. 学生の教育研究に関する事項
  6. 研究生又は科目等履修生等に関する事項
  7. 所属職員の教育研究活動、教育研究における I R 及び危機管理に関する事項

8. 附置施設の教育研究上の利用に関する事項

9. その他、学長が諮問する事項

なお、薬学部においては審議内容に応じ、薬学部長及び教授、准教授、講師をもって構成する拡大教授会を不定期に開催する。

### **(3) 委員会等**

薬学部の教育課程の編成や教育研究の推進、その他専門的な事項を審議するため、各種委員会等の組織を設置する。委員会は、学長や薬学部教授会からの諮問事項及び当該委員会が所掌する事項について審議し、必要な任務を遂行する。以下に薬学部における主要な委員会を示す。

- ・ 教務部委員会
- ・ 学生部委員会
- ・ キャリアサポート部委員会
- ・ 入試委員会
- ・ 研究委員会
- ・ 共同研究センター運営委員会
- ・ カリキュラム委員会
- ・ FD 委員会
- ・ 実務実習等専門委員会
- ・ 自己点検・評価委員会

## **12. 自己点検・評価**

### **(1) 自己点検・評価の基本方針**

大阪医科薬科大学学則第3条に、大学の教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動等の状況について、点検及び評価を行う旨定めている。これを受け、大学に設置する大阪医科薬科大学教育戦略会議及び研究戦略会議が全学的な内部質保証の推進を担う。この戦略会議は、「学長が提唱し、戦略会議で定めた教学目标を実現するために必要な事項に関する企画を立案し、教育及び研究活動等に関する展開及び内部質保証を推進する」ことを任務としている。この戦略会議の下に、学部・研究科の自己点検・評価組織として薬学部長を長とする「薬学部／薬学研究科自己点検・評価委員会」を設置する。【資料24：大阪医科薬科大学薬学部／大学院薬学研究科 自己点検・評価委員会規程】

薬学部／薬学研究科自己点検・評価委員会の任務は、「薬学部等の教育研究水準の向上を図り、薬学部等の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等に関する事項（下述の（2）に記載）について自己点検・評価を実施し、薬学部等の内部質保証を推進するとともに、もって本学における内部質保証の推進に寄与するものとする」と委員会規程に明示する。

薬学部／薬学研究科自己点検・評価委員会が実施する自己点検・評価の結果や、この結果に基づき策定する改善計画等については、全学的内部質保証推進組織に報告することとし、これをもって学部・研究科におけるPDCAサイクルを機能させるとともに戦略会議による学部・研究科の内部質保証活動の管理や全学的な目標等にも対応していく。なお、このようなPDCAサイクルを機能させる考えは、大阪薬科大学での考えと同様であり、大学統合後は戦略会議に踏襲する。大阪薬科大学において全学的組織であった内部質保証委員会は、学部・研究科の自己点検・評価組織である薬学部／薬学研究科自己点検・評価委員会に引き継ぐものとする。

大学機関別認証評価については、大阪薬科大学では平成16年度（第1期）、平成23年度（第2期）、平成30年度（第3期）に公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、同協会が定める基準に適合しているとの認定を受けた。また、薬学教育評価機構による6年制薬学教育プログラムの分野別評価についても、平成28年度に受審し、同機構が定める基準に適合しているとの認定を受けた。

大阪医科大学では平成18年度（第1期）、平成25年度（第2期）に同協会による認証評価を受審し、同協会が認める基準に適合しているとの認定を受け、令和2年度に第3期認証評価を受審する。大学統合後は、文部科学省及び同協会からの見解を受け、大阪医科大学の受審サイクルにより大学機関別認証評価に対応することとなる。

大阪薬科大学においては実施していた大学機関別認証評価や分野別評価等の自己点検・評価結果については、大学統合後についても薬学部・薬学研究科ホームページにおいて公表を継続するものとし、これまでの大阪薬科大学としての内部質保証は薬学部・薬学研究科に全て承継するものとする。

## （2）自己点検・評価の基本項目

薬学部・薬学研究科における自己点検・評価の項目については、薬学部／薬学研究科自己点検・評価委員会規程において次のとおり明示する。この項目は全学内部質保証推進組織である大阪医科薬科大学教育戦略会議及び研究戦略会議が実施する検証項目と同様のものであり、全学組織と学部・研究科組織の活動が連動する形とする。

- ①全学内部質保証推進組織からの要請等に関すること
- ②薬学部等の理念・目的の策定及び検証に関すること

- ③薬学部等のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー（3ポリシー）の策定及び検証に関すること
- ④3ポリシーに基づく薬学部等の学習成果、教育課程及び入学者選抜の成果の検証に関すること
- ⑤薬学部等の教育研究組織、教員組織、学生支援、教育研究環境、社会連携・社会貢献の方針の策定及び検証に関すること
- ⑥薬学教育第三者評価（分野別評価）の受審に関すること
- ⑦機関別認証評価及びその他内部質保証に関すること

### 13. 情報の公表

#### (1) 公表の取組み

本学では、大学設置基準第2条、学校教育法第113条の定め及び学校教育法施行規則第172条の2の改正による「教育研究活動等に関する情報公表」の義務化に基づき、大学運営や教育研究等の諸事項について、公的な教育機関としての社会的説明責任を果たすとともに、公正かつ透明性の高い運営を実現し、教育研究活動の質的向上を図ることを目的として、これらの情報を積極的に公表する。

設置する薬学部においても、ステークホルダーが適切に必要な情報を得られるよう配慮し、学部及び学科における教育研究上の目的等について情報を公表する。

教育情報の公表については、インターネットを利用し広く周知を図ることとする。ホームページ上では、「トップ>大学紹介>公表情報」へと明確にリンクさせ、ステークホルダーにとって分かりやすく閲覧することができるように準備する。

ホームページアドレス（予定）：<https://www.ompu.ac.jp/about/disclosure/index.html>

#### (2) 公表項目

次の教育研究活動等の状況についての情報を公表する。

##### ①大学の教育研究上の目的に関すること

- ・大学の基本姿勢（建学の精神、学是、教育研究上の目的、教育指針、教育の特色）
- ・学部・学科／研究科・専攻の概要（教育目的、教育指針、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、取得を目指せる資格）

##### ②教育研究上の基本組織に関すること

- ・学部・学科／研究科・専攻、研究室一覧

##### ③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・教員一覧（学位を含む）、教員数、教員組織、研究業績一覧

**④入学者に関する受入方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること**

- ・学部・学科／研究科・専攻のアドミッション・ポリシー
- ・入学定員・入学者数・入学者数推移、収容定員・在籍者数、学位授与数
- ・卒業者数、就職実績（就職・求人状況）、就職先情報（業種別実績）

**⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること**

- ・学部・学科／研究科・専攻のカリキュラム・ポリシー
- ・学びの特色、学則、年間の授業計画(シラバス)

**⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定にあたっての基準に関すること**

- ・学部・学科／研究科・専攻のディプロマ・ポリシー
- ・学則、学位規程

**⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること**

- ・キャンパスマップ、施設紹介、校地・校舎面積、学習環境、課外活動の状況、主な交通手段、耐震化率

**⑧授業料、入学金その他の大学が徴収する費用に関すること**

- ・入学金、学費、その他の学生納付金関連経費

**⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること**

- ・修学支援体制、経済的支援体制、学生生活支援体制、就職支援体制、高等教育の修学支援制度への対応

**⑩その他の教育研究活動等**

- ・学位論文にかかる評価にあたっての基準
- ・国際交流（国際交流助成事業、提携校、外国語教育支援プログラム）
- ・社会貢献活動（地域連携、市民講座）
- ・大学機関別認証評価における評価報告書、自己点検・評価報告書
- ・学事カレンダー、年間行事予定
- ・学内の行事や出来事（随時トピックスとして配信）

上記の他、次の財務及び経営に関する情報を公表する。

- ・事業計画書及び事業報告書
- ・計算書類
- ・寄附行為
- ・役員名簿



## 14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修

### (1) 教育内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等 (FD 研修)

教育内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等 (FD 研修) については、大阪薬科大学薬学部における体制及び内容を踏襲した上で、さらに発展を目指すものとする。

FD 研修の組織的な対応にあたり FD 委員会を設置する。【資料 25：大阪医科薬科大学薬学部／大学院薬学研究科 FD 委員会規程】

具体的には、授業に関する学生へのアンケート調査、公開授業及び研究会の実施、教員の職能を高めるための研修会等の実施、ティーチング・ポートフォリオの導入、学生 FD 委員会との意見交換等を実施する。【資料 26：FD 実施状況一覧】

授業、実習に関する学生へのアンケート調査については、毎年前期・後期に 1 回ずつ、全ての講義演習、実習で実施する。アンケート結果は、集計して各担当教員に配布し、授業改善の参考とさせる。また、科目毎のアンケート結果は、学内専用ホームページで、学生及び教職員に公開する。

公開授業については、前期・後期のそれぞれで FD 委員会を選定する教員の講義を教員が参観し、評価する。また、当該公開授業に参加する学生に対してもアンケートを実施し、その結果を用いた検討の後、学生も参加可能な公開授業研究会を実施する。

教員の職能を高めるための研修会については、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーをはじめ、アクティブ・ラーニング、学生ポートフォリオと GPA の活用事例等の関心が高い事項を取り上げ、ワークショップ形式により開催する。

ティーチング・ポートフォリオについては、教員自身の教育理念や教育活動等、教育の方法、教育の成果や今後の目標までを自己省察等を用いて記載させ、「教育業績ファイル」として将来の授業の向上や改善等のために導入する。

また、学生の意見を FD 活動に反映することを狙いとして、学生 FD 委員会を立ち上げ、FD 委員会と合同で会議を開催し、授業や実習に関するアンケート調査の在り方などについて意見交換を行う。

### (2) 管理運営に必要な教職員への研修等 (SD 研修)

本法人では、「学校法人大阪医科薬科大学 職員研修に関する基本方針」及び大阪医科大学、大阪薬科大学それぞれの年度計画に基づき、組織的なスタッフ・ディベロップメント (SD) を実施している。【資料 27：学校法人大阪医科薬科大学 職員研修に関する基本方針】

本基本方針において、SD とは「教育研究、診療活動の適切かつ効果的な運営を図るため、職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修 (別に実施するファカルティ・ディベロップメント (FD) に関するものを除く。) を指し、法人に所属する全ての職員を対象とするものの他、SD の実施内容に応じて、事務職員、教

員や学長等の大学執行部、医療技術職員、管理職や監督職あるいは若年職員や中堅職員等、対象者を指定して実施する。

法人合併後、SDに関する基本方針を法人として統一し、実際の企画・実施は年度計画に基づき大学毎に行いながら、取扱うテーマによっては、大阪薬科大学所属職員を大阪医科大学主催のSDに派遣する等、大学間での柔軟な連携により推進してきた。【資料 28：大阪薬科大学 SD 基本計画】

大学統合後は、学部横断的に実施すべきSDについては全学的研修として扱うよう、研修区分の見直しを行う。これまで大学毎に実施してきた階層別研修については、大学事務局を中心に企画、全学的に実施することとする。また、テーマ別研修のうち、例えばハラスメント・人権・厚生補導等に関するものについては、関係委員会主導のもと、全学的に実施することとする。一方、テーマ別研修のうち、薬学部特有のテーマ（薬学部3ポリシー関連等）を扱う場合は、所属別研修として学部で実施する等、SDの内容に応じ、より効果的な企画・実施に努める。以上のように、大阪医科大学、大阪薬科大学で独自に築きあげてきたSD実施基盤をもとに、大学統合後は、委員会及び事務組織等の連携を実現し、研修機会の一層の充実を目指す。

参考として、大阪薬科大学及び大阪医科大学におけるSDの実施状況を資料に示す。【資料 29：SD実施状況一覧】

## 15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### (1) 教育課程内の取組

1年次の「薬学入門」では薬剤師に関する本質的事柄や薬剤師の使命、「医療人マインド」では本学医学部・看護学部と共同で医療に関わる様々な専門職種の役割・機能について学ばせ、医療人となることの自覚を持たせる。さらに、1年次の「早期体験学習」では、薬剤師の業務と果たすべき役割について講義の後、薬剤師及び薬学卒業生の活躍する病院薬剤部や保険薬局、製薬企業や特別養護老人ホーム等の医療関連施設における体験型学習を行い、グループ討議を行わせ、入学後の早い時期から薬剤師をはじめとする医療人になるという将来目標を達成するための意欲・意識の向上を図る。

加えて、4年次の「キャリアデザイン概論」では、薬剤師をはじめとする薬事・薬業関連業種における職種や業務が多様化・細分化へと進む社会背景を踏まえ、自己理解と職業理解を通して自身のキャリアデザインを考え、自立・自律した社会人としての意識・態度を身に付けさせる。【資料 30：授業科目の概要（社会的・職業的自立指導関係）】

また、実務実習事前学習の実施、これを経た5年次に病院・薬局での参加型実務実習を実施することをもって、実際の医療現場での幅広い薬剤師業務を実践させ、知識、技能、

態度の修得のみならず、薬剤師として社会において他者と協働し患者と関わるということの理解を修得させる。

## **(2) 教育課程外の取組**

大阪薬科大学における就職支援と同等の支援を、設置する薬学部においても引き続き実施する。

### **<薬学部薬学科>**

薬学部薬学科における就職支援は、入学時のガイダンスで概略を説明することから始めるが、4年次後期以降に就活スタートを意識づけるガイダンスや講演会を開催し、就職やキャリアに対する意識を醸成することから本格的に開始する。就職状況一般の説明や薬学生の進路を幅広く解説する講座と共に、社会人と接するための基本的マナーを学ぶ講座など、社会と関わるための基礎的な能力を身につけることにも配慮する。

また、それに続き、学生の希望進路に応じて、様々な講座を開催する。企業を目指す学生に対しては、「志望企業の選び方講座」「SPI 試験対策講座」「企業志望者講座（製薬企業）」「製薬企業での働き方講座（少人数×4職種）」「インターンシップ面接体験」などを開催することにより、企業でのキャリアを考える機会を提供しつつ、インターンシップへの参加を促してより詳しい情報を収集できるよう支援する。病院を目指す学生に対しては、「病院薬剤部長による講演」「志望病院の探し方」「病院就活方針説明会」、病院薬剤部出身教員による「系統別病院ガイダンス」などの講座を開催する。公務員を目指す学生に対しては、5年次から「公務員対策講座（全6回）」を開催することで行政における薬剤師の役割やキャリア形成を紹介すると共に公務員試験への対応策について支援する。これらの講座、ガイダンスには低年次学生の参加も可能とし、キャリア形成の基盤とする。

これに加え、年に一度開催する「学内合同説明会」には企業、病院、薬局、官公庁から合わせて140以上の団体が一堂に集い、就活生には会社説明会の場としての参加を、また、就活前の学生には会社研究に活用するよう積極的な参加を呼びかけ、毎年大勢の学生が参加するイベントになっている。

### **<薬学部薬科学科>**

薬学部薬科学科における就職支援は、薬学科と同様に入学時のガイダンスでの概略説明から始まり、4年次進級を前に学科配属が決定されると、キャリアサポート課から進路に関する希望を確認する。薬科学科では、合わせて設置する大学院薬学研究科薬科学専攻への進学希望者の割合が大きい。就職を希望する学生に対しては就活に後れを取らないよう面談を行う。また、3年次の2月に開催される就活スタートガイダンスや講演会への参加を

促し、社会人と接するための基本的マナーを学ぶ講座など、社会と関わるための基礎的な能力を身につけることにも配慮する。

また、その先に学生の希望進路に応じて、様々な講座を開催する。薬学科と同様に「志望企業の選び方」「SPI 試験対策」「企業研究（製薬企業）」などの各種講座や「面接実践トレーニング」などを開催することにより、企業でのキャリアを考える機会を提供しつつ、インターンシップに参加してより詳しい情報を収集できるよう支援する。

学科の隔てなく年に一度開催する「学内合同説明会」にも、薬科学科における就職先となり得る企業、官公庁から合わせて 50 以上の団体が集い、就活生へ会社説明会の場としての積極的な参加を促している。

### **（3）適切な体制の整備**

薬学部には、学生の進路・就職支援に関する事項を審議する「キャリアサポート部委員会」を設置する。委員会は教員及び後述のキャリアサポート課の事務職員により構成され、学生のキャリア形成及び進路・就職を支援する企画の立案、実施全般を担う。

キャリアサポート部委員会は、キャリアサポート課からの進路・就職に関する各種調査やその分析結果、有用な情報をもとに学部学生並びに大学院学生の進路選択に関する支援施策を審議し、決定する。また、学生からの進路相談、進路に関するガイダンスやセミナー、インターンシップ活用の推進にも携わる。

事務組織としては「キャリアサポート課」を設置する。キャリアサポート課は専任職員 4 名と契約職員 1 名が配置されており、専任職員 3 名が国家資格であるキャリアコンサルタントの資格を持ち、学生の個別相談に当たる体制を取っている。

キャリアサポート課は、キャリアサポート部委員会と連携しながら、学部学生並びに大学院学生に対して自分が進むべき進路に関する意識を高めて具体的に検討するための教育セミナーや各種講座を企画・実施すると共に、進路に関する個人相談や面接トレーニングなどの学生支援を実施する。また、進路に関する調査・分析・情報の収集及びキャリアサポート部委員会への提供などを行う。

病院に関する情報や学生の相談には、教員組織である臨床薬学教育研究センターの「臨床実践薬学教育部門」（特任教員として、大規模病院等での薬剤部長等の要職経験者の実務家教員が所属）と緊密な連携を取り対応する。さらに、多国籍企業においては英語での面接が設定されていることもあり、英語を担当する専任教員との連携により、学生の求めに応じて英語での面接の練習を実施している。

学生への情報提供は学生ポータルシステムとキャリアサポート資料室により行う。学生ポータルシステムでは、web による求人情報の検索やメールによる情報提供ができる環境が

整備され、また、キャリアサポート資料室では、求人票だけでなく、会社案内、先輩達の採用試験報告書やその他の情報を提供できる環境を整備している。

## 16. 学科間の差異・特徴

この度設置する薬学部においては、薬学科と薬科学科を設ける。前述の「薬学部薬学科・薬科学科の目的及び養成する人材像」「学部・学科の特色」に記載するとおり、薬学科については薬剤師の養成が主な目的である。一方、薬科学科については大学院進学と連携した薬学を基盤とする研究者の養成が主な目的である。

この薬科学科は平成30年度より学生募集を停止している学科であり、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおり、この度の大学統合にあたり、学生の権利保証のため、学生募集停止を継続したまま設置する学科である。教育課程については、大阪薬科大学薬学部薬学科の旧教育課程（平成27年度から平成29年度入学生適用）の1年次から3年次までを学部共通としており、4年次の教育課程のみが独自のものとなる。4年次では、薬科学科としての独自の授業科目である「バイオインフォマティクス」「分子設計学」等を配置するとともに、卒業研究である「特別演習・実習（前期）」「特別演習・実習（後期）」を配置する。なお、薬剤師養成教育に係る授業科目は配置せず、卒業研究に注力することができるようにしている。

薬科学科の教育課程の編成の概要はこのような内容であるが、この度設置する薬学科の教育課程（令和3年度以降入学生適用）と大阪薬科大学薬学部薬学科の旧教育課程（平成27年度から平成29年度入学生適用）は教育課程の編成に係る基本的な考えは同じものの、全く同一ではないため、薬科学科の教育課程との差異を単純に抽出して対比させることはできない。

については、この度設置する薬科学科と大阪薬科大学薬学部薬学科（平成27年度から平成29年度入学生適用）の教育課程を対比させた資料を添付するので、こちらから参照願いたい。【資料31：学科間の教育課程の差異について】

## 17. 実務の経験を有する教員の配置に関する考え方・計画

建学の精神、大学の理念、薬学部の目的に定めている通り、薬学部では臨床現場で活躍できる医療人の育成を目指している。臨床現場における実践力を学生が修得するために、実務家教員10名が配置される臨床薬学教育研究センターを設置している。この臨床薬学教育研究センターに所属する実務家教員10名が中心となり、関連委員会（早期体験学習委員

会、実務実習等専門委員会、実務実習実施部会等)による教育・研究活動を推進し、また、実務家教員以外の教員においても、適宜役割に応じ薬学臨床教育に参画している。

以上の考え方を大学統合後も踏襲し、実務家教員を中心とした臨床教育の実践を継続実施する計画としている。なお、前述の「教員組織編成の特色」にて記載するとおり、当該実務家教員の多くは、臨床能力の維持、臨床教育・研究の推進のため週次で医療施設に派遣しており、大学統合後も引き続き派遣することとしている。

## **18. 長期実務実習の具体的計画**

### **(1) 実習計画の概要**

近畿地区の薬学実務実習は、上記「10. 実習の具体的計画」で示したとおり、一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構の下で体制が整備されている。「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」に準拠する実務実習については、「薬学実務実習に関するガイドライン」が示されており、ガイドラインに沿った実施体制の整備、学習方略の検討、大学と病院・薬局間の連携がなされている。設置する薬学部では、調整機構の調整の下、現在の大阪薬科大学で行われてきた実施体制を踏襲して実務実習を実施する。

#### **①実習のねらい**

薬局実務実習では、薬局の社会的役割と責任を理解し、地域医療に参画できるようになるために、保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談、医療機関や地域とのかかわりについての基本的な知識、技能、態度を修得する。

病院実務実習では、病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画できるようになるために、調剤及び製剤、服薬指導などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

#### **②実習単位**

実務実習で修得できる単位は、薬局実務実習10単位、病院実務実習10単位の計20単位とする。実習時間は、調整機構が定めているとおり、薬局実務実習及び病院実務実習の各期間を11週間とし、1日を7.5時間(90分×5コマ)、1週間5日間を標準としている。

#### **③主な内容**

実務実習は、「薬学実務実習に関するガイドライン」に沿って行うこととし、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に定められているSBOsについて行う。

#### **④実習施設**

近畿地区の薬学実務実習は、調整機構が実習受入施設を調整している。実習施設として登録するための条件は、指導薬剤師が確保され、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に定められている SBOs に基づく実習内容を実施できることである。

ちなみに平成 31 年度実務実習に向け調整機構から提示のあった近畿地区での延べ実習受入人数は 2,790 名余りに上り、近畿地区 14 大学の薬学部入学定員 (2,459 名) を上回る状況であった。このため、近畿地区出身の学生のみならず他地域からの出身者の実習に関しても受入に支障は無い。

また、他地域からの出身者のうち、出身地の地域医療に貢献したいという強い意志を持つものに関しては、調整機構を通じ、出身地域の調整機構に依頼し、実習施設を確保している。

#### ⑤実習時期

「薬学実務実習に関するガイドライン」及び連絡会議で示された通り、1 年を 4 期に分け、連続した 2 期に薬局実習と病院実習の順で、5 年次（実際は 4 年次の 2 月から開始し、5 年次の 3 月で終了）に履修する。大阪薬科大学において平成 31 年度に実施した実習スケジュールを資料として添付するが、大学統合後も同様のスケジュールに基づき実施するものとする。【資料 32：実務実習年間スケジュール】

#### ⑥学生の配置

通学距離等を考慮し、調整機構の調整結果に基づき、1 病院につき 1 期 1 名～2 名程度（大規模病院の場合は 1 期 10 名～12 名程度）、1 薬局につき 1 期 1 名～2 名程度を配置する。

#### ⑦委員会の設置

設置する薬学部には、薬学実務実習を統括する実務実習等専門委員会の下に、実務実習実施部会を置き、本部会において以下の事項を審議し、薬学実務実習の円滑な実施に当たる。【資料 12：実務実習 実施・指導・連携体制図】【資料 13：大阪医科薬科大学薬学部 実務実習等専門委員会規程】

- ・実習受入れ施設の調整と決定
- ・実習前準備（抗体検査・予防接種、各種保険への加入、報告・連絡システムの整備、学生へのオリエンテーションなど）
- ・評価（修得度）表及び日報の書式作成
- ・訪問指導の準備（指導要領作成とその訪問指導担任教員への周知徹底、スケジュール調整等）
- ・訪問指導
- ・訪問指導担任教員からの報告の収集と定期的（緊急時はその都度の）検討と対応
- ・指導薬剤師及び訪問指導担任教員からの実習に係わる種々の要望及び相談への対応
- ・学生配属研究室の主任教員からの報告の収集及び対応要請

- ・ 定期的実習評価と単位認定
- ・ 成績不良者への対応
- ・ 指導薬剤師との総合懇談会の定期的開催
- ・ 実習期間中の学生に対する就職活動支援
- ・ 実習成果のまとめ（報告集作成、報告会の開催など）
- ・ 緊急時（病気、事故、災害、人的トラブル、その他ドロップアウトなど）への即時対応

### ⑧学生へのオリエンテーションの内容、方法（事前指導）

学生へは、4年次に実務実習の全体ガイダンスを実施し、意義、目標、実習概要、実習スケジュールなどを説明する。【資料 19：令和元年度 実務実習ガイダンス資料】

また、実務実習直前の指導として、薬学実務実習での大学と施設の連携・学生指導を担う特任教員（教授：大規模病院等での薬剤部長等の要職経験者の実務家教員）と学生との個別面談を行い、実際の実習施設の概要、実習スケジュール、施設からの連絡事項、その他注意事項などを確認する。

### ⑨実習までの抗体検査、予防接種及び傷害保険、損害賠償責任保険などの対策

薬学実務実習は臨床現場での実習であることから、実務実習学生、患者及び他の医療関係職の安全確保の面から、感染症予防への対応が求められ、学生へは臨床導入学習や実務実習に関するガイダンスを通じ、健康診断・ワクチン接種の意義を説明し、必要な予防接種の対応について事前指導を行う。

薬学教育協議会が公表している「病院における長期実務実習に対する基本的な考え方」「6年制薬局実習の受入薬局に対する基本的な考え方」に基づき、毎年4月に定期健康診断を実施する。4年次には定期健康診断と合わせて、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘及びB型肝炎の抗体検査を行う。その結果、抗体価が十分でない学生には、日本環境感染学会が公表している「医療関係者のためのワクチンガイドライン 第2版」を参考にワクチンを接種するよう指導し、指導後のワクチン接種の有無を確認する。実務実習学生の抗体検査の結果は、実務実習施設に提示する。

また、学生自身の傷害に対応するために公益財団法人日本国際教育支援協会が提供する「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」に全学生を対象に大学として加入する他、実習中に実習施設へ損害を与えた場合の補償のため「学研災付帯賠償責任保険」にも同様に加入する。さらに、学研災で対応できない感染症に罹患した際の対応として、薬学実務実習災害補償規程を定め、補償に対応すべく大学として約定履行保険に加入する。

## （2）実習指導体制と方法

### ①巡回指導計画



近畿2府4県を、大阪府北部、大阪府南部・奈良・和歌山、京滋、兵庫と大まかに4つのエリアに分け、それぞれのエリアに特任教員1~2名を各エリア担当教員として割り当て、学生の実習状況などの学習面と生活面を支援する。

実務実習期間中、特任教員は実習施設に常駐するのではなく、各施設での実務実習の指導は施設の指導薬剤師が行う。特任教員は学生が記録した日誌・週報を「実務実習指導・管理システム」で確認し巡回指導を行うとともに、実習施設毎の指導薬剤師と連携をとり必要な指導を行う。

特任教員による実習施設の巡回スケジュール及び回数は、実務実習開始前と実習開始後1ヶ月内、及び終了1ヶ月前を目安に計3回、それぞれ施設を訪問することとする。

## ②実習計画全体が掌握できる年間スケジュール表及び各班のスケジュール表

調整機構と協議の上、策定した年間スケジュールを示す。【資料32：実務実習年間スケジュール】

## ③各段階における学生へのフィードバック、アドバイスの方法等

学生による実習の日々の記録は、富士ゼロックスシステムサービス株式会社の提供する「実務実習指導・管理システム」を利用し、オンライン上で日誌・週報の作成とSB0sの達成状況等を記載する。特任教員及び研究室の指導教員はオンライン上で担当する学生の実習日誌・週報、進捗状況を把握し、必要に応じて指導薬剤師に実習状況を確認している。

学生に対しては、指導薬剤師から日々の指導の中でフィードバックやアドバイスを行う他、特任教員よりシステム上のメッセージ機能やその他の連絡手段により指導を行う。また、実習開始後の巡回指導の際に面談する他、指導薬剤師とともに実習の進捗状況の確認を行う。

## ④学生の実習中、実習後のレポート作成・提出等

実習中は、「実務実習指導・管理システム」を利用して、オンライン上で日誌・週報を作成する。

実習後は、実務実習終了後に実習施設の概要、実習内容を記載した「実務実習報告書」と実習中に作成した資料（パワーポイント資料）及び到達度確認のために「実務実習指導・管理システム」から出力した進捗レポートを提出し、特任教員の最終的な内容の確認を受ける。

### （3）施設との連携体制と方法

#### ①施設との連携の具体的方法、内容

薬学実務実習期間中は、5名の特任教員が主となって学生を支援するとともに実習施設との連携を図る。継続して実習施設とかかわることが、実習施設との円滑な連携を図るため

重要であると考え、教員の担当施設及び担当地区はできる限り固定し、年度によって変わることのないよう可能な限り配慮する。

また施設との連絡を密にするため、事前訪問の際に「実務実習指導・管理システム」のメッセージ機能の利用について確認をとり、特任教員だけでなく研究室の指導教員とも連絡が取れることを周知する。学生は、このシステムを利用して、オンライン上で日誌・週報の作成とSB0sの達成状況を記載する。特任教員や研究室の指導教員は、担当する学生の実習日誌・週報、進捗状況をオンライン上で把握し、必要に応じて指導薬剤師に実習状況を確認する。

さらに年度末には学生による報告会（ポスター発表形式）を開催し、併せて特任教員と指導薬剤師との懇談・振り返りの場を設け、実習教育・指導における連携を図る。

## ②相互の指導者の連絡会議設置の予定等

「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」に移行後、病院と薬局のグループ化を図り、実習開始前に特任教員と指導薬剤師が協議会を開催し、実習内容が薬局－病院といった連続したものとなるよう、また、実習内容がSB0sを充たすことを確認し、加えて、実習終了時には振り返りの会合を開催することで連携を深めている。

## ③大学と実習施設との緊急連絡体制

実習施設との連絡は、通常は「実務実習指導・管理システム」のメッセージ機能を利用することとし、特任教員だけでなく研究室の指導教員とも連絡が取り合える体制としている。さらに、特任教員には携帯電話（スマートフォン）を貸与し、緊急時には施設や学生と相互に連絡できるよう体制を整えている。

## ④各施設での指導者の配置状況

前述のとおり、実習施設には指導薬剤師が確保されている。

## ⑤実習前、実習中、実習後等における施設との調整・連携等

実習開始前は、特任教員が実習施設訪問時に、学生の提出したプロフィールに基づき指導上必要な情報を指導薬剤師に伝える等、必要な調整・連携を行う。

実習期間中は、特任教員が巡回指導を行うとともに「実務実習指導・管理システム」等を利用し、実習施設との連携を図る。

年度の実習終了後も特任教員の担当施設及び担当地区は可能な限り固定するよう配慮し、継続して実習施設と関わることで、実務実習における実習施設との円滑な連携を図ることとする。

## （４）単位認定等評価方法

### ①各施設での学生の評価方法

各施設の指導薬剤師が「実習態度」と「実習内容の修得度」について、それぞれ5項目、25項目について5段階評価を行う。さらに実習指導者の「概評」が加えられる。これらの評価項目は調整機構により統一されたものである。

### ②各施設の指導者と大学側の指導者との評価における連携方法

前述のような施設の指導者による実習の評価の結果は、特任教員が訪問、巡回時に逐一点検し、当該指導者と協議の上、学生への面接を行う。この際、必要に応じて引続き行われる実習について、指導や助言を行うこととする。実習終了後は、施設の指導者による評価の結果は、特任教員による確認を経て、実務実習実施部会で審議し、最終評価とする。

### ③大学における単位認定方法

実務実習の成績評価は、「薬学実務実習に関するガイドライン」に従い、学習成果基盤型教育（OBE）の考え方にに基づき、「薬学臨床」の中項目GIO（5項目）の到達度を指標とした評価とする。

到達度の指標については、平成27年2月10日に薬学実務実習に関する連絡会議より示された「薬学実務実習に関するガイドライン」に基づき、平成28年11月30日に同会議から「薬学実務実習の評価の観点について(例示)」が示され、さらに平成30年2月28日にはこれに一部改訂がなされた。

これらに従い、成績評価・単位認定はシラバス記載のとおりとしている。

これまでは、本学教員の評価50%、指導薬剤師の評価50%として総合評価を行うこととしていたが、目標達成度に重点を置き大学が主体的に評価を行うという観点から、以降、実務実習記録による評価50%、学生との懇談内容10%、指導薬剤師による評価30%、学生のルーブリック10%という割合で、総合評価を行う。【資料22：病院実務実習シラバス・薬局実務実習シラバス】【資料23：実務実習 ルーブリック】

## 19. 教育課程と指定規則等との対比表

「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」の一般目標（GIO）及びそれを達成するための到達目標（SBO）と設置する薬学部薬学科の教育課程との対比について、「教育課程と指定規則等との対比表」に示す。

なお、設置する薬学部薬学科における実務実習は改訂モデル・コアカリキュラムに準拠して実施することとなるため、設置する薬学部薬学科の実習科目と改訂モデル・コアカリキュラムの到達目標、実施施設（病院・薬局）の対応関係については【F 薬学臨床】において示している。【資料33：教育課程と指定規則等との対比表】

## 20. 転入学する学生への措置について

### (1) 学生、保護者、入学志願者及び関係組織等の周知方法

令和3年度に大阪医科大学（大阪医科薬科大学へ名称変更申請予定）に薬学部及び大学院薬学研究科を設置（薬学部及び薬学研究科各専攻課程の各年次の同時開設）し、現在の大阪薬科大学及び同大学院薬学研究科を廃止することから、現在の大阪薬科大学及び同大学院薬学研究科に在籍する学生を設置する薬学部及び大学院薬学研究科に転入学させる計画については、学生、保護者に十分に周知・説明している。

転入学する学生に対しては、事前に学生掲示板及びポータルサイトにて周知したうえで、令和元年6月18日～20日開催の大学統合説明会において、転学に係る経緯及び今後の予定を周知し、同意を得た上で「転学承諾書」を取得している。

学生の保護者に対しては、令和元年5月28日に大学統合に関する説明文「大阪薬科大学と大阪医科大学との大学統合計画について」を郵送し、さらに令和元年6月15日、22日に大学統合説明会を開催した。また、令和元年9月から10月にかけて実施した父母懇談会において、大学統合の進捗状況などを随時説明し、理解を得ている。

大阪薬科大学の志願者に対しては、平成31年度のオープンキャンパスにて大学統合に関する説明リーフレットを配布し、入試担当職員による近畿地区及び西日本地域を中心とした高等学校訪問の際にも同リーフレットを配布し、説明を行っている。また、令和2年度の大学案内（志願者向けパンフレット）においても、大学統合の計画を記載した頁を設けるなど、統合計画を広く周知している。

令和2年度の大阪薬科大学の入学予定者に対しては、入学手続き案内において、大学統合の計画と入学後に設置する薬学部又は大学院薬学研究科に転学することとなる旨を十分に説明し、これらの了承のもと、入学手続きを行うこととしている。

現在の大阪薬科大学の外郭団体である大阪薬科大学同窓会や教育研究等で関連のある大阪府薬剤師会及び大阪府病院薬剤師会をはじめとする近畿地区の各都道府県薬剤師会及び病院薬剤師会、所在する高槻市薬剤師会及び一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構に対しては、大学統合計画の主旨について説明を行い、賛同を得ている。

### (2) 転学に伴う教育方法の担保

設置する薬学部薬学科・薬科学科を開設する令和3年4月1日に大阪薬科大学から転学する学生に対しては、教育の質を担保するため、大阪薬科大学の入学年度の教育課程や履修に関する事項を継続して適用する。

この対応にあたっては、学則の附則に「薬学部規程に定めることとする取扱いのうち、学則の第3章及び第5章に関する事項の令和3年4月1日に大阪薬科大学から薬学部へ転入学した学生への適用については、薬学部規程細則に大阪薬科大学の入学年度に応じた個別の取扱いを定める。」と明示し、これと連動させ、薬学部規程の附則に「第3条、第7条、第9条から第14条、第17条、第18条及び第20条に定める事項については、大阪薬科大学の入学年度に応じた薬学部規程細則に個別の取扱いを定める。」と明示することにより、転学する学生に適用する異なる取扱いの所在を明確なものとする。

これらの学則及び薬学部規程の附則の定めを受け、薬学部規程細則を入学年度に応じて区分して作成し、これらの入学年度に応じた薬学部規程細則において、転学する学生に適用する教育課程や履修に関する事項を明示することより、当該転学する学生が卒業するまでの間、確実に教育方法を担保していく。【資料34：大阪医科薬科大学薬学部規程細則】

その他、修学のための履修指導の方法、健康管理、ハラスメント対策及び障がい者への支援、就職活動支援等、大阪薬科大学において提供してきた学生生活支援サービスはその質や内容を落とすことなく継続し、学生の安心・安全対策への配慮も適切に行う。

以上の通り、転入学する学生への教育条件の維持並びに学生支援等については万全を期すこととする。

## 設置の趣旨等を記載した書類(薬学部) 資料目次

- 【資料 1】 薬学部 学修成果評価の方針 (アセスメント・ポリシー)
- 【資料 2】 薬学科カリキュラムマップ
- 【資料 3】 薬科学科カリキュラムマップ
- 【資料 4】 設置時からの教育課程の変更状況
- 【資料 5】 大阪医科薬科大学薬学部 定年退職規則
- 【資料 6】 大阪医科薬科大学薬学部 定年退職者の再任用に関する特例内規
- 【資料 7】 大阪医科薬科大学薬学部 単位互換実施に関する規程
- 【資料 8】 薬学科履修モデル
- 【資料 9】 薬科学科履修モデル
- 【資料 10】 実習科目に係る主な機械・器具等一覧
- 【資料 11】 薬学科授業時間割モデル
- 【資料 12】 実務実習 実施・指導・連携体制図
- 【資料 13】 大阪医科薬科大学薬学部 実務実習等専門委員会規程
- 【資料 14】 薬学部学生の病院実習に関する契約書
- 【資料 15】 薬学部学生の薬局実習に関する契約書
- 【資料 16】 病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書
- 【資料 17】 病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書

- 【資料 18】 実務実習スケジュール
- 【資料 19】 令和元年度 実務実習ガイダンス資料
- 【資料 20】 授業科目の概要（実務実習事前学習）
- 【資料 21】 薬学実務実習における教員配置計画
- 【資料 22】 病院実務実習シラバス・薬局実務実習シラバス
- 【資料 23】 実務実習 ルーブリック
- 【資料 24】 大阪医科薬科大学薬学部／大学院薬学研究科 自己点検・評価委員会規程
- 【資料 25】 大阪医科薬科大学薬学部／大学院薬学研究科 FD 委員会規程
- 【資料 26】 FD 実施状況一覧
- 【資料 27】 学校法人大阪医科薬科大学 職員研修に関する基本方針
- 【資料 28】 大阪薬科大学 SD 基本計画
- 【資料 29】 SD 実施状況一覧
- 【資料 30】 授業科目の概要（社会的・職業的自立指導関係）
- 【資料 31】 学科間の教育課程の差異について
- 【資料 32】 実務実習年間スケジュール
- 【資料 33】 教育課程と指定規則等との対比表
- 【資料 34】 大阪医科薬科大学薬学部規程細則

## 薬学部 学修成果評価の方針（アセスメント・ポリシー）

薬学部では、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を踏まえ、学修成果を把握し評価するための方針を以下のとおり定めます。評価は、教育課程レベル及び科目レベルごとに行います。

### 【評価の目的】

学修成果を可視化することにより、学修支援及び教育課程の改善等を恒常的に行います。

- ・学位授与の方針に掲げられている資質と能力の修得状況を把握するために、評価を実施します（教育課程レベルにおける学修成果の可視化）。
- ・各科目において示された学習目標の達成状況を把握するために、評価を実施します（科目レベルにおける学修成果の可視化）。

### 【達成すべき質的水準及び評価の実施方法】

教育課程レベル

|           | 入学時  | 在学中  | 卒業時   |
|-----------|--|--|---|
| 達成すべき質的水準 | <p>入学者受入れの方針を満たす人材かどうか</p> <p>※入学後に円滑に学修することに懸念がある水準の場合は、対策を行います。</p>  | <p>教育課程編成・実施の方針に則って学修が進められているかどうか</p> <p>※特に4年次終了時点では、病院・薬局での実務実習に参加できるだけの資質と能力を有しているかどうかを確認します。</p>   | <p>学位授与の方針に掲げる資質と能力を有しているかどうか</p>   |
| 評価の実施方法   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験<br/>※入学の判定に使用します。</li> <li>・新入生学力テスト</li> <li>・PROGテスト（入学時）<br/>※入学後の学修支援に使用します。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位修得状況</li> <li>・薬学共用試験（4年次）<br/>※進級の判定に使用します。</li> <li>・GPA</li> <li>・標準年限進級率</li> <li>・PROGテスト（4年次）</li> <li>・授業、実習に対する学生アンケート<br/>※在学中の学修支援、授業及び教育課程の改善に使用します。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位修得状況</li> <li>・卒業研究への評価（卒業論文発表会の際に、評価シートを用いて評価）<br/>※学位授与の判定に使用します。</li> <li>・標準年限卒業率</li> <li>・就職及び進学状況</li> <li>・国家試験合格率</li> <li>・卒業時に実施する学生へのアンケート調査</li> <li>・卒業後に実施する卒業生及び就職先へのアンケート調査<br/>※教育課程の改善に使用します。</li> </ul> |

※別途、教育課程全体としての学修成果を把握し評価するための指標により、総合的な評価を実施します。



科目レベル

|                  |   |
|------------------|---|
| <p>達成すべき質的水準</p> | <p><b>教育課程編成・実施の方針に則って学修が進められているかどうか</b><br/>         ※各科目で修得すべき資質や能力（到達目標）はシラバスに記載します。</p>   |
| <p>評価の実施方法</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験</li> <li>・ 授業内で実施する演習試験</li> <li>・ レポート</li> <li>・ 実技、プレゼンテーションの評価</li> </ul> <p>※単位認定に使用します。<br/>         ※学則及び授業科目の履修要項の規定により評価します。評価結果は学業成績通知書に記載し、本人、保証人、アドバイザーに通知します。<br/>         ※上記の方法を組み合わせ、授業形態等に適した方法により総合的に評価を実施します。具体的な評価の方法や寄与率はシラバスに記載しますが、講義科目は筆記試験やレポート等により、知識及び思考力等を中心に評価します。演習、実習科目は、プレゼンテーション、実技等により、技能や態度を中心に評価します。また、必要に応じてルーブリック評価表を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GPA</li> <li>・ 授業評価アンケート</li> </ul> <p>※授業内容の改善に使用します。</p> |



# 薬学部薬科学科カリキュラムマップ

▲: 選択必修科目 ○: 選択科目

| カリキュラム・ポリシー  | 科目区分   | 1年次   |    | 2年次                                  |         | 3年次       |        | 4年次        |          | ディプロマ・ポリシー   |          |             |   |                          |     |
|--|--------|---|----|--------------------------------------|---------|-----------|--------|------------|----------|--|----------|-------------|---|--------------------------|-----|
|  |        | 前期  | 後期 | 前期                                   | 後期      | 前期        | 後期     | 前期         | 後期       |  |          |             |   |                          |     |
| <b>基礎教育</b><br><b>ヒューマニズム教育</b><br>薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と医療人に相応しい倫理観と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けます。          | 基礎教育科目 | ○<教養科目><br>前期:「文学の世界」「歴史と社会」「地球環境論」「政治と社会」「基礎心理学」「法と社会」「経済の世界」「社会分析の基礎」<br>後期:「人間と宗教」「文化人類学」「倫理と社会」「コーチング論」「スポーツ・運動実習2」「数理論理学」<br>各1科目1単位 |    |                                      |         |           |        |            |          | 医療に関わるために必要な倫理性と社会性を身に付けていること<br><br>研究者に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること |          |             |   |                          |     |
|  |        | 情報科学演習  | 1  | ○情報科学                                | 1       |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        | 身体運動科学  | 1  |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        | スポーツ・運動実習1  | 1  |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        | 物理学1  | 1  | 物理学2                                 | 1       |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        | 化学  | 1  |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        | 化学演習  | 1  |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        | 数学1   | 1  | 数学2                                  | 1       | 数理統計学     | 1.5    |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  | 基礎薬学科目 | 薬学入門  | 1  |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  | 医療薬学科目 | 早期体験学習1   |    | 1                                    |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
| <b>語学教育</b><br>国際化に対応し得る語学力を養う。  | 基礎教育科目 | 英語リスニング1  | 1  | 英語リスニング2                             | 1       | 英語スピーキング1 | 1      | 英語スピーキング2  | 1        | 異文化言語演習1   | 1        | 異文化言語演習2    | 1   | 国際化に対応できる基礎的な語学力を有していること |     |
|  |        | 英語リーディング1   | 1  | 英語リーディング2                            | 1       | 英語ライティング1 | 1      | 英語ライティング2  | 1        |  |          |             |   |                          |     |
|  |        | ▲ドイツ語1<br>▲フランス語1<br>▲中国語1<br>▲ハンブル1  | 1  | ▲ドイツ語2<br>▲フランス語2<br>▲中国語2<br>▲ハンブル2 | 1       |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
| <b>薬学専門教育</b><br>薬学の基礎知識及び薬の物性と構造、反応などの知識について体系的に修得します。  | 基礎教育科目 | 基礎有機化学  | 1  |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             | 創薬研究などに必要な基礎的知識と技能・態度を有していること<br><br>科学的な課題を探索し、解決する能力を有していること<br><br>研究者に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること |                          |     |
|  |        | 生物学   | 1  |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  | 基礎薬学科目 |   |    | 物理化学1                                | 1.5     | 物理化学2     | 1.5    | 物理化学3      | 1.5      | 放射化学   | 1.5      |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      | 分析化学1   | 1.5       | 分析化学2  | 1.5        |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         | 生物無機化学    | 1.5    |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      | 有機化学1   | 1.5       | 有機化学2  | 1.5        | 有機化学3    | 1.5  | 有機化学4    | 1.5         |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        | 有機スペクトル解析学 | 1.5      |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      | 基礎細胞生物学 | 1.5       | 生化学2   | 1.5        | 生化学3     | 1.5  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      | 生化学1    | 1.5       | 微生物学   | 1.5        |          | 免疫学  | 1.5      |             |   |                          |     |
|  | 応用薬学科目 |   |    | 機能形態学1                               | 1.5     | 機能形態学2    | 1.5    |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        | 応用分析学      | 1.5      | ○応用放射化学  | 1        | 分子設計学       |   | 1.5                      |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        | 物理薬剤学      | 1.5      |  |          | ○生物物理化学     |   | 1.5                      |     |
|  |        |   |    |                                      | 生薬学     | 1.5       | 基礎漢方薬学 | 1.5        | 薬用天然物化学1 | 1.5  | 薬用天然物化学2 | 1.5         |   | 合成化学                     | 1.5 |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          | ○薬品合成化学     |   | 1.5                      |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          | ○医薬品化学      |   | 1.5                      |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        | 衛生薬学1      | 1.5      | 衛生薬学2  | 1.5      | 衛生薬学4       |   | 1.5                      |     |
|  | 医療薬学科目 |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
| <b>実習科目</b><br>講義で得た知識に基づき、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力及びプレゼンテーション能力を醸成するために、研究室に所属し卒業研究を行います。 | 実習科目   |   |    | 分析化学実習                               | 1       | 物理・放射化学実習 | 1      |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    | 基礎薬学実習                               | 0.5     | 基礎有機化学実習  | 1      | 漢方・生薬学実習   | 0.5      | 有機化学実習   | 1        |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         | 生物学実習     | 1      |            |          | 生物科学実習   | 1        | 衛生薬学実習      | 1   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          | 薬理学実習       | 1   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          | 薬剤学実習       | 1   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          |             |   |                          |     |
|  |        |   |    |                                      |         |           |        |            |          |  |          | 特別演習・実習(前期) | 5   | 特別演習・実習(後期)              | 6   |





## 大阪医科薬科大学薬学部 定年退職規則

(令和3年4月1日施行)

**第1条** この規則は、大阪医科薬科大学薬学部及び大学院薬学研究科の教員の定年制を設けて人事の円滑な運営に資することを目的とする。

**第2条** 教員は満65歳に達したときは、その年度末をもって定年退職するものとする。

**第3条** 定年退職者には、別に定める退職手当を支給する。

**第4条** 本人の申請により、第2条の定年に達した者に対して、本学が必要と認めた場合は、なお嘱託として本学の職務を委嘱することができる。

2 前項に規定する嘱託には、退職手当を支給しない。

**第5条** 前条の申請は、定年に達する年度の前年度に書面で薬学部長を経て学長に提出するものとする。

**第6条** 第4条第1項の委嘱の決定は当該職員が定年に達した年度に、学長の内申に基づき理事長が行う。ただし、教授（嘱託）の委嘱は、理事会の承認を得るものとする。

**第7条** 嘱託として委嘱する期間は1年とし、1回に限り更新することができる。

2 前項の委嘱期間を更新する場合は、前2条の規定を準用するが、理事会の承認は要さない。

**第8条** この規則に定めるもののほか、この規則の運用に関し必要な事項は別に定める。

**第9条** この規則の改廃は、理事会が行う。

### 附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

## 大阪医科薬科大学薬学部 定年退職者の再任用に関する特例内規

(令和3年4月1日施行)

(目的)

**第1条** この内規は、大阪医科薬科大学（以下、「本学」という。）の薬学部及び大学院薬学研究科（以下、「薬学部等」という。）の設置に際し、大学統合に係る大阪薬科大学の薬学部等からの教員組織の円滑な移行と本学の薬学部等における教育研究の適切な実施に資することを目的に、本学の薬学部等の完成年度を迎えるまでの間の特例措置として定年退職者等の再任用に関し必要な事項を定める。

(定義及び対象者)

**第2条** この内規において「再任用」とは、大阪医科薬科大学薬学部定年退職規則第2条による定年退職後に同規則第7条第1項により嘱託として再雇用された教員及び大阪医科薬科大学薬学部特任教員規程第4条第1項ただし書きに基づく任期満了退職後に同規程同条第2項により再雇用された特任教員を対象に、当該規則等に定める当該嘱託教員又は特任教員としての再雇用期間（更新期間を含む）の限度を超えて引続き雇用する制度をいう。

(職位)

**第3条** 再任用者の職位は、再任用前の職位を引き継ぐものとする。

(再任用)

**第4条** 理事長は、第2条に規定する対象者のうち、学長からの推薦により、薬学部等の運営上特に必要と認めた者について次表左欄の生年月日区分に応じ同表右欄に定める年齢に達した日の属する年度の末日を限度として再任用することができる。

| 生年月日                  | 再任用限度年齢 |
|-----------------------|---------|
| 1954年4月1日から1955年3月31日 | 72歳     |
| 1955年4月1日から1956年3月31日 | 71歳     |
| 1956年4月1日から1957年3月31日 | 70歳     |
| 1957年4月1日から1958年3月31日 | 69歳     |
| 1958年4月1日から1959年3月31日 | 68歳     |

2 再任用期間は1年間とし、学長の推薦に基づき、その都度理事長が更新の可否を判断する。

(雑則)

**第5条** この内規に定めるもののほか、この内規の運用に関し必要な事項は別に定める。

(規程の改廃)

**第6条** この内規の改廃は、理事長が行う。

**附 則**

- 1 この内規は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 この内規は、薬学部の完成年度の末日の令和9年3月31日をもって廃止する。



## 大阪医科薬科大学薬学部 単位互換実施に関する規程(案)

(令和3年4月1日施行)

(趣旨)

**第1条** 大阪医科薬科大学学則(以下、「学則」という。)第25条第2項の規定に基づき、大阪医科薬科大学(以下、「本学」という。)の他学部及び他の大学等との単位互換を円滑に実施するため必要な事項を定める。

(大学間協議)

**第2条** 他の大学等と単位互換を実施する場合は、必要な事項を協議の上、学長が当該大学等との間で協定を締結する。

- 2 前項の大学等間の協議では、履修できる授業科目の範囲、認定される単位数、対象となる学生数、単位の認定方法、費用の取り扱い、その他必要な事項を決めなければならない。
- 3 前項の授業科目は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 4 本学の他学部との単位互換については、前2項の定めを準用するものとする。

(出願手続等)

**第3条** 本学の他学部及び他の大学等の授業科目の履修を希望する学生は、所定の期日までに別に定める書類を添えて学長に願い出るものとする。

- 2 学長は、本学の他学部及び他の大学等から受入れの通知があった者について願い出を許可する。

(単位の認定)

**第4条** 学生が本学の他学部及び他の大学等において履修した科目の単位については、当該他大学等からの成績評価及び履修単位の報告に基づき、薬学部教授会(以下、「教授会」という。)の議を経て、学長は本学薬学部の卒業の要件となる単位として認定する。

- 2 本学薬学部の卒業要件として認定する単位数は、2単位を限度とし、基礎教育科目の選択単位として加算する。
- 3 前項の規定を超えて履修した科目の単位は、増加単位とし認定する。

(受入れ学生の許可)

**第5条** 他大学等の学生で本学薬学部の授業科目の履修を希望する者があったときは、教授会の議を経て、学長は単位互換の受入れ学生(以下、「単位互換履修生」という。)として許可する。

- 2 前項により許可された学生は、単位互換履修生として所定の手続きを行わなければならない。

(履修期間)

**第6条** 単位互換履修生の履修期間は、半年間（前期又は後期）とする。

**第7条** 本学薬学部で受講する単位互換履修生には所定の単位互換履修生証を交付するので、当該科目受講や試験の際には携帯しなければならない。

2 単位互換履修生の有効期間は、当該科目の履修期間とする。

(履修及び単位修得の方法)

**第8条** 単位互換履修生の履修及び単位修得の方法は本学薬学部学生の場合と同様とする。ただし、再試験の受験は科目担当者の判断によるものとする。

(学業成績等の報告)

**第9条** 単位互換履修生が履修を終了するときは、教授会の議を経て、学長は、当該学生の成績評価及び修得単位について当該学生の所属する大学長に報告する。

(その他)

**第10条** 単位互換履修生は所定の手続きを経て、図書館を利用することができる。

**第11条** 単位互換履修生は本学の学生に準じ、学則その他諸規程を順守しなければならない。

2 前項に単位互換履修生が違反した場合は、履修の許可を取り消す場合がある。

(改 廃)

**第12条** この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が決定する。

## 附 則

この規程は令和3年4月1日から施行する。

# 薬学部薬学科 履修モデル

## 基礎教育科目

| 授 業 科 目    | 1年次 |    | 2年次 |    | 3年次 |    | 4年次 |    | 5年次 |    | 6年次 |    |
|------------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
|            | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 |
| 経済の世界      |     |    | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 社会分析の基礎    |     |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |
| コーチング論     |     |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 情報科学       |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 情報科学演習     | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| アカデミックスキル  | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 身体運動科学     | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| スポーツ・運動1   | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 物理学1       | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 物理学2       |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 化学         | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 生物学        | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 数学1        | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 数学2        |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 数理統計学      |     |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 英語リスニング1   | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 英語リスニング2   |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 英語リーディング1  | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 英語リーディング2  |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 英語スピーキング1  |     |    | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 英語スピーキング2  |     |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 英語ライティング1  |     |    | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 英語ライティング2  |     |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |
| ドイツ語1      | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| ドイツ語2      |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 異文化言語演習1   |     |    |     |    | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| 異文化言語演習2   |     |    |     |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |
| 医療心理学      |     |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |
| コミュニケーション  |     |    |     |    |     |    | ○   |    |     |    |     |    |
| キャリアデザイン概論 |     |    |     |    |     |    | ○   |    |     |    |     |    |

## 基礎薬学科目

| 授 業 科 目    | 1 年次 |    | 2 年次 |    | 3 年次 |    | 4 年次 |    | 5 年次 |    | 6 年次 |    |
|------------|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|
|            | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 |
| 薬学入門       | ○    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 物理化学 1     |      | ○  |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 物理化学 2     |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 物理化学 3     |      |    |      | ○  |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 放射化学       |      |    |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |
| 分析化学 1     |      | ○  |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 分析化学 2     |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 生物無機化学     |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 基礎有機化学     | ○    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 有機化学 1     |      | ○  |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 有機化学 2     |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 有機化学 3     |      |    |      | ○  |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 有機化学 4     |      |    |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |
| 有機スペクトル学演習 |      |    |      | ○  |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 基礎細胞生物学    |      | ○  |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 生化学 1      |      | ○  |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 生化学 2      |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 分子生物学      |      |    |      | ○  |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 微生物学       |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 免疫学        |      |    |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |
| 機能形態学 1    |      | ○  |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 機能形態学 2    |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |

## 応用薬学科目

| 授 業 科 目  | 1 年次 |    | 2 年次 |    | 3 年次 |    | 4 年次 |    | 5 年次 |    | 6 年次 |    |
|----------|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|
|          | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 |
| 薬学英语     |      |    |      |    |      |    | ○    |    |      |    |      |    |
| 応用分析学    |      |    |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |
| 薬用植物学    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 薬用天然物化学  |      | ○  |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 生薬学      |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 医薬品化学 1  |      |    |      |    |      | ○  |      |    |      |    |      |    |
| 医薬品化学 2  |      |    |      |    |      |    | ○    |    |      |    |      |    |
| 精密有機合成化学 |      |    |      |    |      | ○  |      |    |      |    |      |    |
| 衛生薬学 1   |      |    |      | ○  |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 衛生薬学 2   |      |    |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |
| 衛生薬学 3   |      |    |      |    |      | ○  |      |    |      |    |      |    |
| 分子細胞生物学  |      |    |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |
| 病原微生物学   |      |    |      |    |      | ○  |      |    |      |    |      |    |
| 基礎漢方薬学   |      |    |      | ○  |      |    |      |    |      |    |      |    |
| 物理薬剤学    |      |    |      |    | ○    |    |      |    |      |    |      |    |
| 医療統計学    |      |    |      |    |      |    |      | ○  |      |    |      |    |

# 医療薬学科目

| 授 業 科 目      | 1年次   |    | 2年次 |    | 3年次 |    | 4年次 |    | 5年次 |    | 6年次   |    |
|--------------|-------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-------|----|
|              | 前期    | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期    | 後期 |
| 医療人マインド      | ○     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |       |    |
| 専門職連携医療論     |       |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |       |    |
| 生命医療倫理       |       |    |     |    | ○   |    |     |    |     |    |       |    |
| 医療と法         |       |    |     |    |     | ○  |     |    |     |    |       |    |
| 多職種融合（連携）ゼミ  |       |    |     |    |     |    |     |    |     |    |       | ○  |
| 早期体験学習       | ← ○ → |    |     |    |     |    |     |    |     |    |       |    |
| 医療薬学導入学習     |       | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |       |    |
| 薬理学1         |       |    | ○   |    |     |    |     |    |     |    |       |    |
| 薬理学2         |       |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |       |    |
| 薬理学3         |       |    |     |    | ○   |    |     |    |     |    |       |    |
| 薬理学4         |       |    |     |    |     | ○  |     |    |     |    |       |    |
| 生物薬剤学1       |       |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |       |    |
| 生物薬剤学2       |       |    |     |    | ○   |    |     |    |     |    |       |    |
| 薬物速度論        |       |    |     |    |     |    | ○   |    |     |    |       |    |
| 製剤設計学        |       |    |     |    |     |    | ○   |    |     |    |       |    |
| 薬物治療学1       |       |    | ○   |    |     |    |     |    |     |    |       |    |
| 薬物治療学2       |       |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |       |    |
| 薬物治療学3       |       |    |     |    | ○   |    |     |    |     |    |       |    |
| 薬物治療学4       |       |    |     |    |     | ○  |     |    |     |    |       |    |
| 薬物治療学5       |       |    |     |    |     |    | ○   |    |     |    |       |    |
| 臨床化学         |       |    |     |    |     |    | ○   |    |     |    |       |    |
| 臨床感染症学       |       |    |     |    |     |    | ○   |    |     |    |       |    |
| 臨床薬学概論       |       |    |     |    | ○   |    |     |    |     |    |       |    |
| 医薬品情報学       |       |    |     |    |     | ○  |     |    |     |    |       |    |
| 個別化医療        |       |    |     |    |     |    | ○   |    |     |    |       |    |
| コミュニティファーマシー |       |    |     |    |     |    |     | ○  |     |    |       |    |
| 臨床薬物動態学      |       |    |     |    |     |    | ○   |    | ○   |    |       |    |
| 臨床導入学習1      |       |    |     |    |     |    | ○   |    |     |    |       |    |
| 臨床導入学習2      |       |    |     |    |     |    |     | ○  |     |    |       |    |
| 薬事関連法・制度     |       |    |     |    |     |    | ○   |    | ○   |    |       |    |
| 社会保障論        |       |    |     |    |     |    | ○   |    |     |    |       |    |
| 薬学基礎演習       |       |    |     |    |     |    |     | ○  |     |    |       |    |
| 統合薬学演習       |       |    |     |    |     |    |     |    |     |    | ○     |    |
| 薬学総合演習       |       |    |     |    |     |    |     |    |     |    | ← ○ → |    |

# 実習

| 授 業 科 目     | 1年次 |    | 2年次 |    | 3年次 |    | 4年次 |    | 5年次 |    | 6年次 |    |
|-------------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
|             | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 |
| 分析化学実習      |     |    | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 物理化学実習      |     |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 基礎有機化学実習    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 漢方・生薬学実習    |     |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 有機化学実習      |     |    |     |    | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| 生物学実習       |     |    | ○   |    |     |    |     |    |     |    |     |    |
| 生物科学実習      |     |    |     |    | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| 衛生薬学・放射化学実習 |     |    |     |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |
| 薬理学実習       |     |    |     |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |
| 薬剤学実習       |     |    |     |    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |
| 病院実務実習      |     |    |     |    |     |    |     |    | ←   | ○  | →   |    |
| 薬局実務実習      |     |    |     |    |     |    |     |    | ←   | ○  | →   |    |
| 特別演習・実習     |     |    |     |    |     |    | ←   |    |     | ○  |     | →  |

# 薬学部薬科学科 履修モデル

## 基礎教育科目

| 授 業 科 目     | 1年次 |    | 2年次 |    | 3年次 |    | 4年次 |    |
|-------------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
|             | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 |
| 経済の世界(教養)   |     |    | ○   |    |     |    |     |    |
| 社会分析の基礎(教養) | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| 人間と宗教(教養)   |     | ○  |     |    |     |    |     |    |
| コーチング論(教養)  |     |    |     | ○  |     |    |     |    |
| 数学1         | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| 数学2         |     | ○  |     |    |     |    |     |    |
| 数理統計学       |     |    | ○   |    |     |    |     |    |
| 物理学1        | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| 物理学2        |     | ○  |     |    |     |    |     |    |
| 英語リスニング1    | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| 英語リスニング2    |     | ○  |     |    |     |    |     |    |
| 英語リーディング1   | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| 英語リーディング2   |     | ○  |     |    |     |    |     |    |
| 英語スピーキング1   |     |    | ○   |    |     |    |     |    |
| 英語スピーキング2   |     |    |     | ○  |     |    |     |    |
| 英語ライティング1   |     |    | ○   |    |     |    |     |    |
| 英語ライティング2   |     |    |     | ○  |     |    |     |    |
| ドイツ語1       | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| ドイツ語2       |     | ○  |     |    |     |    |     |    |
| 異文化言語演習1    |     |    |     |    | ○   |    |     |    |
| 異文化言語演習2    |     |    |     |    |     | ○  |     |    |
| 心理社会        |     |    |     | ○  |     |    |     |    |
| コミュニケーション   |     |    |     |    | ○   |    |     |    |
| 医療と法        |     |    |     |    |     | ○  |     |    |
| 身体運動科学      | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| スポーツ・運動実習1  | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| 情報科学        |     | ○  |     |    |     |    |     |    |
| 情報科学演習      | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| 化学          | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| 化学演習        | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| 生物学         | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| 基礎有機化学      | ○   |    |     |    |     |    |     |    |

## 基礎薬学科目

| 授 業 科 目    | 1 年次 |    | 2 年次 |    | 3 年次 |    | 4 年次 |    |
|------------|------|----|------|----|------|----|------|----|
|            | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 |
| 薬学入門       | ○    |    |      |    |      |    |      |    |
| 基礎細胞生物学    |      | ○  |      |    |      |    |      |    |
| 有機化学 1     |      | ○  |      |    |      |    |      |    |
| 有機化学 2     |      |    | ○    |    |      |    |      |    |
| 有機化学 3     |      |    |      | ○  |      |    |      |    |
| 有機化学 4     |      |    |      |    | ○    |    |      |    |
| 有機スペクトル解析学 |      |    |      | ○  |      |    |      |    |
| 物理化学 1     |      | ○  |      |    |      |    |      |    |
| 物理化学 2     |      |    | ○    |    |      |    |      |    |
| 物理化学 3     |      |    |      | ○  |      |    |      |    |
| 分析化学 1     |      | ○  |      |    |      |    |      |    |
| 分析化学 2     |      |    | ○    |    |      |    |      |    |
| 放射化学       |      |    |      |    | ○    |    |      |    |
| 生化学 1      |      | ○  |      |    |      |    |      |    |
| 生化学 2      |      |    | ○    |    |      |    |      |    |
| 生化学 3      |      |    |      | ○  |      |    |      |    |
| 微生物学       |      |    | ○    |    |      |    |      |    |
| 機能形態学 1    |      | ○  |      |    |      |    |      |    |
| 機能形態学 2    |      |    | ○    |    |      |    |      |    |
| 生物無機化学     |      |    | ○    |    |      |    |      |    |
| 免疫学        |      |    |      |    |      | ○  |      |    |

## 応用薬学科目

| 授 業 科 目      | 1 年次 |    | 2 年次 |    | 3 年次 |    | 4 年次 |    |
|--------------|------|----|------|----|------|----|------|----|
|              | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 |
| 医療統計学        |      |    |      |    |      | ○  |      |    |
| 生薬学          |      | ○  |      |    |      |    |      |    |
| 基礎漢方薬学       |      |    | ○    |    |      |    |      |    |
| 薬用天然物化学 1    |      |    |      | ○  |      |    |      |    |
| 薬用天然物化学 2    |      |    |      |    | ○    |    |      |    |
| 衛生薬学 1       |      |    |      | ○  |      |    |      |    |
| 衛生薬学 2       |      |    |      |    | ○    |    |      |    |
| 衛生薬学 3       |      |    |      |    | ○    |    |      |    |
| 衛生薬学 4       |      |    |      |    |      | ○  |      |    |
| 病原微生物学       |      |    |      | ○  |      |    |      |    |
| 分子細胞生物学      |      |    |      |    | ○    |    |      |    |
| ゲノム医科学       |      |    |      |    | ○    |    |      |    |
| バイオインフォマティクス |      |    |      |    |      |    | ○    |    |
| 応用分析学        |      |    |      |    | ○    |    |      |    |
| 分子設計学        |      |    |      |    |      |    | ○    |    |
| 物理薬剤学        |      |    |      |    | ○    |    |      |    |
| 合成化学         |      |    |      |    |      | ○  |      |    |
| 薬品合成化学       |      |    |      |    |      |    | ○    |    |



# 医療薬学科目

| 授 業 科 目    | 1年次   |    | 2年次 |    | 3年次 |    | 4年次 |    |
|------------|-------|----|-----|----|-----|----|-----|----|
|            | 前期    | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 |
| 早期体験学習 1   | ← ○ → |    |     |    |     |    |     |    |
| 早期体験学習 2   |       | ○  |     |    |     |    |     |    |
| 人体の構造と病態 1 | ○     |    |     |    |     |    |     |    |
| 人体の構造と病態 2 |       | ○  |     |    |     |    |     |    |
| 病態生化学      |       |    |     |    |     | ○  |     |    |
| 薬理学 1      |       |    |     | ○  |     |    |     |    |
| 薬理学 2      |       |    |     |    | ○   |    |     |    |
| 薬理学 3      |       |    |     |    |     | ○  |     |    |
| 薬理学 4      |       |    |     |    |     |    | ○   |    |
| 製剤学        |       |    |     |    |     | ○  |     |    |
| 生物薬剤学 1    |       |    |     | ○  |     |    |     |    |
| 生物薬剤学 2    |       |    |     |    | ○   |    |     |    |
| 薬物動態解析学    |       |    |     |    |     | ○  |     |    |
| 薬物治療学 1    |       |    | ○   |    |     |    |     |    |
| 薬物治療学 2    |       |    |     | ○  |     |    |     |    |
| 薬物治療学 3    |       |    |     |    | ○   |    |     |    |
| 薬物治療学 4    |       |    |     |    |     |    | ○   |    |
| 医薬品情報学     |       |    |     |    |     |    | ○   |    |

# 実習

| 授 業 科 目      | 1年次 |    | 2年次 |    | 3年次 |    | 4年次 |    |
|--------------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
|              | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 |
| 基礎薬学実習       | ○   |    |     |    |     |    |     |    |
| 基礎有機化学実習     |     | ○  |     |    |     |    |     |    |
| 有機化学実習       |     |    |     |    | ○   |    |     |    |
| 漢方・生薬学実習     |     |    |     | ○  |     |    |     |    |
| 分析化学実習       |     |    | ○   |    |     |    |     |    |
| 物理・放射化学実習    |     |    |     | ○  |     |    |     |    |
| 生物学実習        |     |    | ○   |    |     |    |     |    |
| 生物科学実習       |     |    |     |    | ○   |    |     |    |
| 衛生薬学実習       |     |    |     |    |     | ○  |     |    |
| 薬理学実習        |     |    |     |    |     | ○  |     |    |
| 薬剤学実習        |     |    |     |    |     | ○  |     |    |
| 臨床導入学習 1     |     |    |     |    |     |    | ○   |    |
| 臨床導入学習 2     |     |    |     |    |     |    |     | ○  |
| 特別演習・実習 (前期) |     |    |     |    |     |    | ○   |    |
| 特別演習・実習 (後期) |     |    |     |    |     |    |     | ○  |

## 実習科目に係る主な機械・器具等一覧

| No. | 用途    | 機器等名称                     | 数量 | 設置場所 |
|-----|-------|---------------------------|----|------|
| 1   | 学部・実習 | 6連式崩壊試験器                  | 1  | C棟   |
| 2   | 学部・実習 | 8連式溶出試験器                  | 1  | C棟   |
| 3   | 学部・実習 | F A S - 5 フルシステム          | 1  | C棟   |
| 4   | 学部・実習 | H P L C基本システム             | 2  | C棟   |
| 5   | 学部・実習 | H P L Cポンプ                | 5  | C棟   |
| 6   | 学部・実習 | P C Rサーマルサイクラー            | 2  | C棟   |
| 7   | 学部・実習 | P Hメーター                   | 2  | C棟   |
| 8   | 学部・実習 | $\gamma$ 線ウェルシンチレーション測定装置 | 2  | C棟   |
| 9   | 学部・実習 | インキュベーター                  | 1  | C棟   |
| 10  | 学部・実習 | インテグレーター                  | 9  | C棟   |
| 11  | 学部・実習 | ウイレー氏実験場用粉碎機              | 1  | C棟   |
| 12  | 学部・実習 | ウォーターバスインキュベーター           | 4  | C棟   |
| 13  | 学部・実習 | エースホモジナイザー                | 2  | C棟   |
| 14  | 学部・実習 | オートクレーブ                   | 3  | C棟   |
| 15  | 学部・実習 | カラー汎用超音波画像診断装置            | 1  | C棟   |
| 16  | 学部・実習 | カラムオーブン                   | 2  | C棟   |
| 17  | 学部・実習 | 眼底診察シュミレータ                | 1  | C棟   |
| 18  | 学部・実習 | ガンマ線検出測定装置                | 1  | C棟   |
| 19  | 学部・実習 | クリーンベンチ                   | 1  | C棟   |
| 20  | 学部・実習 | ゲル撮影システム                  | 1  | C棟   |
| 21  | 学部・実習 | 検眼鏡                       | 1  | C棟   |
| 22  | 学部・実習 | 恒温水槽                      | 2  | C棟   |
| 23  | 学部・実習 | サーマルアレイレコーダ               | 1  | C棟   |
| 24  | 学部・実習 | サーモミンダー                   | 1  | C棟   |
| 25  | 学部・実習 | 採血静注シュミレータ                | 1  | C棟   |
| 26  | 学部・実習 | シンチレーション検出器               | 2  | C棟   |
| 27  | 学部・実習 | ステップ測定システム                | 1  | 体育館  |
| 28  | 学部・実習 | スパイロシフト                   | 2  | C棟   |
| 29  | 学部・実習 | スパイロメーター                  | 1  | C棟   |
| 30  | 学部・実習 | セルイメージングシステム              | 1  | C棟   |
| 31  | 学部・実習 | 全自動散薬分包機                  | 1  | D棟   |
| 32  | 学部・実習 | 卓上手動丸薬機 (7 mm)            | 1  | C棟   |

| No. | 用途    | 機器等名称              | 数量 | 設置場所 |
|-----|-------|--------------------|----|------|
| 33  | 学部・実習 | 超音波診断ファントム         | 1  | C棟   |
| 34  | 学部・実習 | 低温湯煎器角型            | 2  | C棟   |
| 35  | 学部・実習 | テーブルトップ遠心機         | 1  | C棟   |
| 36  | 学部・実習 | デスクトップX線回折装置       | 1  | C棟   |
| 37  | 学部・実習 | トランスイルミネーター        | 1  | C棟   |
| 38  | 学部・実習 | バイオスペクトロメーター       | 2  | C棟   |
| 39  | 学部・実習 | バイオメディカルクーラー       | 1  | C棟   |
| 40  | 学部・実習 | バイオメディカルフリーザー      | 2  | C棟   |
| 41  | 学部・実習 | ひずみ圧力用アンプその他       | 2  | C棟   |
| 42  | 学部・実習 | ピペット乾燥器            | 1  | C棟   |
| 43  | 学部・実習 | 微量高速冷却遠心機          | 4  | C棟   |
| 44  | 学部・実習 | フィジカルアセスメントモデル     | 1  | C棟   |
| 45  | 学部・実習 | フォトビーム式運動解析システム    | 2  | C棟   |
| 46  | 学部・実習 | フナロイドカメラ           | 1  | C棟   |
| 47  | 学部・実習 | フラクションコレクター        | 1  | C棟   |
| 48  | 学部・実習 | ベーシックスケーラ          | 3  | C棟   |
| 49  | 学部・実習 | ヘマトクリット用遠心機        | 4  | C棟   |
| 50  | 学部・実習 | 崩壊試験器              | 1  | C棟   |
| 51  | 学部・実習 | ポータブルガス濃度測定装置      | 1  | C棟   |
| 52  | 学部・実習 | ポータブル天秤            | 5  | C棟   |
| 53  | 学部・実習 | ホモジスターラー           | 2  | C棟   |
| 54  | 学部・実習 | ポリシーラー             | 1  | C棟   |
| 55  | 学部・実習 | ポリトロンホモジナイザー       | 1  | C棟   |
| 56  | 学部・実習 | マイクロミニ遠心機          | 3  | C棟   |
| 57  | 学部・実習 | マグヌス実験装置           | 1  | C棟   |
| 58  | 学部・実習 | マッキントッシュ LC520システム | 1  | C棟   |
| 59  | 学部・実習 | マイクロトーム            | 1  | C棟   |
| 60  | 学部・実習 | マイクロ形顆粒製造機         | 1  | C棟   |
| 61  | 学部・実習 | 耳の構造模型             | 1  | C棟   |
| 62  | 学部・実習 | 耳の診断シュミレータ         | 1  | C棟   |
| 63  | 学部・実習 | 目の構造模型             | 1  | C棟   |
| 64  | 学部・実習 | モデル人形収納ケース         | 1  | C棟   |
| 65  | 学部・実習 | 薬剤用平行板粘度計          | 1  | C棟   |
| 66  | 学部・実習 | ユニット実験台            | 1  | C棟   |

| No. | 用途    | 機器等名称               | 数量 | 設置場所 |
|-----|-------|---------------------|----|------|
| 67  | 学部・実習 | 冷凍機付インキュベータ         | 1  | C棟   |
| 68  | 学部・実習 | レーザーライター            | 1  | C棟   |
| 69  | 学部・実習 | ロータリーエバポレーター        | 2  | C棟   |
| 70  | 学部・実習 | 炎光光度計               | 1  | C棟   |
| 71  | 学部・実習 | 加圧式鎮痛作用測定装置         | 2  | C棟   |
| 72  | 学部・実習 | 可視紫外検出器             | 1  | C棟   |
| 73  | 学部・実習 | 簡易融点測定装置            | 1  | C棟   |
| 74  | 学部・実習 | 蛍光式パーソナルDNAシーケンサー   | 1  | C棟   |
| 75  | 学部・実習 | 血圧測定用アンプ            | 2  | C棟   |
| 76  | 学部・実習 | 研究用保冷库              | 1  | C棟   |
| 77  | 学部・実習 | 顕微鏡                 | 84 | C棟   |
| 78  | 学部・実習 | 恒温振盪水槽              | 1  | C棟   |
| 79  | 学部・実習 | 高速液体クロマトグラフ         | 8  | C棟   |
| 80  | 学部・実習 | 高速液体クロマトグラフ用送液ユニット  | 1  | C棟   |
| 81  | 学部・実習 | 混合機                 | 1  | C棟   |
| 82  | 学部・実習 | 紫外可視分光光度計           | 36 | C棟   |
| 83  | 学部・実習 | 紫外線検出器              | 2  | C棟   |
| 84  | 学部・実習 | 自動小型単発式打錠機          | 1  | C棟   |
| 85  | 学部・実習 | 純水製造装置              | 2  | C棟   |
| 86  | 学部・実習 | 小型滑走マイクローム          | 1  | C棟   |
| 87  | 学部・実習 | 小型卓上試験機             | 1  | C棟   |
| 88  | 学部・実習 | 小型冷却遠心機             | 3  | C棟   |
| 89  | 学部・実習 | 心電計                 | 4  | C棟   |
| 90  | 学部・実習 | 振とう機                | 1  | C棟   |
| 91  | 学部・実習 | 全自動分割分包機GRAN・C印字装置付 | 1  | D棟   |
| 92  | 学部・実習 | 卓上型振とう恒温槽           | 2  | C棟   |
| 93  | 学部・実習 | 卓上手動丸薬機             | 1  | C棟   |
| 94  | 学部・実習 | 卓上多本架遠心機            | 1  | C棟   |
| 95  | 学部・実習 | 炭酸ガス培養器             | 1  | C棟   |
| 96  | 学部・実習 | 調剤薬局支援システム          | 1  | C棟   |
| 97  | 学部・実習 | 調剤用電子天秤             | 11 | C棟   |
| 98  | 学部・実習 | 超音波ピペット洗浄器          | 1  | C棟   |
| 99  | 学部・実習 | 超音波洗浄器              | 2  | C棟   |
| 100 | 学部・実習 | 定温乾燥機               | 5  | C棟   |

| No. | 用途    | 機器等名称         | 数量 | 設置場所 |
|-----|-------|---------------|----|------|
| 101 | 学部・実習 | 日立微量高速冷却遠心機   | 1  | C棟   |
| 102 | 学部・実習 | 薄窓ガスフローカウンター  | 1  | C棟   |
| 103 | 学部・実習 | 微量高速遠心機       | 1  | C棟   |
| 104 | 学部・実習 | 分析天秤          | 4  | C棟   |
| 105 | 学部・実習 | 万能粉碎機         | 1  | C棟   |
| 106 | 学部・実習 | 有機溶媒留去・回収システム | 2  | C棟   |
| 107 | 学部・実習 | 冷却遠心分離機       | 2  | C棟   |

薬学部薬学科 前期授業時間割モデル

| 曜日 | 時間  | 1限  |                                  |                                  |                     | 2限          |                                  |                                  |   | 3限  |   |                                   |                                   | 4限  |                                  |                              |  | 5限      |                         |                              |  |         |          |      |  |
|----|-----|---|----------------------------------|----------------------------------|---------------------|-------------|----------------------------------|----------------------------------|---|---|---|-----------------------------------|-----------------------------------|---|----------------------------------|------------------------------|--|---------|-------------------------|------------------------------|--|---------|----------|------|--|
|    |     | 9:00  |                                  |                                  |                     | 10:30       |                                  |                                  |   | 12:10   |   |                                   |                                   | 14:30   |                                  |                              |  | 16:10   |                         |                              |  |         |          |      |  |
| 月  | 1   | A ●   | 基礎有機化学                           | 和田俊 浦田 宇佐美 平野 山田 米山 菊地 平田佳 林淳 葉山 | C204                | A ▲         | ドイツ語1 中国語1 ハングル1                 | 阪本 陳 李                           | D305 D307 D308                          | A ●   | 薬学入門  | 中村敏 永井 藤森 天満 阪本 角山                | C204                              | A ●   | 身体運動科学                           | 当麻                           | C204   | A ○     | 経済の世界 文学の世界 数理論理学 歴史と社会 | べ 松本 永田 眞杉                   | C204 C205 C206 C207                          |         |          |      |  |
|    |     | B ▲   | ドイツ語1 中国語1 ハングル1                 | 阪本 陳 李                           | D305 D307 D308      | B ●         | 基礎有機化学                           | 和田俊 浦田 宇佐美 平野 山田 米山 菊地 平田佳 林淳 葉山 | C205                                    | B ●   | 身体運動科学  | 当麻                                | C205                              | B ●   | 薬学入門                             | 中村敏 永井 藤森 天満 阪本 角山           | C205   | B ○     |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | 2   |   |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   | A ●   | 生薬学   | 芝野                                | D303                              | A ●   | 物理化学2                            | 土井光                          | D303   | A ○     | 経済の世界 文学の世界 数理論理学 歴史と社会 | べ 松本 永田 眞杉                   | C204 C205 C206 C207                          |         |          |      |  |
|    |     |   |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   | B ●   | 物理化学2   | 土井光                               | D302                              | B ●   | 生薬学                              | 芝野                           | D302   | B ○     |                         |                              |  | 医工薬連携科学 | 永井 寺崎 倉田 | D302 |  |
|    | 3   |   |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   | A ●   | 応用分析学   | 佐藤卓                               | C201                              | A ●   | 異文化言語演習1                         | 楠瀬 城下 田邊 樹矢 藤本幸 伊藤 中本 木村 中村恵 | C104 C102 C101 C-3C D305 D306 D307 D308 C103 | A ●     | 臨床薬学概論                  | 岩永                           | C201   |         |          |      |  |
|    |     |   |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   | B ●   | 臨床薬学概論  | 岩永                                | C206                              | B ●   | 応用分析学                            | 佐藤卓                          | C201   | B ●     | 異文化言語演習1                | 楠瀬 城下 田邊 樹矢 藤本幸 伊藤 中本 木村 中村恵 | C104 C102 C101 C-3C D305 D306 D307 D308 C103 |         |          |      |  |
| 4  | A ○ | 生物物理化学  | 友尾                               | C105                             | A ●                 | キャリアデザイン 概論 | 福永 中村敏                           | C105                             | A ●                                     | 医薬品化学2  | 平野  | C202                              | A ●                               | 臨床薬物動態学   | 中村任                              | C202                         | A ●  | 特別演習・実習 |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ○ |   |                                  |                                  |                     | B ●         |                                  |                                  |   |   | B ●   | 臨床薬物動態学                           | 中村任                               | C203  | B ●                              | 医薬品化学2                       | 平野   |         | C203                    | B ●                          |  |         |          |      |  |
| 5  | A ● | 病院実務実習 薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田) |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   | 特別演習・実習 13:00~17:30   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
| 6  | A ● | 特別演習・実習   |                                  |                                  |                     | A ○         | 多職種融合 (連携)ゼミ                     | 中村敏 角山 羽田                        | C207                                    | A ●   | 特別演習・実習 13:00 ~ 17:30   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
| 火  | 1   |   |                                  |                                  |                     | A ●         | 化学                               | 大桃 山田 尹 箕浦 浅野 平田雅 山神 藤嶽          | C202 C203 C204 D305 D306 D307 D308      | A ●   | 情報科学演習  | 永井                                | 情報科学演習室                           |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    |     |   |                                  |                                  |                     | B ●         |                                  |                                  |   |   | B ●   | 早期体験学習                            | 中村敏・井上薫・芝野・幸田・角山・加藤隆・浅野・藤嶽・羽田・田中早 |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 英語スピーキング1   | スミス Guard Brotherton 佐藤真         | 情報 C101 C102 C103                | A ●                 | 生化学2        | 井上晴                              | C205                             | A ●                                     | 分析化学実習(天満・大桃・箕浦・佐藤卓・近藤) 13:00 ~ 17:30<br>生物学実習(駒野・坂口・土屋・田中智・倉田) 13:00 ~ 17:30           |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● | 生化学2  | 井上晴                              | C205                             | B ●                 | 英語スピーキング1   | スミス Guard Brotherton 佐藤真         | 情報 C101 C102 C103                | B ●                                     |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 薬理学3  | 大野                               | D302                             | A ●                 | 免疫学         | 土屋                               | D302                             | A ●                                     | 有機化学実習(浦田・宇佐美・和田俊・米山・葉山) 13:00 ~ 17:30<br>生物科学実習(福永・井上晴・藤森・宮本・藤井忍・藤井俊・前原) 13:00 ~ 17:30 |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● | 免疫学   | 土屋                               | D303                             | B ●                 | 薬理学3        | 大野                               | D303                             | B ●                                     |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
| 水  | 4   | A ●   | 薬事関連法・制度                         | 恩田                               | C206                | A ●         | 臨床感染症学                           | 駒野 浮村                            | C206                                    | A ●   | 臨床導入学習1(岩永・中村任・中村敏・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・細畑・内田・羽田・庄司・音彦) 13:00 ~ 17:30<br>特別演習・実習 13:00 ~ 17:30 |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    |     | B ●   | 臨床感染症学                           | 駒野 浮村                            | C207                | B ●         | 薬事関連法・制度                         | 恩田                               | C207                                    | B ●   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 病院実務実習 薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田) |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   | 特別演習・実習 13:00~17:30   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● |   |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 薬学総合演習(岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任)         |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   | (C201 D301) 特別演習・実習 13:00 ~ 17:30   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● |   |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
| 木  | 1   | A ●   | 英語リスニング1                         | スミス 田邊 神前 武井                     | 情報 C101 D305 D306   | A ●         | 数学1                              | 永田 竹本                            | C206 C207                               | A ●   | 情報科学演習  | 永井                                | 情報科学演習室                           |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    |     | B ●   | 数学1                              | 永田 竹本                            | C206 C207           | B ●         | 英語リスニング1                         | スミス 田邊 神前 武井                     | 情報 C101 D305 D306                       | B ●   | 早期体験学習  | 中村敏・井上薫・芝野・幸田・角山・加藤隆・浅野・藤嶽・羽田・田中早 |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 機能形態学2  | 大野                               | C204                             | A ●                 | 微生物学        | 駒野 宮本                            | C204                             | A ●                                     | 分析化学実習(天満・大桃・箕浦・佐藤卓・近藤) 13:00 ~ 17:30<br>生物学実習(駒野・坂口・土屋・田中智・倉田) 13:00 ~ 17:30           |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● | 微生物学  | 駒野 宮本                            | C205                             | B ●                 | 機能形態学2      | 大野                               | C205                             | B ●                                     |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 有機化学4   | 浦田 宇佐美 平野 山田 和俊俊 米山 菊地 平田佳 林淳 葉山 | D303                             | A ●                 | 衛生薬学2       | 佐久間 長谷井                          | D303                             | A ●                                     | 有機化学実習(浦田・宇佐美・和田俊・米山・葉山) 13:00 ~ 17:30<br>生物科学実習(福永・井上晴・藤森・宮本・藤井忍・藤井俊・前原) 13:00 ~ 17:30 |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● | 衛生薬学2   | 佐久間 長谷井                          | D304                             | B ●                 | 有機化学4       | 浦田 宇佐美 平野 山田 和俊俊 米山 菊地 平田佳 林淳 葉山 | D304                             | B ●                                     |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
| 金  | 4   | A ●   | 個別化医療                            | 井尻 細畑 加藤隆                        | C202                | B ●         | 個別化医療                            | 井尻 細畑 加藤隆                        | C203                                    | A ●   | 臨床導入学習1(岩永・中村任・中村敏・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・細畑・内田・羽田・庄司・音彦) 13:00 ~ 17:30<br>特別演習・実習 13:00 ~ 17:30 |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    |     |   |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 病院実務実習 薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田) |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   | 特別演習・実習 13:00~17:30   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● |   |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 薬学総合演習(岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任)         |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   | (C105 C201) 特別演習・実習 13:00 ~ 17:30   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● |   |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
| 土  | 1   | A ●   | 医療人マインド                          | 中村敏 角山                           | D301                | A ●         | アカデミックスキル                        | 大桃 井上晴 宮崎 佐藤卓 竹本 長谷井 河合 倉田       | C101 C102 C103 C104 D305 D306 D307 D308 | A ●   | 情報科学演習  | 永井                                | 情報科学演習室                           |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    |     | B ●   |                                  |                                  |                     |             | B ●                              |                                  |   |   |   | B ●                               | 早期体験学習                            | 中村敏・井上薫・芝野・幸田・角山・加藤隆・浅野・藤嶽・羽田・田中早   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 英語ライティング1   | 田邊 Guard 堀 氏木                    | C202 C203 C206 C207              | A ●                 | 薬物治療学1      | 加藤隆 松村人 山口                       | D302                             | A ●                                     | 分析化学実習(天満・大桃・箕浦・佐藤卓・近藤) 13:00 ~ 17:30<br>生物学実習(駒野・坂口・土屋・田中智・倉田) 13:00 ~ 17:30           |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● | 薬物治療学1  | 加藤隆 松村人 山口                       | D302                             | B ●                 | 英語ライティング1   | 田邊 Guard 堀 氏木                    | C202 C203 C206 C207              | B ●                                     |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 物理薬理学   | 門田 戸塚                            | D303                             | A ●                 | 分子細胞生物学     | 福永                               | D303                             | A ●                                     | 有機化学実習(浦田・宇佐美・和田俊・米山・葉山) 13:00 ~ 17:30<br>生物科学実習(福永・井上晴・藤森・宮本・藤井忍・藤井俊・前原) 13:00 ~ 17:30 |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● | 分子細胞生物学   | 福永                               | D304                             | B ●                 | 物理薬理学       | 門田 戸塚                            | D304                             | B ●                                     |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
| 日  | 4   | A ●   | 社会保障論                            | 城下                               | C204                | A ●         | 薬物治療学5                           | 井尻 幸田                            | C205                                    | A ●   | 臨床導入学習1(岩永・中村任・中村敏・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・細畑・内田・羽田・庄司・音彦) 13:00 ~ 17:30<br>特別演習・実習 13:00 ~ 17:30 |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    |     | B ●   | 薬物治療学5                           | 井尻 幸田                            | C205                | B ●         | 社会保障論                            | 城下                               | C204                                    | B ●   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 病院実務実習 薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田) |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   | 特別演習・実習 13:00~17:30   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● |   |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 特別演習・実習   |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   | 統合薬学演習(中村敏・土井・浦田・戸塚・永井・岩永・中村任・藤本・天満・平野・福森) 13:00 ~ 17:30<br>特別演習・実習 13:00~17:30 |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● |   |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
| 月  | 1   | A ●   | 英語リーディング1                        | 楠瀬 大神 藤本幸 井上徑                    | C101 C102 C103 C104 | A ●         | 薬用植物学                            | 谷口雅                              | C204                                    | A ●   | 物理学1  | 竹本                                | C204                              | A ●   | 生物学                              | 藤森                           | C204   | A ○     | 政治と社会 基礎心理学 地球環境論 法と社会  | 北村 中田 河野 謝                   | D305 C203 D302 D303                          |         |          |      |  |
|    |     | B ●   | 薬用植物学                            | 谷口雅                              | C205                | B ●         | 英語リーディング1                        | 楠瀬 大神 藤本幸 井上徑                    | C101 C102 C103 C104                     | B ●   | 生物学   | 藤森                                | C205                              | B ●   | 物理学1                             | 竹本                           | C205   | B ○     |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 分析化学2   | 佐藤卓                              | C201                             | A ●                 | 生物無機化学      | 天満                               | C202                             | A ●                                     | 薬理学1  | 大野  | C202                              | A ●                               | 有機化学2   | 宇佐美 浦田 平野 山田 和俊俊 米山 菊地 平田佳 林淳 葉山 | C202                         |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● | 生物無機化学  | 天満                               | C203                             | B ●                 | 分析化学2       | 佐藤卓                              | C201                             | B ●                                     | 有機化学2   | 宇佐美 浦田 平野 山田 和俊俊 米山 菊地 平田佳 林淳 葉山  | C203                              | B ●                               | 薬理学1  | 大野                               | C203                         |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 薬物治療学3  | 松村人 福森 幸田                        | D303                             | A ●                 | 放射化学        | 平田雅                              | D303                             | A ●                                     | 生命医療倫理  | 阪本  | D303                              | A ●                               | 生物薬理学2  | 本橋                               | D303                         |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● | 放射化学  | 平田雅                              | D304                             | B ●                 | 薬物治療学3      | 松村人 福森 幸田                        | D304                             | B ●                                     | 生物薬理学2  | 本橋  | D304                              | B ●                               | 生命医療倫理  | 阪本                               | D304                         |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
| 火  | 4   | A ●   | 薬学英語                             | 天ノ瀬 神前 堀 村木                      | D305 D306 D307 D308 | A ●         | コミュニケーション                        | 岩永                               | D302                                    | A ○   | 医薬品安全性学   | 河合                                | D301                              | A ○   | 先端分子医科学                          | 福永 藤森 駒野 坂口 土屋               | D301   | A ●     | 特別演習・実習                 |                              |  |         |          |      |  |
|    |     | B ●   | コミュニケーション                        | 岩永                               | D302                | B ●         | 薬学英語                             | スミス 神前 堀 村木                      | D305 D306 D307 D308                     | B ○   |   |                                   |                                   | B ○   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ● | 病院実務実習 薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田) |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   | 特別演習・実習 13:00~17:30   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ● |   |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | A ○ | 漢方医学概論  | 芝野                               | C105                             | A ○                 | アドバンスト 薬理学  | 大野 大喜多 清水 國澤                     | C105                             | A ●                                     | 特別演習・実習 13:00 ~ 17:30   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |
|    | B ○ |   |                                  |                                  |                     |             |                                  |                                  |   |   |   |                                   |                                   |   |                                  |                              |  |         |                         |                              |  |         |          |      |  |

●:必修科目 ▲:選択必修科目 ○:選択科目 A・B:クラス区分 B-1:B棟1階セミナー室 C-3C:C棟3階3Cセミナー室 情報:C棟4階情報科学演習室

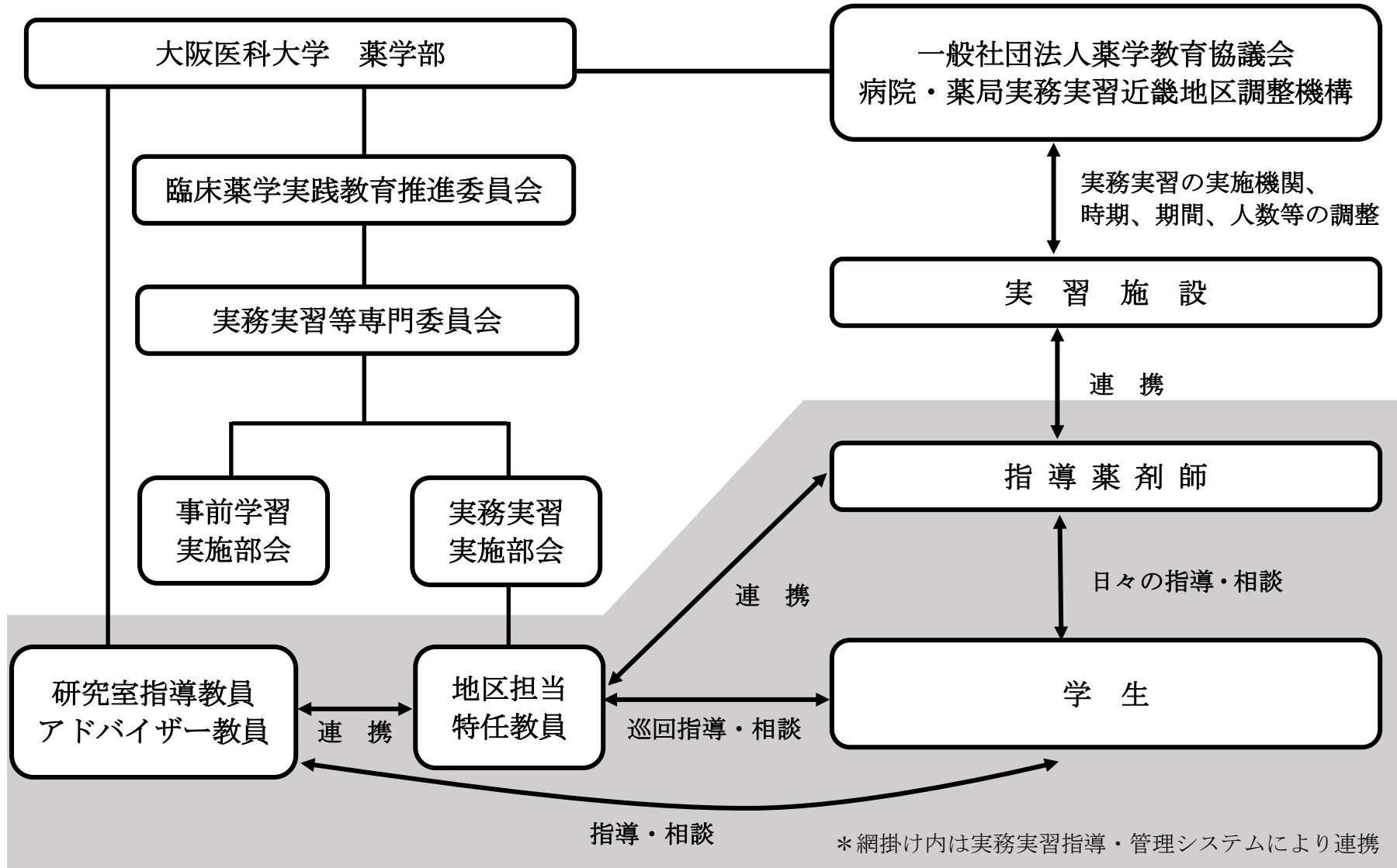
薬学部薬学科 後期授業時間割モデル

| 曜日  | 1限  |                              |  |                        | 2限              |                              |  |                        | 3限   |   |                                   |   | 4限        |                                    |                                   |   | 5限   |       |        |      |
|-----|---|------------------------------|--|------------------------|-----------------|------------------------------|--|------------------------|--|---|-----------------------------------|---|-----------|------------------------------------|-----------------------------------|---|------|-------|--------|------|
|     | 9:00  | 10:30                        | 10:40  | 12:10                  | 13:00           | 14:30                        | 14:40  | 16:10                  | 16:20  | 17:50   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| 月   | A ●   | 数学2                          | 永田 竹本  | C203 C204              | A ▲             | ドイツ語2<br>中国語2<br>ハンブルク2      | 阪本 陳李  | D305<br>D307<br>D308   | A ●  | 薬用天然物化学   | 谷口雅                               | D303  | A ○       | 人間と宗教<br>文化人類学<br>社会分析の基礎          | 鶴 中本<br>銭 廣                       | D304<br>C203<br>C204                              |      |       |        |      |
|     | B ▲   | ドイツ語2<br>中国語2<br>ハンブルク2      | 阪本 陳李  | D305<br>D307<br>D308   | B ●             | 薬用天然物化学                      | 谷口雅  | D302                   | B ●  | 数学2   | 永田 竹本                             | C203<br>C204                                      |           | B ○                                | 情報科学                              | 林武 下川<br>土井 谷岡                                    | C202 |       |        |      |
|     | A ●   | 医療心理学                        | 川端   | D304                   | A ●             | 物理化学3                        | 友尾・尹   | D304                   | A ●  | 分子生物学   | 福永                                | D304  | B ○       | スポーツ運動2<br>(スポーツ運動2は5・6<br>限で実施する) | 当 麻                               | ( )   |      |       |        |      |
|     | B ●   | 分子生物学                        | 福永   | D303                   | B ●             | 医療心理学                        | 川端   | D303                   | B ●  | 物理化学3   | 友尾・尹                              | D302  |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | A ●   | 医薬品情報学                       | 角山 中村敏                                       | C205                   | B ●             | 医薬品化学1                       | 平野   | C205                   | A ●  | 異文化言語演習2  | 楠瀬 城下 田邊<br>中村恵 樹矢 伊藤<br>藤本幸 鶴 木村 | B-1 C102 C101<br>C103 D305 D306<br>D307 C104 D308 | A ●       | 製剤設計学                              | 戸塚 門田                             | C206  |      |       |        |      |
|     | B ●   | 医薬品化学1                       | 平野   | C206                   | B ●             | 医薬品情報学                       | 角山 中村敏                                       | C206                   | B ●  | 製剤設計学   | 戸塚 門田                             | C205  | B ●       | 異文化言語演習2                           | 楠瀬 城下 田邊<br>中村恵 樹矢 伊藤<br>藤本幸 鶴 木村 | B-1 C102 C101<br>C103 D305 D306<br>D307 C104 D308 |      |       |        |      |
| A ○ | アドバンスト<br>薬物治療学   | 松村人 駒野 福森<br>井尻 幸田 加藤隆<br>山口 | D301   | A ○                    | アドバンスト<br>薬物治療学 | 松村人 駒野 福森<br>井尻 幸田 加藤隆<br>山口 | D301   | A ●                    | コミュニケーション  | 恩 田   | C202                              | A ●   | 医療統計学     | 細 畑                                | C202                              |   |      |       |        |      |
| B ○ |   |                              |  | B ○                    |                 |                              |  | B ●                    | 医療統計学  | 細 畑   | C206                              | B ●   | コミュニケーション | 恩 田                                | C203                              |   |      |       |        |      |
| A ● | 病院実務実習・薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田)     |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | A ●  | 病院実務実習・薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田)   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| B ● | 特別演習・実習   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | B ●  | 特別演習・実習 13:00 ~ 17:30   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| A ● | 薬学総合演習(岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任) (C105 C201) |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | A ●  | 薬学総合演習(岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任) (C105 C201)   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| B ● |   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| 火   | A ●   | 有機化学1                        | 和田俊 浦田<br>宇佐美 平野<br>山田 米山<br>菊地 平田佳<br>林淳 葉山 | C206                   | A ●             | 物理化学1                        | 土井光  | C206                   | A ●  | 基礎有機化学実習(宇佐美・平野・山田・菊地・林淳) 13:00 ~ 17:30<br>早期体験学習(中村敏・井上薫・芝野・幸田・角山・加藤隆・浅野・藤嶽・羽田・田中早) 13:00 ~ 17:30<br>医療薬学導入学習(松村人・中村敏・駒野・福森・井尻・幸田・角山・加藤隆・山口・田中早) 13:00 ~ 17:30 |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | B ●   | 物理化学1                        | 土井光  | C202                   | B ●             | 有機化学1                        | 和田俊 浦田<br>宇佐美 平野<br>山田 米山<br>菊地 平田佳<br>林淳 葉山 | C202                   | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | A ●   | 英語スピーキング2                    | スミス Guard<br>Brotherton 佐藤真                  | 情報 C101<br>C102 C103   | A ●             | 薬理学2                         | 大喜多  | D302                   | A ●  | 漢方・生薬学実習(谷口・芝野・平田佳) 13:00 ~ 17:30<br>物理化学実習(友尾・土井光・尹・浅野・加藤巧) 13:00 ~ 17:30  |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | B ●   | 薬理学2                         | 大喜多  | D302                   | B ●             | 英語スピーキング2                    | スミス Guard<br>Brotherton 佐藤真                  | 情報 C101<br>C102 C103   | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | A ●   | 病原微生物学                       | 駒野   | C204                   | A ●             | 薬物速度論                        | 宮崎   | C204                   | A ●  | 衛生薬学・放射化学実習(奥平・佐久間・長谷井・平田雅・山沖・東・小池) 13:00 ~ 17:30<br>薬理学実習(大野・大喜多・河合・清水・國澤・中川) 13:00 ~ 17:30<br>薬剤学実習(戸塚・永井・宮崎・本橋・門田・内山・竹林) 13:00 ~ 17:30                       |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | B ●   | 薬物速度論                        | 宮崎   | C205                   | B ●             | 病原微生物学                       | 駒野   | C205                   | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| A ○ |   |                              |  | A ○                    | 医療政策論           | 城下                           | D303   | A ●                    | 臨床導入学習2(岩永・中村任・中村敏・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・細畑・内田・羽田・庄司・音隆) 13:00 ~ 17:30 |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| B ○ |   |                              |  | B ○                    |                 |                              |  | B ●                    |  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| A ● | 病院実務実習・薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田)     |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | A ●  | 病院実務実習・薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田)   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| B ● | 特別演習・実習   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | B ●  | 特別演習・実習 13:00 ~ 17:30   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| A ● | 薬学総合演習(岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任) (C105 C201) |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | A ●  | 薬学総合演習(岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任) (C105 C201)   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| B ● |   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| 水   | A ●   | 英語リスニング2                     | スミス 田邊<br>神前 武井                              | 情報 C101<br>C103 D306   | B ●             | 英語リスニング2                     | スミス 田邊<br>神前 武井                              | 情報 C101<br>C103 D306   | A ●  | 基礎有機化学実習(宇佐美・平野・山田・菊地・林淳) 13:00 ~ 17:30<br>早期体験学習(中村敏・井上薫・芝野・幸田・角山・加藤隆・浅野・藤嶽・羽田・田中早) 13:00 ~ 17:30<br>医療薬学導入学習(松村人・中村敏・駒野・福森・井尻・幸田・角山・加藤隆・山口・田中早) 13:00 ~ 17:30 |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | B ●   |                              |  |                        | A ○             | 専門職連携<br>医療論                 | 中村敏・角山                                       | D302                   | A ○  | 専門職連携<br>医療論  | 中村敏・角山                            | D302  | B ○       |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | A ●   | 有機スペクトル<br>学演習               | 山田 浦田<br>宇佐美 平野<br>和田俊 米山<br>菊地 平田佳<br>林淳 葉山 | D302                   | A ●             | 基礎漢方薬学                       | 芝野   | D302                   | A ○  | 漢方・生薬学実習(谷口・芝野・平田佳) 13:00 ~ 17:30<br>物理化学実習(友尾・土井光・尹・浅野・加藤巧) 13:00 ~ 17:30  |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | B ●   | 基礎漢方薬学                       | 芝野   | D303                   | B ●             | 有機スペクトル<br>学演習               | 山田 浦田<br>宇佐美 平野<br>和田俊 米山<br>菊地 平田佳<br>林淳 葉山 | D303                   | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | A ●   | 医療と法                         | 城下   | C204                   | A ●             | 薬理学4                         | 大喜多  | C204                   | A ●  | 衛生薬学・放射化学実習(奥平・佐久間・長谷井・平田雅・山沖・東・小池) 13:00 ~ 17:30<br>薬理学実習(大野・大喜多・河合・清水・國澤・中川) 13:00 ~ 17:30<br>薬剤学実習(戸塚・永井・宮崎・本橋・門田・内山・竹林) 13:00 ~ 17:30                       |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | B ●   | 薬理学4                         | 大喜多  | C205                   | B ●             | 医療と法                         | 城下   | C205                   | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| A ● | 薬学基礎演習(大桃・恩田・藤森・宮崎・大喜多・和田・加藤隆・長谷井・佐藤) (D301)            |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | A ●  | 薬学基礎演習(大桃・恩田・藤森・宮崎・大喜多・和田・加藤隆・長谷井・佐藤) (D301)  |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| B ● |   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | B ●  | 特別演習・実習   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| A ● | 病院実務実習・薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田)     |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | A ●  | 病院実務実習・薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田)   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| B ● | 特別演習・実習   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | B ●  | 特別演習・実習 13:00 ~ 17:30   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| A ● | 薬学総合演習(岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任) (C105 C201) |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | A ●  | 薬学総合演習(岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任) (C105 C201)   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| B ● |   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| 木   | A ●   | 基礎細胞生物学                      | 坂 口  | D304                   | A ●             | 物理学2                         | 竹本   | D304                   | A ●  | 基礎有機化学実習(宇佐美・平野・山田・菊地・林淳) 13:00 ~ 17:30<br>早期体験学習(中村敏・井上薫・芝野・幸田・角山・加藤隆・浅野・藤嶽・羽田・田中早) 13:00 ~ 17:30<br>医療薬学導入学習(松村人・中村敏・駒野・福森・井尻・幸田・角山・加藤隆・山口・田中早) 13:00 ~ 17:30 |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | B ●   | 物理学2                         | 竹本   | D303                   | B ●             | 基礎細胞生物学                      | 坂 口  | D303                   | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | A ●   | 英語ライティング2                    | 田邊 Guard<br>堀 氏木                             | C101 C102<br>C103 C104 | A ●             | 薬物治療学2                       | 福森 幸田<br>加藤隆                                 | D302                   | A ●  | 漢方・生薬学実習(谷口・芝野・平田佳) 13:00 ~ 17:30<br>物理化学実習(友尾・土井光・尹・浅野・加藤巧) 13:00 ~ 17:30  |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | B ●   | 薬物治療学2                       | 福森 幸田<br>加藤隆                                 | D302                   | B ●             | 英語ライティング2                    | 田邊 Guard<br>堀 氏木                             | C101 C102<br>C103 C104 | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | A ●   | 衛生薬学3                        | 奥平   | C204                   | A ●             | 薬物治療学4                       | 幸田 井尻 内田                                     | C204                   | A ●  | 衛生薬学・放射化学実習(奥平・佐久間・長谷井・平田雅・山沖・東・小池) 13:00 ~ 17:30<br>薬理学実習(大野・大喜多・河合・清水・國澤・中川) 13:00 ~ 17:30<br>薬剤学実習(戸塚・永井・宮崎・本橋・門田・内山・竹林) 13:00 ~ 17:30                       |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | B ●   | 薬物治療学4                       | 幸田 井尻 内田                                     | C205                   | B ●             | 衛生薬学3                        | 奥平   | C205                   | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| A ● | 特別演習・実習   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | A ●  | 臨床導入学習2(岩永・中村任・中村敏・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・細畑・内田・羽田・庄司・音隆) 13:00 ~ 17:30  |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| B ● |   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| A ● | 病院実務実習・薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田)     |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | A ●  | 病院実務実習・薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田)   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| B ● | 特別演習・実習   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | B ●  | 特別演習・実習 13:00 ~ 17:30   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| A ● | 薬学総合演習(岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任) (C105 C201) |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | A ●  | 薬学総合演習(岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任) (C105 C201)   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| B ● |   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| 金   | A ●   | 分析化学1                        | 天 満  | D302                   | A ●             | 英語リーディング2                    | 楠瀬 藤本幸<br>井上座 大神                             | D305 D306<br>D307 D308 | A ●  | 機能形態学1  | 大野 藤森                             | D303  | A ●       | 生化学1                               | 藤井忍                               | D303  | A ○  | 倫理と社会 | 阪 本    | C202 |
|     | B ●   | 英語リーディング2                    | 楠瀬 藤本幸<br>井上座 大神                             | D305 D306<br>D307 D308 | B ●             | 分析化学1                        | 天 満  | D302                   | B ●  | 生化学1  | 藤井忍                               | D302  | B ●       | 機能形態学1                             | 大野 藤森                             | D302  | B ○  |       | コーチング論 |      |
|     | A ●   | 生物薬剤学1                       | 永 井  | D303                   | A ●             | 有機化学3                        | 浦田 宇佐美<br>平野 山田<br>和田俊 米山<br>菊地 平田佳<br>林淳 葉山 | C202                   | A ●  | 衛生薬学1   | 奥平<br>佐久間 長谷井                     | D304  | A ●       | 数理統計学                              | 永田                                | C202  |      |       |        |      |
|     | B ●   | 有機化学3                        | 浦田 宇佐美<br>平野 山田<br>和田俊 米山<br>菊地 平田佳<br>林淳 葉山 | C205                   | B ●             | 生物薬剤学1                       | 永 井  | D304                   | B ●  | 数理統計学   | 永田                                | C205  | B ●       | 衛生薬学1                              | 奥平<br>佐久間 長谷井                     | D304  |      |       |        |      |
|     | A ○   | 応用放射化学                       | 大 桃  | D301                   | A ○             | 臨床化学                         | 山口   | D301                   | A ○  | 精密有機合成化学  | 宇佐美                               | D301  |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
|     | B ○   |                              |  |                        | B ○             |                              |  |                        | B ○  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| A ● | 特別演習・実習   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | A ●  | 薬学基礎演習(大桃・恩田・藤森・宮崎・大喜多・和田・加藤隆・長谷井・佐藤) (D301)  |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| B ● |   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| A ● | 病院実務実習・薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田)     |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | A ●  | 病院実務実習・薬局実務実習(中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田)   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| B ● | 特別演習・実習   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | B ●  | 特別演習・実習 13:00 ~ 17:30   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| A ● | 薬学総合演習(岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任) (C105 C201) |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | A ●  | 薬学総合演習(岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任) (C105 C201)   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |
| B ● |   |                              |  |                        |                 |                              |  |                        | B ●  |   |                                   |   |           |                                    |                                   |   |      |       |        |      |

●:必修科目 ▲:選択必修科目 ○:選択科目 A・B:クラス区分 ※B-1:B棟1階セミナー室 C-3C:C棟3Cセミナー室 情報:C棟4階情報科学演習室



# 実務実習 実施・指導・連携体制



# 大阪医科薬科大学薬学部 実務実習等専門委員会規程(案)

(令和3年4月1日施行)

(目的)

**第1条** この規程は、大阪医科薬科大学薬学部臨床薬学実践教育推進委員会規程第7条に基づき、薬学部の実務実習等専門委員会（以下、「専門委員会」という。）の運営に必要な事項を定める。

(任務)

**第2条** 専門委員会は、薬学実務実習等に関する具体的な方針又は計画等について審議する。

(委員の構成)

**第3条** 専門委員会は、次の各号の委員をもって組織する。

- (1) 教務部長
- (2) 学生部長
- (3) キャリアサポート部長
- (4) カリキュラム委員長
- (5) 臨床薬学教育研究センター長
- (6) 事前学習実施部会責任者
- (7) 実務実習実施部会責任者
- (8) 総務課長
- (9) 教務課長
- (10) 臨床教育・研究支援課長
- (11) 学生課長
- (12) その他、専門委員会が必要と認めた者 若干名

(委員長)

**第4条** 専門委員会に委員長を置き、薬学部教授会（以下、「教授会」という。）の議を経て、薬学部長が指名する。

(事前学習実施部会及び実務実習実施部会)

**第5条** 専門委員会は、実務実習等を円滑に実施するため、事前学習実施部会及び実務実習実施部会を置く。

2 事前学習実施部会責任者及び実務実習実施部会責任者は、教授（特任）のうちから専門委員会の議を経て、薬学部長が指名する。

- 3 事前学習実施部会責任者及び実務実習実施部会責任者は、それぞれ、事前学習実施部会及び実務実習実施部会を組織し、実務実習等の具体的な準備及び実施にあたる。
- 4 事前学習実施部会責任者及び実務実習実施部会責任者は、それぞれ、前項の部会を構成する部会委員を指名する。なお、両実施部会委員を兼任することは、これを妨げない。
- 5 その他、事前学習実施部会及び実務実習実施部会の運営に関し必要な事項は、別に定めることができる。

(事前学習実施部会の任務)

**第6条** 事前学習実施部会は、臨床導入実習を含め、事前学習の実施に関し必要な事項について審議・実施する。

(実務実習実施部会の任務)

**第7条** 実務実習実施部会は、実務実習の実施に関し、次の事項について審議・実施する。

- (1) 実習受入れ施設の調整と決定
- (2) 実習前準備（抗体検査・予防接種、各種保険への加入、報告・連絡システムの整備、学生へのオリエンテーションなど）
- (3) 評価（修得度）表及び日報の書式作成
- (4) 訪問指導の準備（指導要領作成とその訪問指導担任教員への周知徹底、スケジュール調整等）
- (5) 訪問指導
- (6) 訪問指導担任教員からの報告の収集と定期的（緊急時はその都度の）検討と対応
- (7) 指導薬剤師及び訪問指導担任教員からの実習に係わる種々の要望及び相談への対応
- (8) 学生配属研究室の主任教員からの報告の収集及び対応要請
- (9) 定期的実習評価と単位認定
- (10) 成績不良者への対応
- (11) 指導薬剤師との総合懇談会の定期的開催
- (12) 実習期間中の学生に対する就職活動支援
- (13) 実習成果のまとめ（報告集作成、報告会の開催など）
- (14) 緊急時（病気、事故、災害、人的トラブル、その他ドロップアウトなど）への即時対応

(任 期)

**第8条** 第4条の委員長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 第5条第2項の各部会責任者及び同条第4項の各実施委員の任期は2年とする。  
ただし、再任を妨げない。

3 第3条第12号の専門委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(事務)

**第9条** 専門委員会に関する事務は、臨床教育・研究支援課が行う。

(規程の改廃)

**第10条** この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が決定する。

**附 則**

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

## 薬学部学生の病院実習に関する契約書

〇〇病院(以下、甲 という)と、学校法人大阪医科薬科大学が置く大阪医科薬科大学(以下、乙 という)は、甲の施設において、乙の学生(以下、実習生という)の薬学実務実習を実施するにあたり、次のとおり契約を締結する。

### 第1条(実習内容及び実習生)

乙は、甲に対し、実習を委託し甲はこれを受託する。なお、実習生の氏名等の個人情報等については、「学生プロフィール」又は「薬学実務実習の委託について」の提出をもって代える。

実習内容 「薬学教育モデル・コアカリキュラム(平成25年度改訂版)」に基づく、薬学部学生の薬学実務実習

### 第2条(実習の実施方法)

甲は、甲及び乙ならびに連携施設間での協議に基づき作成した「実習計画書」に従って実習を実施する。

### 第3条(実習教育費)

乙は、甲に対し、実習教育費として、11週間(原則55日間)実習生1人あたり\*\*\*, \*\*\*円(消費税別)を支払うものとする。部分的に受け入れた場合は、実習日数に応じた実習教育費(実習教育費を55で除した金額)を支払うものとする。支払いは、甲の請求に基づき、実習終了後支払うものとする。

### 第4条(実習生の健康状態)

乙は、甲に対し、実習開始前に実習生の健康状態を記載した書類を提出する。

2. 実習生は各種抗体検査(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎)を実施し、甲が必要と認めた場合は、乙は甲に対して実習生の抗体検査結果を提出する。また、予防接種についても実習内容及び実習期間を勘案の上実施し、甲が必要と認めた場合は、乙は甲に対して実習生の予防接種実施状況を報告する。なお、検査結果について、甲は適正に管理する。
3. 本契約書に定める実習にあたって実習生の健康状態に問題が生じた場合には、甲乙協議の上、当該実習生の実習を中断又は中止することができる。

### 第5条(実習生への規則遵守の徹底)

乙は、実習生が実習を行うにあたり、甲が定める諸規則・心得等を遵守し、かつ実習指導者の指示に従うように実習生を指導しなければならない。

### 第6条(個人情報、秘密及びプライバシー(以下、個人情報等という)の保護)

実習の実施にあたって、甲乙双方は、個人情報の保護に関する法律(平成 15 年法律第 57 号(以下、「個人情報保護法」という)、個人情報保護委員会「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン(通則編)」及び厚生労働省「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」に従い、甲の保有する患者をはじめとする個人情報等ならびに実習生の個人情報等の漏えいなどが生じないように、情報を適正に管理しなければならない。

2. 前項に基づき、乙は実習生に対し、個人情報等の保護に関する取扱いについて文書をもって十分に説明し、実習生の承諾のもとに、個人情報等の保護に関する誓約書を提出させるものとする。
3. 乙は、甲の求めがある場合、前項の文書及び誓約書を開示するものとする。
4. 乙は実習生に対し、実習終了後も甲の保有する個人情報等の保護を徹底するよう指導監督しなければならない。
5. 甲は、実習終了後、実習生の個人情報等をすべて乙に返却しなければならない。ただし、病院機能評価等で不都合が生じる場合には、甲乙協議の上、一定期間適切に管理することを可とする。

#### 第7条(個人情報等の保護状況の報告及び調査)

甲及び乙は、互いに実習中及び実習終了後の個人情報等の保護状況について、書面による報告を求めることができるものとし、甲及び乙は、遅滞なくこれに応じるものとする。

2. 甲及び乙は、互いに実習中及び実習終了後の個人情報等の保護状況について、確認のために調査することができるものとし、正当な理由がある場合を除き、これに協力するものとする。

#### 第8条(法人機密情報の保護)

本契約における甲及び乙の法人機密情報とは、次の各号の情報をいう。

- (1) 甲及び乙の経営及び事業運営に関する情報で公知でないもの
  - (2) 公知であっても、第三者に提供されることによって甲及び乙の権利利益が損なわれるおそれのある情報
2. 甲及び乙は、実習の実施にあたって、相手方の法人機密情報の漏えいなどが生じないように、法人機密情報の管理について、甲においては従業員、乙においては実習生に適切な指導をすることともに、実習終了後も法人機密情報の保護を徹底するよう指導監督する。

#### 第9条(実習の中止)

甲又は乙は、以下に示す事項に該当すると判断したときは、甲乙協議の上、実習生の実習を中止させることができる。

- (1) 実習生が甲の定める諸規則・心得等に違反した場合
- (2) 実習生が甲の施設内の秩序あるいは規律を乱した場合
- (3) 実習生の責により実習の目的を果たし得ない場合
- (4) 実習生が実習期間中に生じた疾病・傷害等により長期欠席した場合
- (5) 甲又は実習生に個人情報等の保護に関して問題があった場合

- (6) 甲又は実習生に相手方の法人機密情報の保護に関して問題があった場合
  - (7) 認定実務実習指導薬剤師が不在の場合など甲による実習指導の継続が不可能となった場合
  - (8) 甲と実習生との間に解決しがたい問題が発生した場合
  - (9) 甲が第2条に定める「実習計画書」に基づく実習を実施していないと乙が判断した場合。
2. 実習が中止となった場合の実習教育費の取扱いに関しては、甲乙協議の上、決定するものとする。

#### 第10条(実習生の疾病及び傷害)

実習生の実習期間中における疾病及び傷害、又は実習を原因として実習後に生じた疾病及び傷害については、乙の責任において対処するものとする。ただし、甲の管理・監督不足または実習施設内(院内)感染などの感染源が特定されるなど、原因が甲に特定される場合は、甲の責任において対処するものとする。

#### 第11条(損害賠償)

甲及び乙は、故意、過失ならびに甲又は乙の管理・監督不足により、相手方に事故、器物破損、機密情報の漏えいその他の損害を与えた場合は、その賠償責任を負うものとする。

#### 第12条(第三者損害賠償)

実習生の故意、過失ならびに甲又は乙の管理・監督不足により、第三者あるいは甲の従業員等(以下、「第三者」という)に人的又は物的損害を与え、当該第三者と甲との間で損害賠償責任を問う紛争又は訴訟が発生した場合は、甲及び乙は、その当事者として誠意をもってその対応にあたるとともに、甲乙は、実習生と連帯して当該第三者に対する賠償責任を負うものとする。

2. 前項の賠償負担の割合及び求償については、甲乙協議の上、決定するものとする。

#### 第13条(契約期間)

この契約書の期間は契約締結日から、2020年3月31日までとする。ただし、契約満了の2カ月前までに、甲又は乙から相手方に対する書面による変更の申し入れがないかぎり、同一条件で1年間延長するものとし、以降も同様とする。

#### 第14条(その他の事項)

本契約に定めない事項及び契約条項に疑義が生じた場合又は変更については、それぞれ甲乙協議の上、解決する。

本契約の締結を証すために、本契約書を2通作成し、甲乙記名押印の上、各自その1通を保有するものとする。

(西暦) 年 月 日

甲 医療提供施設名 (個人名又は法人名)

代表者名

注:理事長、病院長  
又はそれに相当する者

所在地

|       |               |
|-------|---------------|
| 乙 法人名 | 学校法人 大阪医科薬科大学 |
| 代表者名  | 理事長 植木 實      |
| 所在地   | 大阪府高槻市大学町2番7号 |



## 薬学部学生の薬局実習に関する契約書

〇〇〇〇薬局（以下、甲 という）と、学校法人大阪医科薬科大学が置く大阪医科薬科大学（以下、乙 という）は、甲の施設において、乙の学生（以下、実習生という）の薬学実務実習を実施するにあたり、次のとおり契約を締結する。

### 第1条（実習内容及び実習生）

乙は、甲に対し、実習を委託し甲はこれを受託する。なお、実習生の氏名等の個人情報等については、「学生プロフィール」又は「薬学実務実習の委託について」の提出をもって代える。

実習内容 「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」に基づく、  
薬学部学生の薬学実務実習

### 第2条（実習の実施方法）

甲は、甲及び乙ならびに連携施設間での協議に基づき作成した「実習計画書」に従って実習を実施する。

### 第3条（実習教育費）

乙は、甲に対し、実習教育費として、11週間（原則55日間）実習生1人あたり  
\*\*\*, \*\*\*円（消費税別）を支払うものとする。部分的に受け入れた場合は、実習日数に応じた実習教育費（実習教育費を55で除した金額）を支払うものとする。支払いは、甲の請求に基づき、実習終了後支払うものとする。

### 第4条（実習生の健康状態）

乙は、甲に対し、実習開始前に実習生の健康状態を記載した書類を提出する。

2. 実習生は各種抗体検査（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）を実施し、甲が必要と認めた場合は、乙は甲に対して実習生の抗体検査結果を提出する。また、予防接種についても実習内容及び実習期間を勘案の上実施し、甲が必要と認めた場合は、乙は甲に対して実習生の予防接種実施状況を報告する。なお、検査結果について、甲は適正に管理する。
3. 本契約書に定める実習にあたって実習生の健康状態に問題が生じた場合には、甲乙協議の上、当該実習生の実習を中断又は中止することができる。

### 第5条（実習生への規則遵守の徹底）

乙は、実習生が実習を行うにあたり、甲が定める諸規則・心得等を遵守し、かつ実習指導者の指示に従うように実習生を指導しなければならない。

### 第6条（個人情報、秘密及びプライバシー（以下、個人情報等という）の保護）

実習の実施にあたって、甲乙双方は、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号（以下、「個人情報保護法」という）、個人情報保護委員会「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン（通則編）」及び厚生労働省「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」に従い、甲の保有する患者をはじめとする個人情報等ならびに実習生の個人情報等の漏えいなどが生じないように、情報を適正に管理しなければならない。

2. 前項に基づき、乙は実習生に対し、個人情報等の保護に関する取扱いについて文書をもって十分に説明し、実習生の承諾のもとに、個人情報等の保護に関する誓約書を提出させるものとする。
3. 乙は、甲の求めがある場合、前項の文書及び誓約書を開示するものとする。
4. 乙は実習生に対し、実習終了後も甲の保有する個人情報等の保護を徹底するよう指導監督しなければならない。
5. 甲は、実習終了後、実習生の個人情報等をすべて乙に返却しなければならない。ただし、病院機能評価等で不都合が生じる場合には、甲乙協議の上、一定期間適切に管理することを可とする。

#### 第7条（個人情報等の保護状況の報告及び調査）

甲及び乙は、互いに実習中及び実習終了後の個人情報等の保護状況について、書面による報告を求められることができるものとし、甲及び乙は、遅滞なくこれに応じるものとする。

2. 甲及び乙は、互いに実習中及び実習終了後の個人情報等の保護状況について、確認のために調査することができるものとし、正当な理由がある場合を除き、これに協力するものとする。

#### 第8条（法人機密情報の保護）

本契約における甲及び乙の法人機密情報とは、次の各号の情報をいう。

- (1) 甲及び乙の経営及び事業運営に関する情報で公知でないもの
  - (2) 公知であっても、第三者に提供されることによって甲及び乙の権利利益が損なわれるおそれのある情報
2. 甲及び乙は、実習の実施にあたって、相手方の法人機密情報の漏えいなどが生じないように、法人機密情報の管理について、甲においては従業員、乙においては実習生に適切な指導をするとともに、実習終了後も法人機密情報の保護を徹底するよう指導監督する。

#### 第9条（実習の中止）

甲又は乙は、以下に示す事項に該当すると判断したときは、甲乙協議の上、実習生の実習を中止させることができる。

- (1) 実習生が甲の定める諸規則・心得等に違反した場合
- (2) 実習生が甲の施設内の秩序あるいは規律を乱した場合

- (3) 実習生の責により実習の目的を果たし得ない場合
  - (4) 実習生が実習期間中に生じた疾病・傷害等により長期欠席した場合
  - (5) 甲又は実習生に個人情報等の保護に関して問題があった場合
  - (6) 甲又は実習生に相手方の法人機密情報の保護に関して問題があった場合
  - (7) 認定実務実習指導薬剤師が不在の場合など甲による実習指導の継続が不可能となった場合
  - (8) 甲と実習生との間に解決しがたい問題が発生した場合
  - (9) 甲が第2条に定める「実習計画書」に基づく実習を実施していないと乙が判断した場合。
2. 実習が中止となった場合の実習教育費の取扱いに関しては、甲乙協議の上、決定するものとする。

#### 第10条（実習生の疾病及び傷害）

実習生の実習期間中における疾病及び傷害、又は実習を原因として実習後に生じた疾病及び傷害については、乙の責任において対処するものとする。ただし、甲の管理・監督不足または実習施設内（院内）感染などの感染源が特定されるなど、原因が甲に特定される場合は、甲の責任において対処するものとする。

#### 第11条（損害賠償）

甲及び乙は、故意、過失ならびに甲又は乙の管理・監督不足により、相手方に事故、器物破損、機密情報の漏えいその他の損害を与えた場合は、その賠償責任を負うものとする。

#### 第12条（第三者損害賠償）

実習生の故意、過失ならびに甲又は乙の管理・監督不足により、第三者あるいは甲の従業員等（以下、「第三者」という）に人的又は物的損害を与え、当該第三者と甲との間で損害賠償責任を問う紛争又は訴訟が発生した場合は、甲及び乙は、その当事者として誠意をもってその対応にあたるとともに、甲乙は、実習生と連帯して当該第三者に対する賠償責任を負うものとする。

2. 前項の賠償負担の割合及び求償については、甲乙協議の上、決定するものとする。

#### 第13条（契約期間）

この契約書の期間は契約締結日から、2020年3月31日までとする。ただし、契約満了の2カ月前までに、甲又は乙から相手方に対する書面による変更の申し入れがないかぎり、同一条件で1年間延長するものとし、以降も同様とする。

#### 第14条（その他の事項）

本契約に定めない事項及び契約条項に疑義が生じた場合又は変更については、それぞれ

れ甲乙協議の上、解決する。

本契約の締結を証すために、本契約書を2通作成し、甲乙記名押印の上、各自その1通を  
保有  
するものとする。

(西暦)            年            月            日

甲 医療提供施設名    (個人名又は法人名)

代表者名

注：理事長、病院長  
又はそれに相当する者

所在地

|       |               |
|-------|---------------|
| 乙 法人名 | 学校法人 大阪医科薬科大学 |
| 代表者名  | 理事長 植木 實      |
| 所在地   | 大阪府高槻市大学町2番7号 |

大阪医科薬科大学薬学部  
病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに  
個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護  
に関する説明文書

本説明文書は、大阪医科薬科大学(以下、「本学」という)の薬学部のカリキュラムとしておこなわれる病院・薬局等における実習・研修・見学(以下、「実習等」という)において本学学生が守るべき事項のうち、特に、実習等の誠実な履行、実習等に関連して本学学生が取得した個人情報、秘密およびプライバシー(以下、「個人情報等」という)の保護、病院・薬局等の法人機密情報の保護に関するものである。

1. 実習等の誠実な履行

本学学生は、実習先病院・薬局等の定める諸規則・心得等を遵守し、実習指導者の指示に従って、実習等を誠実に履行する。

2. 個人情報等

- 1) 「個人情報の保護に関する法律」において、個人情報とは、生存する個人に関する情報であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの(他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む)をいう。
- 2) 個人情報等には、以下の情報などが含まれる。
  - (1) 特定の患者あるいはその関係者が識別できる情報  
(カルテ情報、処方せん、データなどを含む)
  - (2) 実習先病院・薬局等の特定の職員あるいはその関係者が識別できる情報
  - (3) 特定の本学学生が識別できる情報

3. 個人情報等の適正管理

- 1) 本学および本学学生は、個人情報の保護に関する法律等、本学が定める個人情報保護規程、および実習先病院・薬局等の定める個人情報保護規程・機密保持規程等に従って個人情報等を適正に管理する。
- 2) 個人情報等を記録した文書、パソコン、記憶媒体などが紛失あるいは盗難に遭わないように最大限に配慮し、注意する。
- 3) 以下に掲げる行為は個人情報等の適正管理を妨げるものであり、本学学生はこれらの行為をおこなってはならない。
  - (1) 個人情報等を、実習先病院・薬局等の許可なしに、基本契約に定める実習等を実施する以外の目的に使用すること
  - (2) 実習先病院・薬局等の文書による許可なく個人情報等を第三者に提供すること
  - (3) 個人情報等を、実習先病院・薬局等の許可なしに、複製・複写すること

- (4) 個人情報等を、実習先病院・薬局等の許可なしに、実習先病院・薬局の指定した場所以外へ持ち出すこと
  - (5) 個人情報等を、実習先病院・薬局等の許可なしに、廃棄すること
  - (6) 個人情報等を、実習先病院・薬局等の許可なしに、私有パソコンで取り扱うこと
  - (7) 個人情報等を、ファイル交換ソフト(Winny など)を入れたパソコンで取り扱うこと
  - (8) 個人情報等を、離席時あるいは退室時に、机上等に放置すること
- 4) 本学学生は、実習等の終了時に、実習先病院・薬局等の指示に従い、実習等の間に取得した個人情報等およびその複製物・複写物のすべてを、返還または廃棄しなければならない。
- 5) 本学学生は、実習等の終了後においても、個人情報等の保護義務を負う。

#### 4. 病院・薬局等の法人機密情報の保護

- 1) 本文書の「病院・薬局等の法人機密情報」とは、以下の情報をいう。
- (1) 実習先病院・薬局等の経営および事業運営に関する情報で公知でないもの
  - (2) 公知であっても、第三者に提供されることによって実習先病院・薬局等の権利利益が損なわれるおそれのある情報
- 2) 以下は本文書の病院・薬局等の法人機密情報の対象ではない。
- (1) 情報取得時に既に公知であった情報
  - (2) 情報取得後、本学学生の責によらず公知となった情報
  - (3) 情報取得時に既に本学学生が保有していた情報
  - (4) 正当な権限を有する第三者から秘密保持義務を負わず入手した情報
  - (5) 法令その他に基づき公的機関等により開示を要求された情報

本学学生は、病院・薬局等における実習等において、法人機密情報の保護義務を負う。法人機密情報の適正管理については、前項の個人情報等の適正管理に従う。

#### 5. 周知徹底の義務

本学は本学学生に対し、個人情報等および法人機密情報の保護義務を履行するために、個人情報等および法人機密情報の取扱いについて周知徹底しなければならない。

#### 6. 誓約書の提出

本学学生は、以上の条項を理解した上で、これを遵守する証として、「病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および法人機密情報の保護に関する誓約書」を提出する。

以上

大阪医科薬科大学  
病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに  
個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護  
に関する誓約書

大阪医科薬科大学長 殿

1. 私は、大阪医科薬科大学薬学部学生として実習先病院・薬局等において実習・研修・見学(以下、「実習等」という)をおこなうにあたり、「大阪医科薬科大学薬学部 病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書」の事項を十分に理解しましたので、これを遵守いたします。
2. 私は、実習先病院・薬局等の定める諸規則・心得等を遵守し、実習指導者の指示に従って、実習等を誠実に履行いたします。
3. 私は、実習等の期間中はもちろん、その後においても、実習等において知り得た個人情報等および法人機密情報を第三者に漏えいいたしません。
4. 私は、私の故意または過失により、実習先病院・薬局等、その関係者、あるいは第三者に事故、器物破損、個人情報等および法人機密情報の漏えいその他の損害を与えた場合は、その賠償責任を負います。なお、大学が賠償を負担した場合は、大学の求償に応じます。

以上、誓約いたします。

令和 年 月 日

住所 \_\_\_\_\_

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

## 施設での実務実習スケジュール

### 薬局実習

|      |                    |
|------|--------------------|
| 第1週  | 導入                 |
| 第2週  | 保険調剤               |
| 第3週  |                    |
| 第4週  | 薬物治療モニタリング<br>情報提供 |
| 第5週  |                    |
| 第6週  |                    |
| 第7週  |                    |
| 第8週  |                    |
| 第9週  |                    |
| 第10週 | 地域貢献の実践            |
| 第11週 |                    |

### 病院実習

|      |              |
|------|--------------|
| 第1週  | 導入           |
| 第2週  | 内服・外用薬調剤     |
| 第3週  | 注射薬調剤・無菌調製   |
| 第4週  | 病棟業務実践       |
| 第5週  |              |
| 第6週  |              |
| 第7週  |              |
| 第8週  |              |
| 第9週  | DI・TDM・医薬品管理 |
| 第10週 |              |
| 第11週 |              |



# **令和元年度 Ⅲ期・Ⅳ期 実務実習ガイダンス**

日 時：令和 1年 7月23日（火） 10：00～

場 所：D棟3階 講義室 D-302

## **1. 全般的な説明**

### **(1) 実習期間**

3期

令和 1年 8月26日（月）～11月11日（月）の内の原則55日間

4期

令和 1年11月25日（月）～令和 2年 2月16日（日）の内の原則55日間  
（12月30日（月）～1月5日（日）を除く）

### **(2) 実習期間中の実習担当教員の施設への訪問（原則2回）**

3期

① 9月 2日（月）～ 9月27日（金）

② 10月14日（月）～11月 8日（金）

4期

① 12月 2日（月）～12月26日（金）

② 令和 2年 1月20日（月）～ 2月14日（金）

### **(3) 特研教員とのコンタクト・登校日（コンタクト期間）**

3期

9月28日（土）～10月13日（日）

4期

令和 2年 1月 7日（火）～ 1月19日（日）

上記期間中に、特研教員からメール或いは電話などで実習状況を確認する  
研究室によっては、登校日を設定し情報交換の場とする場合もある

## **2. 実習にあたっての諸注意事項**

### **(1) 学生の実習施設への事前訪問**

- ・事前訪問の連絡は 7月24日（水）から開始する
- ・訪問にあたっては、必ず事前に電話予約（アポイント）を入れてから訪問すること  
※アポイントをとる際には業務多忙と考えられる時間帯は避けること
- ・出来るだけ早期に訪問すること
- ・訪問時の服装はリクルートスーツとする
- ・訪問時の態度に注意する（第一印象が後の評価に影響する）
- ・遅くとも事前訪問までに実習記録システムの「学生プロフィール」欄への記入を済ませておくこ

と

- ・複数の学生が実習する施設では全員揃って訪問すること  
訪問にあたっては、事前に学生間で相談の上、担当（11ページの「◎印」）が代表してアポイントをとり、他の学生に連絡すること
- ・施設アンケートの内容を事前に確認してから訪問すること。不明な点等については、訪問時に確認すること

※訪問日時が決まり次第、実習担当教員に訪問日をメールにて連絡すること

## (2) 事前訪問で確認する事項

- ・交通手段 ⇒ 原則、公共交通機関を利用する
- ・実習時間  
原則、月曜日～金曜日の午前9時～午後5時  
※あくまで基本である。不明な時は訪問時に確認する  
土・日曜日の研修や平日でも時間延長の場合がある  
薬局の中には、平日の午後に閉店する場合があります、代わりに土曜日の実習や平日の時間延長といった場合もある
- ・薬剤師会等の研修会参加、他施設での実習がある  
指導薬剤師の判断で参加を促される場合がある  
薬剤師会での薬局製剤等の集合研修会に参加する場合もある
- ・集合場所や時間、昼食、ロッカー、持ち物について確認する
- ・緊急時（忌引き、事故、自然災害等）の連絡先、連絡方法等を確認しておくこと

## (3) 代休、振替実習

- ・時間外の実習や、振替日の実習（土曜）を行った場合、実習時間に応じ代休となる場合がある  
※日誌には「欠席」と記入し、備考欄に〇月〇日の代休と必ず記入すること

## (4) 実習を欠席する場合

- ・必ず実習施設（指導薬剤師）に事情を説明し了解を得た上、①臨床教育・研究支援課、②実習担当教員、③特研教員にメールで連絡する  
後日、「欠席届」を臨床教育・研究支援課に提出すること
- ・「欠席届」は、欄外に実習担当教員の署名・捺印をもらった上で臨床教育・研究支援課に提出すること
- ・公休（7ページ）に該当する場合でも欠席届を提出すること
- ・病気により3日以上実務実習を欠席した場合は、診断書もあわせて提出すること
- ・発熱・下痢等の体調不良時には指導薬剤師の指示に従うこと  
\*外から帰ったときは、「手洗い」や「うがい」を励行すること  
咽頭粘膜や手指など身体に付着したウイルスを物理的に除去するために有効な方法であり、感染予防の基本です。

**※何らかの事情により実習ができない時には、必ず臨床教育・研究支援課に連絡すること**

- (5) 実習担当教員、臨床教育・研究支援課への連絡に際して
- ・携帯電話に電話番号およびメールアドレスの登録をしておくこと（8ページ参照）
  - ・口頭連絡時は実習施設名および学籍番号・氏名を忘れずに伝えること
- (6) 臨床教育・研究支援課からのお願い
- ・実習期間中に臨床教育・研究支援課から連絡する場合、原則としてポータルサイトを通して行う
    - 必ずユニバーサルパスポートに転送先のメールアドレス（スマートフォン・携帯電話など）の登録をし、連絡事項がメールで受信できるように設定しておくこと
  - ・携帯電話番号およびメールアドレスを変更した場合は、必ず臨床教育・研究支援課に連絡すること

### 3. 実習記録について

**事前訪問前（実務実習開始前）までに行うこと**（指導薬剤師が見て実務実習の参考とする）

- 「学生プロフィール」⇒「自己紹介」  
自己紹介、4年次までの学習、将来の希望、目指す薬剤師像を入力する。
- 「学生プロフィール」⇒「薬局（病院）実習自己目標」  
実習に対する気持ち、実習における個人目標を入力する。

#### **実務実習が始まって行うこと**

実習日誌の記載内容は、指導薬剤師と大学担当教員からの評価の対象です。必ず定められた時期に記載すること。実習日誌の記載例は、別紙を参照すること。

#### **◇毎日行うこと**

- 「実習日誌」
  - ① 出欠状況
  - ② 具体的な実習内容（【本日の目標】、【本日得たこと】、【関連して調べたこと】等：実習日誌記載例に習って項目立てて記載）
  - ③ 1日のスケジュール（午前 調剤 午後 在宅 等でも可能）
  - ④ 場所
  - ⑤ 関わった疾患のべ人数（処方解析等をしたもの ピッキングのみは入れない）
  - ⑥ 服薬指導を実施した疾患人数
  - ⑦ 実習にて達成できなかった点
- 指導薬剤師からのコメントは必ず読み、直にその日の日誌に反映、対応する。

#### **◇毎週行うこと**

- 「一週間振り返り」
  - ① 実習したこと
  - ② 関わった疾患とその人数、服薬指導を実施した疾患とその人数（日々の人数が自動集計

されます)

③ 理解、実践、今週出来なかったことに対する改善策、施設・大学に伝えたいこと

このレポートは、薬局・病院の指導薬剤師が、それぞれの実習の参考にするために相互に閲覧できるようになっています。

- 指導薬剤師、大学教員からのコメントは必ず読み、対応する。

#### ◆適宜行うこと

- 「到達度評価」

■項目：評価追加で段階を入力（チェックポイント SBOs を参考とする）。

□項目：評価追加すると実施した日が入力される。

自己評価は、進捗状況により何度行ってもよいが、4 週目、8 週目、最終週には必ず自己評価を実施し、到達度評価を実施した旨を指導薬剤師に伝え現段階での指導薬剤師評価を受けること。

特に、評価で指導薬剤師と乖離が大きい場合、振り返り面談を行い、次の段階へのステップアップを行う。

#### ◆4 週目、8 週目に行うこと

- 「到達度評価」

必ず 4 週目、8 週目には自己評価を行い、指導薬剤師の評価を受けること。時期を過ぎると進捗レポートに反映されないので注意する。

- 「学生プロフィール」⇒「薬局（病院）実習自己目標」  
実習個人目標達成度(4 週目終了時)(8 週目終了時)を入力する。

#### ◆最終週、実務実習終了後に行うこと

- 「到達度評価」

必ず最終週に自己評価を行い、指導薬剤師の評価を受けること。時期を過ぎると進捗レポートに反映されないので注意する。

- 「学生プロフィール」⇒「薬局（病院）実習自己目標」

実習個人目標達成度(実習終了時)、実務実習の自己評価を入力する。

- 「実習日誌」⇒「カレンダー」⇒「実習全体の振り返り」

各項目を入力する。このレポートは、薬局・病院の指導薬剤師が、それぞれの実習の参考にするために相互に閲覧できるようになっています。

- 「データ出力」⇒学校提出用書類をプリントアウトする。  
出欠集計表は、指導薬剤師の印をもらう。

#### 4. 実務実習終了後すみやかに実施する項目

(出欠表、進捗レポート、報告書、アンケート、欠席届の提出)

- ・ 出欠表：最終日に出力し、指導薬剤師の印をもらい提出すること  
(必ず学生本人のログイン画面の内容を出力してください)
- ・ 進捗レポート：実習記録システムの「データ出力」メニューから出力すること(実習記録システムを用いない(手書き)施設の者はポータルサイトから様式をダウンロードすること)  
(4週・8週・最終週の時点で自己評価を入力したもの)
- ・ 報告書：ポータルサイトからダウンロードしパソコンで作成すること
- ・ アンケート：ポータルサイトからダウンロードするか、臨床教育・研究支援課備え付けの用紙を使用すること
- ・ パワーポイント：実務実習の成果を「配付資料1 ページ6 スライド」で2 ページ以上を出力したもの
- ・ 欠席届：ポータルサイトからダウンロード、もしくは臨床教育・研究支援課に取りに行くこと  
(平日の9時～17時)
- ・ 提出期限： **3期 11月15日(金) 午後5時まで**  
**4期 令和 2年 2月21日(金) 午後5時まで**
- ・ 提出場所：臨床教育・研究支援課 (B棟5階)
  
- ・ 施設への礼状：実習終了後1週間以内に出すこと (手紙もしくはハガキ)

#### 5. 情報の取り扱い

- ・ 守秘義務を負っていることを念頭に行動すること
- ・ SNS (LINE, Twitter, Facebook, ブログ, 掲示板など) を通じての安易な情報発信は慎むこと

#### 6. 教科書

- ・ 「2019年版薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト」を用いる
- ・ 実習施設には、「治療薬マニュアル」を携帯すること

#### 7. 白衣のクリーニングについて

実習には清潔な白衣を持参すること

ブックセンターにおいても白衣のクリーニングの取扱いを行なっています

1. 料金 1枚650円 (前払い)
2. 受付と仕上がり 「折りたたみ仕上げ」で、月曜日又は木曜日に受け取れる
  - (1) 月、火、水曜日の受付 → 翌週の月曜日仕上がり
  - (2) 木、金、土曜日の受付 → 翌週の木曜日仕上がり
3. その他 「白衣」のみの取扱い

薬品の汚れは多くの場合「染み抜き」処理が必要となります

## 8. 評価について

実習施設の実習終了時評価表、実務実習記録の内容、提出物等を「実務実習実施部会」で総合的に評価の上、実務実習の単位認定とする。

なお、下記事項に該当する場合、一定期間の再実習やレポートの提出、面談等のうえ再度評価する。(9 ページ「実習終了評価表」参照)

- (1) 実習終了時評価表に「1」がある場合
- (2) 実習終了時評価表に複数の「2」がある場合
- (3) 複数回の遅刻(交通機関の遅れを除く)や早退、欠席日数(病欠も含む)が多く実習期間が不十分と判断された場合
- (4) 大学の指定した提出物(報告書、欠席届等)を定められた提出日までに提出しなかった場合
- (5) 伝達報告会に参加しなかった場合
- (6) 実習期間中の実習態度や姿勢など実習生として不適切な行動をとったと判断された場合(実習終了後(単位認定後も含む)に不適切な行動が判明した場合を含む)
- (7) 指導薬剤師、大学教員からの指導で、改善がみられなかった場合

## 9. 実習の中止について

大学は、実習施設の実習生受け入れについて契約を締結している。その中で、実習施設での諸規則・心得等を遵守することが明示されている。

したがって、実習施設からの申し出があり、かつ大学が中止もやむを得ないと判断した場合は、実習を中止することがある。

同様に、大学が中止もやむを得ないと判断した場合でも、実習を中止することがある。

## 10. 学生からの質問

### 11. 実習施設からの連絡事項(グループ別になって)・・・場所移動

実習担当教員が事前訪問で得た情報・注意事項など、施設ごとの個別面談等を実施する

— メモ —

## 公休（出席扱い）の取扱い（2019 年度）

下記に該当する場合は公休とする。

### 1. 慶弔休暇

- 1) 学生の父母，子または配偶者が死亡した時 5日
- 2) 学生の祖父母，兄弟姉妹または配偶者の父母が死亡した時 3日

### 2. 交通ストまたは災害等により交通機関が使用できなくなった場合（徒歩で実習先に向かう場合を除く）

- 1) 7時までに解除した時 通常どおり
- 2) 10時までに解除した時 午前中公休
- 3) 10時以降に解除した時 終日公休
- 4) 上記1)～3)については実習施設と予め協議した上決定する。

### 3. 大雨特別警報（土砂災害）、大雨特別警報（浸水害）、暴風特別警報、高潮特別警報、波浪特別警報、暴風雪特別警報、大雪特別警報、大津波警報、噴火特別警報（噴火警報居住地域）、緊急地震速報（震度6弱以上）および暴風警報が発令された場合あるいは津波警報等により実習先への移動を控える必要が生じた場合

- 1) 7時までに解除された時 通常どおり
- 2) 10時までに解除された時 午前中公休
- 3) 10時以降に解除された時 終日公休
- 4) 上記1)～3)および災害が予測される場合は実習施設と協議した上決定する。

### 4. 裁判員制度により裁判員の指名を受けた場合に出頭等の手続きが必要になった場合、公休とする。ただし、終日休む必要がない場合は、午前中公休あるいは午後公休とする。

### 5. 学校保健安全法施行規則第18条に定めた下記の「学校において予防すべき感染症」に罹患した場合、同施行規則第19条に定めた出席停止期間を公休とする。

- ・第一種 エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、及び特定鳥インフルエンザ、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成十年法律第百十四号）第六條第七項 から第九項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症（中東呼吸器症候群（MERS）等）及び新感染症
- ・第二種 インフルエンザ、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎
- ・第三種 コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎
- ・その他の感染症（第三類として扱う場合もある） 感染性胃腸炎、サルモレラ感染症、カンピロバクター感染症、マイコプラズマ感染症等

**\*上記、公休に該当する事項で欠席した場合、欠席日数が長期間にわたるときは、補講を受けなければならない。この場合の補講については、学生、大学、関係機関等と協議して決める。**

### 公休の場合の連絡

#### 1. 上記1. 5. の場合

学生は可及的速やかに大学の指導担当教員および指導薬剤師に電話連絡する。

#### 2. 上記2. 3. 4. の場合

学生は可及的速やかに大学の指導担当教員および指導薬剤師に電話またはメール連絡する。

#### 3. 上記5の場合

学生は、原則、後日医師の診断書を大学に提出すること。

## 【実習担当教員への連絡について】

(実習中で困ったこと、相談したいことの連絡方法・手段)

### ●平日の時間帯(9時～17時)

臨床教育・研究支援課

メール XX@XXXX.ac.jp

電話 072-690-XXXX(直通)

FAX 072-690-XXXX

### ●上記時間外(休日含む)

実習担当教員へ

| 実習担当教員 | 携帯            | メールアドレス(携帯)     |
|--------|---------------|-----------------|
| A      | 080-XXXX-XXXX | XXXX@XXXX.ne.jp |
| B      | 080-XXXX-XXXX | XXXX@XXXX.ne.jp |
| C      | 080-XXXX-XXXX | XXXX@XXXX.ne.jp |
| D      | 080-XXXX-XXXX | XXXX@XXXX.ne.jp |
| E      | 080-XXXX-XXXX | XXXX@XXXX.ne.jp |

<担当教員に連絡が付かない場合の代理>

担当の教員

左の教員に連絡が取れない時

A ⇒ B  
B ⇒ C  
C ⇒ D  
D ⇒ E  
E ⇒ A



# 実習終了時評価表

大阪薬科大学

学籍番号 ( 15\*\*\* )

氏名 ( 大葉 太郎 )

実習態度・実習内容の習得度は、5段階（5 優れている - 3ふつう - 1劣る）で評価

| 1. 実習期間中の実習態度 |  |
|---------------|--|
| マナー           |  |
| 積極性、探求心       |  |
| 協調性           |  |
| 医療人となるための心構え  |  |
| 社会的常識         |  |

| 2. 実習内容の修得度 |             |               |             |               |                     |
|-------------|-------------|---------------|-------------|---------------|---------------------|
|             | (1) 薬学臨床の基礎 | (2) 処方箋に基づく調剤 | (3) 薬物療法の実践 | (4) チーム医療への参画 | (5) 地域の保健・医療・福祉への参画 |
| 医療関連科目の基礎学力 |             |               |             |               |                     |
| 学習内容の理解度    |             |               |             |               |                     |
| 実務の処理能力     |             |               |             |               |                     |
| 実習中の質疑応答能力  |             |               |             |               |                     |
| 報告書作成能力     |             |               |             |               |                     |

| 3. 概評 |
|-------|
|       |
| ----- |
| ----- |
| ----- |

年 月 日

施設名

責任者名 ( 印 )

指導薬剤師名 ( 印 )

## 大阪薬科大学

### 実務実習に向けての諸注意(服装・身だしなみ等)について

※本学学生には次の通り指導しております。

その他、補足事項等がございましたら、同封の「施設アンケート」(2)の②にご記入ください。

|         |  |
|---------|--|
| 白衣      | 清潔で、しみ、しわのない白衣を2枚用意すること。<br>袖口からひもが出ていないこと。  |
| 白衣の下の着衣 | シャツ、ブラウスは衿ぐりのしみや汚れ、すり切れないものを着用すること。<br>スラックスはしみや汚れ、裾のすり切れのないものを着用すること。<br>Tシャツ、ジーンズを不可にされている施設があるので注意すること。<br>Tシャツ、ジーンズの着用が許可されている施設においても色は控えめにすること。<br>Tシャツは大きなプリント柄のあるものは避けること。<br>スラックスの丈は床を引きずらないような長さにすること。<br>スカートは実習の邪魔にならないような丈にすること。(短すぎたり、白衣から大きくはみ出さないような長さにすること) |
| 名札      | 胸につける。   |
| 上履き     | 清潔で、すべらない、音のしない、色は派手でないものを用意すること。<br>(白のスニーカーが望ましい。)   |

|         |   |
|---------|---|
| 行き帰りの服装 | 清潔であること。<br>施設への行き帰りも実習中と心得ること。短パンや草履ばき、後ろを踏んだ靴などは禁止。<br>更衣室、ロッカーを利用できない施設もあるため、事前に確認しシンプルな服装をすること。<br>施設外での実習の指示(患者宅訪問など)にも対応できる服装を考慮しておくこと。 |
| ヘアスタイル  | 清潔であること。<br>肩より長い髪は後ろでまとめること。<br>長い前髪は邪魔にならないように留める。横もしっかり留めること。<br>色は自然な色。(黒を原則とする)<br>香りの強い整髪料、スプレーは禁止。                                     |
| 化粧      | 控え目にすること。<br>つけまつげ禁止。マスカラも原則禁止。<br>香水、オーデコロンなど香りの強いものは禁止。   |
| 爪       | 短く切り、清潔にすること。<br>マニキュア、付けづめは禁止。   |
| ひげ      | ひげは毎日剃ること。  |
| 装飾品     | ネックレス、イヤリング、ピアス、指輪、ブレスレットは禁止。<br>施設への行き帰りも実習中と心得え、派手なものは控えること。  |

## 複数学生が実習する施設

### 【薬局】

| 施設名   | 代表 | 学籍番号  | 研究室      |
|-------|----|-------|----------|
| XX 薬局 | ◎  | XXXXX | XXXX 研究室 |
|       |    | XXXXX | XXXX 研究室 |
| XX 薬局 | ◎  | XXXXX | XXXX 研究室 |
|       |    | XXXXX | XXXX 研究室 |
| XX 薬局 | ◎  | XXXXX | XXXX 研究室 |
|       |    | XXXXX | XXXX 研究室 |

### 【病院】

| 施設名   | 代表 | 学籍番号  | 研究室      |
|-------|----|-------|----------|
| XX 病院 | ◎  | XXXXX | XXXX 研究室 |
|       |    | XXXXX | XXXX 研究室 |
| XX 病院 | ◎  | XXXXX | XXXX 研究室 |
|       |    | XXXXX | XXXX 研究室 |
| XX 病院 | ◎  | XXXXX | XXXX 研究室 |
|       |    | XXXXX | XXXX 研究室 |

### 【病院(大阪医科薬科大学グループ実習)】

| 前半実習施設                   |   |       |          |
|--------------------------|---|-------|----------|
| 大阪医<br>科薬科<br>大学附<br>属病院 | ◎ | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                          |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                          |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                          |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                          |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                          |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                          |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                          |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                          |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
| XX 病院                    |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                          |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                          |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                          |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                          |   | XXXXX | XXXX 研究室 |

| 後半実習施設               |   |       |          |
|----------------------|---|-------|----------|
| 大阪医科<br>薬科大学<br>附属病院 | ◎ | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                      |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                      |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                      |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                      |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                      |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                      |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                      |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                      |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
| XX 病院                |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                      |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                      |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                      |   | XXXXX | XXXX 研究室 |
|                      |   | XXXXX | XXXX 研究室 |



| 授業科目の概要（実務実習 事前学習） |   |                        |
|--------------------|---|------------------------|
| （大阪医科大学 薬学部薬学科）    |   |                        |
| 授業科目の名称            | 講義等の内容  | 備考                     |
| 臨床薬学概論             | 4年次で行われる「臨床導入実習」の序論を成すもので、さらに5年次で行われる「病院・薬局実務実習」のための準備学習となることを目的とする。講義では、病院・薬局における薬剤師業務全体の流れ、医薬品管理の意義や流れ、医薬品管理の意義と必要性、医薬品管理の流れ、劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬及び覚醒剤原料等の管理と取扱い、特定生物由来製品の管理と取扱い、代表的な放射性医薬品の種類と用途・保管管理方法、法的な調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取扱い、代表的な疾患に使用される医薬品の効能・効果・用法・用量・警告・禁忌・副作用・相互作用、処方オーダーリングシステム及び電子カルテ、処方せんの様式と必要記載事項・記載方法、処方せんの監査の意義とその必要性・注意点、処方せんの監査、不適切な処方せん、主な医薬品の成分・商品名・剤形・規格等、代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せ、感染予防の基本的考え方とその方法、代表的な消毒薬の用途・使用濃度・調製時の注意点、院内製剤の意義・調製上の手続き・品質管理、薬局製剤について学習する。  |                        |
| 医薬品情報学             | 医薬品情報・患者情報の収集・評価・加工・提供・管理に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、医薬品を使用したり取り扱う上での必須の医薬品情報、医薬品情報に関わる職種と役割、医薬品添付文書の法的位置付け、医薬品添付文書の記載項目、医薬品インタビューフォームの位置付けと医薬品添付文書との違い、厚生労働省等の発行する資料、目的に合った適切な情報源の選択と必要な情報を検索・収集、医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報、副作用の因果関係を評価するための方法、医薬品の開発過程で行われる試験と得られる医薬品情報、医薬品情報に関する代表的な法律・制度とレギュラトリーサイエンス、薬物治療に必要な患者基本情報、患者情報源の種類・違い、問題志向型システム、SOAP形式などの患者情報の記録方法、医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報、患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性、医薬品情報源の一次資料・二次資料・三次資料の分類、医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料の特徴、MEDLINE などの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード・シソーラスの重要性、医薬品情報の信頼性・科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目、臨床試験などの原著論文および三次資料における医薬品情報の質の評価、医薬品情報をニーズに合わせた加工・提供と管理する際の方法と注意点、病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目、医薬品情報に基づく代表的な同種同効薬の有効性や安全性の比較・評価、医薬品情報に基づく先発医薬品と後発医薬品の品質・安全性・経済性の比較・評価について学習する。 | 共同<br>講義14時間<br>演習10時間 |
| 臨床導入学習 1           | 「病院・薬局実務実習」において、実臨床現場にて積極的・効果的かつ安全に実習に取り組めるように薬物療法・チーム医療・地域保健医療の基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。この授業では、調剤を始めるにあたって、病院での調剤業務、処方せんと薬袋、計数調剤：内用剤・外用剤、計量調剤：散剤・水剤・軟膏剤、錠剤鑑別、新薬・ジェネリック医薬品、処方鑑査、調剤過誤・医療安全、特別な薬剤の調剤（毒薬、麻薬・向精神薬）、フィジカルアセスメント、医薬品の適正使用、チーム医療（病院）、臨床栄養、注射剤処方鑑査、注射薬調剤、一般院内製剤・薬局製剤、配合変化（一般製剤・注射剤）、簡易懸濁法、無菌操作、高カロリー輸液の調製、抗悪性腫瘍剤の調製、病院薬剤師業務（初回面談、持参薬管理、疑義照会、服薬指導）、薬局薬剤師業務（医の倫理と患者の基本的権利、在宅医療への関わり、初回面談、疑義照会、服薬指導、薬歴管理、在宅医療への関わり、セルフメディケーション）について学習する。  | 共同                     |

## 授業科目の概要（実務実習 事前学習）

（大阪医科大学 薬学部薬学科）

| 授業科目の名称      | 講義等の内容  | 備考              |
|--------------|---|-----------------|
| 個別化医療        | <p>（概要）<br/>「予測・予防の医療」における「一次予防」「二次予防」「三次予防」の概念及び「重篤副作用」「初期症状」についての基本的知識の修得を目的とする。また、個別化医療に必須となる情報について把握し、医薬品適正使用を行うことができるための基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計8回）</p> <p>（27 井尻好雄／4回）<br/>「薬禍・薬害」と「Precision Medicine」の関連性、予測・予防の医療と重篤副作用概説・リスクマネジメントプラン、妊娠・授乳期における薬物動態と生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点、低出生体重児・新生児・乳児・幼児・小児における薬物動態と薬物治療で注意すべき点、高齢者及び心疾患・心機能低下時における薬物動態と薬物治療で注意すべき点について学習する。</p> <p>（44 加藤隆児／2回）<br/>吸収・分布・排泄過程における薬物相互作用と薬物中毒時の個別対応、治療的薬物マネジメント（TDM）への応用・症例解析、コンパニオン診断とがんゲノムパネル検査について学習する。</p> <p>（42 細畑圭子／2回）<br/>代謝・排泄過程における遺伝子多型と個別化薬物治療、移植医療の原理・方法と手順・現状及びゲノム情報の取扱いに関する倫理的問題点、薬物の主作用及び副作用に影響する代表的な遺伝的素因について学習する。</p> | オムニバス           |
| コミュニティファーマシー | <p>社会保障制度、医療政策、医療経済、医療・福祉・行政関連機関や職種に関する基礎的知識の修得、また、医薬分業の意義や地域における薬局・薬剤師の役割について考え行動できるための素地の涵養を目的とする。講義では、国民医療費、療養担当規則、医薬分業、地域における薬局の役割</p> <p>（かかりつけ薬局・薬剤師、医療安全の確保、パブリックヘルスの向上、地域包括ケアと多職種連携、介護保険制度、在宅医療）、調剤報酬・診療報酬及び介護報酬の仕組み、薬価基準制度、医薬品の市場の特徴と流通の仕組み、後発医薬品とその役割、薬物療法の経済評価手法、プライマリ・ケアとセルフメディケーションについて学習する。</p>   | 講義16時間<br>演習8時間 |
| 臨床導入学習 2     | <p>「病院・薬局実務実習」において、実臨床現場にて積極的・効果的かつ安全に実習に取り組めるように薬物療法・チーム医療・地域保健医療の基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。この授業では、法令・規則等の理解と遵守、処方箋と疑義照会、処方箋に基づく医薬品の調製、患者・来局者対応、服薬指導、患者教育、安全管理、患者情報の把握、チーム医療への参画、在宅（訪問）医療・介護への参画、プライマリケア、セルフメディケーションの実践について学習する。</p>   | 共同              |

薬学実務実習における教員配置計画

| 地区                    |             | 主担当者    | 担当者 | 担当病院数 | 担当薬局数 |
|-----------------------|-------------|---------|-----|-------|-------|
| 近畿地区                  | 大阪北部        | 教員A・教員C | 教員A | 12    | 26    |
|                       |             |         | 教員C | 16    | 27    |
|                       |             |         | 教員D | 1     | 10    |
|                       |             |         | 教員E | 1     | 12    |
|                       | 大阪南部・奈良・和歌山 | 教員B・教員A | 教員B | 25    | 42    |
|                       |             |         | 教員A | 6     | 12    |
|                       |             |         | 教員C | 5     | 5     |
|                       | 京滋          | 教員D     | 教員D | 10    | 20    |
|                       |             |         | 教員E | 1     |       |
|                       | 兵庫          | 教員E・教員C | 教員E | 12    | 21    |
| 教員C                   |             |         | 3   | 3     |       |
| 近畿地区外<br>(ふるさと<br>実習) | 富山          |         | 教員A | 1     | 1     |
|                       | 三重          |         | 教員D | 2     | 2     |
|                       | 鳥取          |         | 教員E | 3     | 3     |
|                       | 島根          |         | 教員A | 1     | 1     |
|                       | 岡山          |         | 教員C | 3     | 3     |
|                       | 広島          |         | 教員E | 3     | 3     |
|                       | 香川          |         | 教員D | 2     | 2     |
|                       | 高知          |         | 教員D | 3     | 3     |

\* 平成31年度の実績等に基づき、担当者の延べ担当施設数を想定したものである。

## 科目名 病院実務実習

| 指導教員  | 年次・期間  | 単位 | 選必区分 |
|---|--------|----|------|
| 中村敏明、中村任、恩田光子、金美恵子、井上薫、岡田博、神林祐子、和田恭一、角山香織、加藤隆児、羽田理恵 | 5年次・通年 | 10 | 必修   |

### 授業の目的と概要

本科目は、6年制薬学教育にあたって義務付けられている病院における参加型実務教育科目であり、臨床に係る実践的能力を持つ薬剤師を養成することを目的とする。

### 一般目標 (GIO)

- ・患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。
- ・医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。
- ・処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。
- ・患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。
- ・医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。
- ・地域での保険・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。

### 授業の方法

病院での実習

### 成績評価

#### I. 概略評価

指導薬剤師と実習生が、定期的(2～4週間毎を目安)に、概略評価表を基に評価を行い、実習の振り返りを行うことで実習生がどの程度、何が成長したかを評価する。

#### II. 実務実習記録(日誌・レポート)による評価

実習生は、毎日の日誌に自分がその日学習した内容、体験した事例、修得した能力等を簡潔に記録して指導薬剤師、教員等の指導者に提示する。指導者は、その日誌の報告から実習生の実習の進捗状況を確認するとともに、実習についてフィードバックを行う。実習生は、指導者からのアドバイスを受けて薬剤師として求められる臨床能力の成長を確認する。

#### III. 可否に関わる成績の決定



## 科目名 病院実務実習

大学では、実務実習記録による評価 50%、学生との懇談内容 10%、指導薬剤師による評価 30%、学生のルーブリック 10%という割合で、総合評価を行う。

### 学位授与方針との関連

本科目は以下のディプロマポリシーと関連している。

- 薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度を有していること。
- チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度を有していること。
- 薬の専門家に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること。
- 地域において必要な情報を適切に発信し、人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有していること。
- 薬学・医療の進歩に対応するために自己研鑽し、次なる人材を育成する意欲と態度を有していること。

### 関連する科目

臨床系関連科目・内容：「臨床薬学概論」、「医薬品情報学」、「医薬品安全性学」、「個別化医療」、「コミュニティファーマシー」、「臨床導入学習 1」、「臨床導入学習 2」

### 教科書

『薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト』 日本病院薬剤師会近畿ブロック／日本薬剤師会大阪・近畿ブロック（編） じほう

### 授業計画

|  |
|--|
| 11 週に渡る病院での実習の中で、薬学教育モデル・コアカリキュラムの「F 薬学臨床」のうち以下の SBOs を学習する  |
| (1) 薬学臨床の基礎  |
| <b>【① 早期臨床体験】</b><br>・患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)<br>・地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)  |
| <b>【②臨床における心構え】</b> 〔A (1)、(2) 参照〕<br>・医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)<br>・患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)<br>・薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)<br>・職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)  |
| <b>【③臨床実習の基礎】</b><br>・病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。<br>・代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。<br>・入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)<br>・急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。<br>・周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。<br>・終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。<br>・外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。<br>・保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。 |
| (2) 処方せんに基づく調剤   |
| <b>【① 法令・規則等の理解と遵守】</b> 〔B (2)、(3) 参照〕<br>・調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)<br>・法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)  |

## 科目名 病院実務実習

|  |
|--|
| <p>【② 処方せんと疑義照会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）</li> <li>・注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）</li> <li>・処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）</li> <li>・薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。（知識・技能）</li> <li>・薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）</li> </ul>   |
| <p>【③処方せんに基づく医薬品の調製】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）</li> <li>・適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）</li> <li>・処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）</li> <li>・錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）</li> <li>・一回量 一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）</li> <li>・注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）</li> <li>・注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。</li> <li>・注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）</li> <li>・抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。（知識・技能）</li> <li>・特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）</li> <li>・調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）</li> </ul> |
| <p>【④患者・来局者応対、服薬指導、患者教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。（態度）</li> <li>・患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）</li> <li>・医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）</li> <li>・患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）</li> <li>・妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。（知識・態度）</li> <li>・お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）</li> <li>・収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）</li> </ul>  |
| <p>【⑤医薬品の供給と管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）</li> <li>・医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）</li> <li>・医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。</li> <li>・劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）</li> <li>・特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）</li> </ul>   |
| <p>【⑥安全管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）</li> <li>・調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。</li> <li>・施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）</li> <li>・施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）</li> <li>・施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）</li> <li>・臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）</li> <li>・院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）</li> </ul>  |
| <p>(3) 薬物療法の実践</p>   |

## 科目名 病院実務実習

|  |
|--|
| <p><b>【①患者情報の把握】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)</li> <li>・ 患者・来局者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬 等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)</li> <li>・ 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)</li> </ul>  |
| <p><b>【② 医薬品情報の収集と活用】〔E 3 (1) 参照〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)</li> <li>・ 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)</li> <li>・ 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)</li> <li>・ 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)</li> <li>・ 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)</li> </ul>   |
| <p><b>【③ 処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。</li> <li>・ 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。</li> <li>・ 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方を提案できる。(知識・態度)</li> <li>・ 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)</li> <li>・ 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)</li> <li>・ アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)</li> <li>・ 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。</li> <li>・ 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)</li> </ul>  |
| <p><b>【④ 処方設計と薬物療法の実践 (薬物療法における効果と副作用の評価)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・技能)</li> <li>・ 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定を提案できる。(知識・態度)</li> <li>・ 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)</li> <li>・ 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。</li> <li>・ 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。</li> <li>・ 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。</li> <li>・ 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)</li> <li>・ 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)</li> <li>・ 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、<span style="float: right;">形式等で適切に記録</span>する。(知識・技能)</li> <li>・ 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)</li> </ul> |

## 科目名 薬局実務実習

| 指導教員  | 年次・期間  | 単位 | 選必区分 |
|---|--------|----|------|
| 中村敏明、中村任、恩田光子、金美恵子、井上薫、岡田博、神林祐子、和田恭一、角山香織、加藤隆児、羽田理恵 | 5年次・通年 | 10 | 必修   |

### 授業の目的と概要

本科目は、6年制薬学教育にあたって義務付けられている薬局における参加型実務教育科目であり、臨床に係る実践的能力を持つ薬剤師を養成することを目的とする。

### 一般目標 (GIO)

- ・患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。
- ・医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。
- ・処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。
- ・患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。
- ・医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。
- ・地域での保険・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。

### 授業の方法

薬局での実習

### 成績評価

#### I. 概略評価

指導薬剤師と実習生が、定期的(2～4週間毎を目安)に、概略評価表を基に評価を行い、実習の振り返りを行うことで実習生がどの程度、何が成長したかを評価する。

#### II. 実務実習記録(日誌・レポート)による評価

実習生は、毎日の日誌に自分がその日学習した内容、体験した事例、修得した能力等を簡潔に記録して指導薬剤師、教員等の指導者に提示する。指導者は、その日誌の報告から実習生の実習の進捗状況を確認するとともに、実習についてフィードバックを行う。実習生は、指導者からのアドバイスを受けて薬剤師として求められる臨床能力の成長を確認する。

#### III. 可否に関わる成績の決定

## 科目名 薬局実務実習

大学では、実務実習記録による評価 50%、学生との懇談内容 10%、指導薬剤師による評価 30%、学生のルーブリック 10%という割合で、総合評価を行う。

### 学位授与方針との関連

本科目は以下のディプロマポリシーと関連している。

- 薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度を有していること。
- チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度を有していること。
- 薬の専門家に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること。
- 地域において必要な情報を適切に発信し、人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有していること。
- 薬学・医療の進歩に対応するために自己研鑽し、次なる人材を育成する意欲と態度を有していること。

### 関連する科目

臨床系関連科目・内容：「臨床薬学概論」、「医薬品情報学」、「医薬品安全性学」、「個別化医療」、「コミュニティファーマシー」、「臨床導入学習 1」、「臨床導入学習 2」

### 教科書

『薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト』 日本病院薬剤師会近畿ブロック／日本薬剤師会大阪・近畿ブロック（編） じほう

### 授業計画

|  |
|--|
| 11 週に渡る薬局での実習の中で、薬学教育モデル・コアカリキュラムの「F 薬学臨床」のうち以下の SBOs を学習する  |
| (1) 薬学臨床の基礎  |
| <b>【① 早期臨床体験】</b><br>・患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。（知識・態度）<br>・地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。（知識・態度）  |
| <b>【② 臨床における心構え】</b> 〔A（1）、（2）参照〕<br>・医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。（態度）<br>・患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。（態度）<br>・薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。（態度）<br>・職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。（態度）                         |
| <b>【③ 臨床実習の基礎】</b><br>・終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。<br>・外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。<br>・保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。<br>・薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。<br>・来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。（知識・態度） |
| (2) 処方せんに基づく調剤   |
| <b>【① 法令・規則等の理解と遵守】</b> 〔B（2）、（3）参照〕<br>・調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。（知識・技能）<br>・法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）<br>・保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。   |

## 科目名 薬局実務実習

|  |
|--|
| <p><b>【② 処方せんと疑義照会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）</li> <li>・注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）</li> <li>・処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）</li> <li>・薬歴、診療録、患者の状態から処方妥当であるか判断できる。（知識・技能）</li> <li>・薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）</li> </ul>   |
| <p><b>【③ 処方せんに基づく医薬品の調製】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）</li> <li>・適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）</li> <li>・処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）</li> <li>・錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）</li> <li>・一回量 一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）</li> <li>・注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）</li> <li>・注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。</li> <li>・注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）</li> <li>・特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）</li> <li>・調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）</li> </ul> |
| <p><b>【④ 患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。（態度）</li> <li>・患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）</li> <li>・医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）</li> <li>・患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）</li> <li>・妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。（知識・態度）</li> <li>・お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）</li> <li>・収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）</li> </ul>  |
| <p><b>【⑤ 医薬品の供給と管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）</li> <li>・医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）</li> <li>・医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。</li> <li>・劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）</li> </ul>  |
| <p><b>【⑥ 安全管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）</li> <li>・調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。</li> <li>・施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）</li> <li>・施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）</li> <li>・施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）</li> </ul>  |
| <p><b>（3）薬物療法の実践</b></p> <p><b>【① 患者情報の把握】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）</li> <li>・患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）</li> <li>・患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）</li> </ul>  |

## 科目名 薬局実務実習

### 【② 医薬品情報の収集と活用】〔E 3（1）参照〕

- ・施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)
- ・薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)
- ・医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)
- ・安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)
- ・緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)

### 【③ 処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】

- ・代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。
- ・治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。
- ・患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。(知識・態度)
- ・処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)
- ・アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)
- ・処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。
- ・処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)

### 【④ 処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】

- ・医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・技能)
- ・臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。
- ・薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。
- ・副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。
- ・報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)
- ・患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)

1年次から4年次までの学習を通して、今の自分ほどの程度の段階ですか？該当する欄に○をつけてください。

「第1段階」に満たない場合は「0」の欄にチェックしてください。

大阪薬科大学 学籍番号： \_\_\_\_\_ 学生氏名： \_\_\_\_\_ 評価記入日： 西暦 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

(1) 薬学臨床の基礎

| 観点                                | アウトカム   | 第4段階   | 第3段階   | 第2段階   | 第1段階   | 0 |
|-----------------------------------|---|--|--|--|--|---|
| ①薬剤師の重要性と地域保健医療を学ぶ shows how      | 病院、福祉施設などでの体験、一次救命の体験を通して、医療現場や地域における医療従事者の存在意義や責任、多職種との存在の重要性を自覚する | 薬剤師および多職種の果たすべき役割と医療の課題に関して、患者・生活者の視点に基づいて討議する。これまでの体験を、早期臨床体験および社会貢献活動等のファシリテーションに活かす。        | 薬剤師および多職種の活動を見聞した内容に関して、患者・生活者の視点にたって討議する。討議結果と早期臨床体験および社会貢献活動等の内容を他者に伝える。 | 薬剤師および多職種の活動を見聞した内容に関して、患者・生活者の背景を踏まえて討議する。更に自身にできる社会貢献活動等に参加する。 | 薬剤師及び多職種の役割に関して、患者・生活者への関心に基づいて討議する。更に自身にできる社会貢献活動等を自ら調査し、その調査結果を紹介する。   |   |
|                                   |   | 一次救命処置(一般市民用、医療者従事者用)を他者に指導する。   | バイタルサイン(脈など)の測定をし、一次救命処置(医療者従事者用)の必要性を判断し、シミュレートする。                        | 模擬症例に基づいて一次救命処置(一般市民用)の必要性を適切に判断し、シミュレートする。                      | 一次救命処置をシミュレーターを用いて実施する。  |   |
| ②生命の尊厳と薬剤師の社会的使命及び社会的責任 shows how | 生命の尊厳と薬剤師の社会的使命を自覚し、倫理的行動をする。医療関係法規を遵守して、薬剤師としての責任を自覚する。            | 患者・生活者に寄り添い、患者・生活者の利益と安全を最優先して、患者・生活者の自己決定をサポートする姿勢を模擬的な環境で示す。医療の中で薬剤師に求められる責任を自覚し、自らを律して行動する。 | 患者・生活者に寄り添い、患者・生活者の利益と安全を配慮する姿勢を模擬的な環境で示す。日常の学びを振り返り記録し、省察する。              | 薬剤師としての義務及び法令の遵守を踏まえて、生命の尊厳、他者の人権、プライバシーについて、真摯に討議する。            | 薬剤師としての責任、守るべき倫理規範や法令を意識して生命の尊厳について討議する。共同体メンバーの個人情報や権利に配慮する。医療に従事する者として、自らの食生活や生活のリズムに気を配り、体調を良好な状態に維持するように努める。 |   |
| ③薬剤師の位置づけと社会保障制度 shows how        | 社会保障制度における薬剤師の役割および他職種との関係を理解する。                                    | 薬剤師の役割と他職種の役割および社会保障制度を相互に関連させ、より進んだ薬剤師業務や他職種との連携を提案する。  | 薬剤師の役割と他職種の役割を理解し、多職種のなかでの薬剤師の貢献について討議する。                                  | 薬剤師と他職種の業務や役割を理解し、医療における薬剤師の位置づけ、薬剤師の役割と他職種との役割の関連を説明する。         | 薬剤師や他職種の業務、役割および関連する社会保障制度を列挙し、それぞれの概要を説明する。   |   |

(2) 処方せんに基づく調剤

| 観点                          | アウトカム  | 第4段階   | 第3段階  | 第2段階   | 第1段階   | 0 |
|-----------------------------|--|--|---|--|--|---|
| ①法令・規則等の理解                  | 法令に基づいた調剤・医薬品の調製を模擬的に実施する。   | (2) - ②、③の実践を理解に基づいて行うことで評価を行う。  |   |  |  |   |
| ②処方監査と疑義照会 shows how        | 処方監査と疑義照会を模擬的な環境で実施する。<br>処方監査：患者情報と医薬品情報に基づき、処方の妥当性、適切性を判断する。疑義照会：必要に応じて、疑義照会の必要性を判断し、適切なコミュニケーションのもと実施し記録する。 | 模擬の患者情報と薬学的知見を統合し、患者の薬物療法のアウトカムに照らし、処方の妥当性、適切性を判断する。必要に応じて、関連する法令・規則の理解に基づき、疑義照会を適切に行うと共に、チーム内で情報の共有を模擬的に行う。         | 模擬の患者情報と処方されている医薬品の基本的な医薬品情報に基づき、処方の妥当性を判断する関連する法令・規則の理解に基づき、疑義照会の必要性に自ら気づき、模擬的な環境で自発的に実施する。              | 模擬の患者情報に基づく処方箋の不備・不適切な点を指摘する。指摘した内容について関連する法令・規則の定めに基づき疑義照会を模擬的な環境で実施し、その内容を適切に記録する。 | 模擬の患者情報と処方箋を照らし合わせて適切性を確認し、関連する法令・規則等の定めに基づき処方箋の不備に関する形式的疑義照会を模擬的な環境で実施する。   |   |
| ③処方せんに基づく医薬品の調製 shows how   | 監査結果に基づき適正な医薬品調製を模擬的な環境で実施する。  | 模擬的な環境で、患者ニーズやアドヒアランスの向上に配慮して適切な医薬品の調製や監査を行い、その内容について最適な服用方法を提案する。抗がん剤など特別な注意を要する製剤の調製では、ケミカルハザードの回避操作を適切に実施する。      | 模擬的な環境において、監査・調剤で用法に特別な注意を要する医薬品(休薬期間や漸減のある薬等)を確認し、その適切な取り扱いを行う。調製された医薬品にある誤りを指摘する。                       | 一包化、錠剤等の粉碎、適切な賦形等、工夫を必要とする調剤について、模擬的な環境において適切に実施すると共に、その理由を他者に説明する。                  | 患者情報に基づき後発品の選択を行い、医薬品の規制区分(毒・劇・向精神薬等を含む)に配慮して、計数・計量調剤を正確に行う。模擬注射処方箋に従って、無菌的混合操作を実施する。  |   |
| ④患者・来局者対応、情報提供・教育 shows how | 患者役から情報を収集し、患者教育に繋がる情報提供および服薬指導を実施する。  | 患者役の薬物療法のアウトカムを達成するために必要な情報を的確に判断し、患者役から情報収集する。患者役のニーズを的確に判断し、それを盛り込んだ情報提供及び教育を行う。患者役のニーズを判断して、それに対応した患者教育をする。       | 患者役の病態や状況、高齢者、妊婦・授乳婦、小児、障害を持った方などに自然に配慮し、情報を収集する。患者役の理解度を確認しながら、情報の提供と必要に応じて患者教育を行う。                      | 医薬品を安全かつ有効に使用するための情報を種々のツールを用いて患者役に提供する。患者役への指導、教育内容を主体的に適切に記録する。                    | 患者役から薬物治療に係る基本的な情報(症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴、生活状況等)を収集する。医薬品を安全かつ有効に使用するための情報を指示に従い、種々のツールを用いて患者役に提供する。患者役への指導、教育内容を指示に従って適切に記録する。 |   |
| ⑤医薬品の供給と管理 knows how        | 適切な医薬品の供給と管理の意義と必要性を理解する。(知識として評価するが、調剤や災害時医療領域で活用することが望ましい。)  | 法的に取扱い上の規制を受けている医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料、特定生物由来製品、放射性医薬品、院内製剤、薬局製剤、漢方製剤など)の適切な管理(発注、供給、補充、保管など)に関する理解に基づいて解決案を提示する。 | 法的に取扱い上の規制を受けている医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料、特定生物由来製品、放射性医薬品、院内製剤、薬局製剤、漢方製剤など)の適切な管理(発注、供給、補充、保管など)に関して説明する。 | 一般的な医薬品の種類と取扱い上の注意点の理解と、発注や補充の仕組み、棚卸等の業務の中で適切な在庫管理の基本を説明する。                          | 適切な医薬品の供給と管理の意義と必要性を説明する。  |   |
| ⑥安全管理 shows how             | 医療機関における安全管理をシミュレートする。   | 模擬的に医薬品及び医薬品以外に関連した安全管理体制の不備を指摘し、改善案を提案する。模擬的な場で、臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱う。  | 模擬処方箋で実施した調剤実習において、経験した調剤ミスあるいは過去にあった調剤ミスに対する安全対策案を立案する。  | 模擬処方箋で実施した調剤実習において、経験した調剤ミスあるいは過去にあった調剤ミスに基づいて医療安全に関する報告書を模擬的に作成する。                  | 代表的な医療事故事例を知り、患者へ与える影響を討議する。医療現場における感染対策の重要性に留意し、スタンダードプリコーションを模擬的に実施する。   |   |



(3) 薬物療法の実践

| 観点                                   | アウトカム  | 第4段階  | 第3段階   | 第2段階   | 第1段階   | 0 |
|--------------------------------------|--|---|--|--|--|---|
| ①患者情報の把握<br>shows how                | 薬物療法に活かすために患者情報を適切に収集・評価・共有し、患者状態を正確に把握する。                                 | 模擬カンファレンスにおいて、積極的に参加し、情報の発信と共有により、患者情報の精度を高め、より多面的かつ正確に患者状態を把握する。   | 模擬患者情報から、必要性を的確に判断して、自ら模擬患者との医療面談や身体所見を得るための観察・測定等を実施し、判断に必要な患者情報を収集・評価し、患者の状態を推測する。       | 模擬患者の情報の各種媒体（診療録、薬歴、指導記録、看護記録、検査記録、お薬手帳など）から薬物治療に必要な情報を収集し、評価する。               | 模擬の患者情報源から薬物療法の評価に必要な情報を試行錯誤しながら収集する。                    |   |
| ②医薬品情報の収集と評価・活用<br>shows how         | 薬物療法の評価等に必要な情報について、最も適切な情報源を効果的に利用し、情報を収集すると共に、得た情報及び情報源を批判的に評価し、効果的に活用する。 | 模擬的な症例に関する調査の目的に合わせて、一次資料(原著論文)も含めた適切な情報源を利用し、調査を実践する。得た情報を量的、質的に評価し、提供する。患者啓発や医療の質向上に寄与する情報を主体的に作成・提案する。 | 模擬的な症例に関する調査の目的を明確にし、基本的な情報源に加え、複数の情報源を利用して調査を実践する。得た情報の評価を常に行い、患者や医療スタッフのニーズを踏まえた資料を作成する。 | 模擬的な症例に関して薬物療法の評価等に必要な基本的な情報源である医薬品添付文書、インタビューフォーム、診療ガイドラインなどを確認し、情報の収集・評価を行う。 | 薬物療法に関連する医薬品情報を試行錯誤しながら、収集・整理できる。                        |   |
| ③薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決<br>shows how | 薬物療法の問題点の評価に基づき、問題解決策を提案し、薬物療法の個別最適化をシミュレートする。                             | 模擬的な症例に対して、薬物療法の問題点を主体的に識別する。問題点の現状評価を明確に行い、処方設計や他の解決策について検討し、論理的で実行可能な解決策を明示し、薬物療法の個別最適化を実施する。           | 模擬的な症例に対して、有効性、安全性、経済性の観点から問題点の識別を行う努力をする。処方設計を含めた解決策について、主体的に検討し、当該ケースの薬物療法の個別最適化に努める。    | 模擬的な症例に対して、薬物療法の有効性、アドヒアランス不良や腎機能低下時の投与量などの基本的な安全性の問題点を識別し、現状評価を行い、必要な処方設計を行う。 | 模擬的な症例に対して、薬物療法の有効性、基本的な安全性を考慮し、必要な処方設計を行う。              |   |
| ④薬物療法の効果と副作用モニタリング                   | 代表的な疾患を題材として、薬物療法の効果と副作用をモニタリングし、患者状態を適切に評価し、適切な薬物療法を立案する。                 | 代表的な疾患の薬物療法の有効性・安全性を確認するために必要な臨床検査項目や症候を、模擬的な環境で適切に収集・評価し、予後の予測に基づいた継続的な観察計画を立て、必要に応じてよりよい薬物療法を立案する。      | 代表的な疾患の薬物療法の有効性・安全性を確認するために必要な臨床検査項目や症候を、模擬的な環境で適切に収集・評価し、それらを SOAP 形式等で記録する。              | 代表的な疾患の薬物療法の有効性・安全性を確認するために必要な臨床検査項目や症候を、模擬的な環境で適切に収集し、問題点を指摘する。               | 代表的な疾患の薬物療法の有効性・安全性を確認するために必要な臨床検査項目や症候を、模擬的な環境で適切に収集する。 |   |

(4) チーム医療への参画

| 観点  | アウトカム  | 第4段階   | 第3段階   | 第2段階  | 第1段階   | 0 |
|---|--|--|--|---|--|---|
| ①医療におけるチーム医療<br>②地域におけるチーム医療<br>shows how | 患者・生活者中心の保健医療福祉において、チームの構成員の役割を把握し、多職種協働でのマネジメントを修得する。 | 薬剤師が主導的に薬物治療・健康維持増進上の問題点を解決するために、患者・生活者のニーズや地域の医療資源を把握した上で多様なチームメンバーと協働し、患者・生活者に応じた具体的なケア計画を提案し、必要に応じて改善をする。 | 薬物治療・健康維持増進上の問題点を把握し、多様なチームメンバーと協働し、患者・生活者に応じた具体的なケア計画を提案する。 | 薬物治療・健康維持増進上の問題点を理解し、多様なチームの構成員と連携し、患者・生活者の保健医療福祉に関するケア計画を説明する。 | 地域の保健医療福祉にかかわる職種とその連携体制（地域包括ケア）及びその意義について説明する。 |   |

\* ①と②は同一の基準で合わせて評価する。臨床準備教育では場を分けるのではなく、shows how レベルの振る舞いを評価する。

(5) 地域の保健・医療・福祉への参画

| 観点  | アウトカム   | 第4段階   | 第3段階  | 第2段階  | 第1段階   | 0 |
|---|---|--|---|---|--|---|
| ①在宅（訪問）医療・介護への参画<br>knows how             | 患者および介護者の支援に関与するために、在宅医療にかかわる地域の仕組みと他職種連携を理解し、問題点を把握する。 | 患者の問題点への気づきや、他職種との情報の共有による解決案の提案方法について論じる。   | 患者の病態・状態に基づく必要情報を整理・選択した記録内容を把握し、その内容に基づいた他職種との情報共有について論じる。                       | 地域包括ケアのしくみの理解に基づいた、在宅医療・介護の現状を論じ、基本的な記録を模倣する。   | 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容や、それを受ける患者の特色と背景の理解に基づいて、薬剤師の役割と記録による情報伝達の重要性を論じる。 |   |
| ②薬物乱用防止・自殺防止・感染予防・アンチドーピング活動<br>shows how | 地域の保健・衛生について関わりをもつために、地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）について把握する。    | 地域の保健・衛生に関して薬剤師に求められるニーズを調査、評価し、実現可能な対策について討議する。   | 学校や地域、地域住民からの相談事例を基に、地域の保健・衛生の向上について討議する。   | 地域の啓発活動などの実施例を把握し、薬剤師の役割の重要性について討議する。   | 薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等について理解し、地域の啓発活動などとの関連性を調べ、その結果について説明する。    |   |
| ③プライマリケア、セルフメディケーションの実践<br>shows how      | プライマリケアとセルフメディケーションをシミュレートできる。                          | 代表的な症候を示す模擬来局者に対し、情報収集・分析を行うだけでなく、模擬来局者の生活環境や個人的心情を反映したアドバイス（受診勧奨、一般用医薬品の選定、生活習慣に関する指導等）を行う。 | 薬剤師によるプライマリケア、セルフメディケーションの重要性の認識に基づいて、代表的な症候を示す模擬来局者に対し適切な情報収集を行い、その分析を活かした対応をする。 | 薬剤師によるプライマリケア、セルフメディケーションの重要性の認識に基づいて、代表的な症候を示す模擬来局者に対し、一般的なアドバイス（受診勧奨、一般用医薬品の選定、生活習慣に関する指導等）を行う。 | 薬剤師によるプライマリケアとセルフメディケーション、およびそれらの重要性に関して討議する。                          |   |
| ④災害時における薬剤師の役割<br>shows how               | 災害時における薬剤師の役割を理解する。                                     | 災害時に必要な物品、備蓄や供給体制等について、倫理的側面（適応外使用、処方権、トリアージなど）も含めて薬剤師の役割をシミュレートする。                          | 災害時における薬剤師の役割について、倫理的側面（適応外使用、処方権、トリアージなど）も含めて討議する。                               | 災害時における薬剤師の役割を列挙し、要点を説明する。  | 災害時における薬剤師の活動事例を収集する。  |   |

# 大阪医科薬科大学薬学部／大学院薬学研究科 自己点検・評価委員会規程（案）

（令和3年4月1日施行）

（目 的）

**第1条** 大阪医科薬科大学（以下、「本学」という。）の薬学部及び薬学研究科（以下、「薬学部等」という。）に、自己点検・評価委員会（以下、「委員会」という。）を置く。

（任 務）

**第2条** 委員会は、薬学部等の教育研究水準の向上を図り、薬学部等の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等に関する以下の事項について自己点検・評価を実施し、薬学部等の内部質保証を推進するとともに、もって本学における内部質保証の推進に寄与するものとする。

- (1) 全学内部質保証推進組織からの要請等に関すること
  - (2) 薬学部等の理念・目的の策定及び検証に関すること
  - (3) 薬学部等のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及びアドミッションポリシー（以下、「3ポリシー」という。）の策定及び検証に関すること
  - (4) 3ポリシーに基づく薬学部等の学習成果、教育課程及び入学者選抜の成果の検証に関すること
  - (5) 薬学部等の教育研究組織、教員組織、学生支援、教育研究環境、社会連携・社会貢献の方針の策定及び検証に関すること
  - (6) 薬学教育第三者評価（分野別評価）の受審に関すること
  - (7) 機関別認証評価及びその他内部質保証に関すること
- 2 委員会は、前項各号に定める方針の策定及び検証等の実施にあたり、薬学部等におけるその他関連委員会等に対して事前検証等を行わせることができる。
- 3 委員会で実施した自己点検・評価結果、この結果に基づき策定する改善計画等については、全学的内部質保証推進組織に報告する。

（組 織）

**第3条** 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 薬学部長
- (2) 教務部長、学生部長及びキャリアサポート部長
- (3) カリキュラム委員長
- (4) 入試委員長及びアドミッション・オフィス長
- (5) 研究委員長及び図書館長
- (6) IR室長
- (7) 事務局長
- (8) 総務課長及び教務課長
- (9) 学長が指名する教員 若干名
- (10) 事務局長が指名する事務職員 若干名

- 2 前項各号に定める委員のほか、薬学部等における内部質保証の取組みについて、客観的視点を取り入れるため、薬学部長が必要と認めた場合は、学外からの有識者等を委員として委嘱することができる。
- 3 委員は、薬学部長が委嘱する。
- 4 第1項第9号及び第10号並びに第2項の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、任期の途中で委員が交替した場合、後任の委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 5 委員会に委員長を置き、薬学部長をもって充てる。
- 6 委員会に副委員長を置くことができ、委員の中から薬学部長が指名するものとする。副委員長は、薬学部長に事故等ある場合、委員長の職務を代行する。

(運 営)

**第4条** 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、過半数の委員の出席をもって成立する。
- 3 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数の場合は、委員長の決するところによる。
- 4 委員会は、原則として毎月開催する。

(委員以外の者の出席)

**第5条** 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席を求め、意見を聴くことができる。

- 2 前項にかかわらず、学長はオブザーバーとして委員会に出席することができる。

(専門部会)

**第6条** 委員会に薬学部等の専門的な事項を調査検討するため、必要に応じて専門部会（以下、「部会」という。）を置くことができる。

- 2 部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(事 務)

**第7条** 委員会に関する事務は、総務課及び教務課で行う。

(規程の改廃)

**第8条** この規程の改廃は、薬学部教授会の議を経て、学長が決定する。

**附 則**

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

## 大阪医科薬科大学薬学部／大学院薬学研究科 F D委員会規程（案）

（令和3年4月1日施行）

（設置及び目的）

**第1条** 大阪医科薬科大学薬学部及び大学院薬学研究科における教員の教育活動の向上・能力開発に関して検討を行い、その質的充実に資することを目的とし、教育方法の研究・工夫を積極的に推進するため、F D委員会（以下、「委員会」という。）を置く。

（任 務）

**第2条** 委員会は前条の目的を達成するため、次に掲げる事項の推進を図ることを任務とする。

- （1）学部・大学院教育の活動改善の方策に関する事項
- （2）F Dフォーラム、研修会等の開催・参加に関する事項
- （3）ピア・レビューを含む教員の教授活動相互研鑽に関する事項
- （4）学生による授業評価の実施に関する事項
- （5）その他F Dの推進に関すること

（構 成）

**第3条** 委員会は委員長並びに委員及び事務職員から構成される。

- 2 前項の委員長及び委員等は、薬学部長がこれを委嘱する。
- 3 副委員長は、委員のうちから、委員会の同意を得て、委員長が指名する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

（任 期）

**第4条** 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。また、委員に欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（会 議）

**第5条** 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会の開催は委員の3分の2以上の出席を必要とする。
- 3 委員会が必要と認めるときは、委員以外の教職員の出席を求め、その意見を聴くことができる。
- 4 委員会の決定事項について、薬学部長の承認をもって実行するものとする。ただし、その内容によっては、薬学部長の判断により必要に応じて薬学部教授会の議を経て、学長の承認を受けるものとする。

（事 務）

**第6条** 委員会の事務は、教務課が行い、必要に応じて関係部署がこれに協力するものとする。

(雑 則)

**第7条** この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、別に定める。

(規程の改廃)

**第8条** この規程の改廃は、薬学部教授会の議を経て、学長が決定する。

**附 則**

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

## FD実施状況一覧(2018・2019年度分)

|                | 2018年度  | 2019年度   |
|----------------|---|--|
| 公開授業           | 4～7月 「アカデミックスキル」<br>12月 「医療と法」  | 11月 「分析化学1」<br>11月 「数学2」   |
| 公開授業研究会        | 実施見送り   | 3月実施（新型コロナウイルスの影響で実施見送り）   |
| 研修会            | 8月 教育業務研修会<br>「IPEからIPWへの展開—千葉大学亥鼻IPEを例として—」<br>(千葉大学 石井伊都子氏) 他<br>9月 研究業務研修会<br>「大葉がんプロ教育講演会」<br>(奈良先端科学技術大学院大学 石田 靖雅氏)<br>10月 無線LANを利用したアクティブラーニングの説明会<br>(佐藤委員)<br>11月 シラバス作成に関する説明会（教務部主催）<br>12月 研究業務研修会<br>「薬学トップランナー研究講演会」<br>(東京医科歯科大学 武部貴則氏) | 8月 FD&SD研修 教育業務研修会<br>「九州大学時代や国際医療福祉大学でのIPEの具体例」<br>(国際医療福祉大学 吉田素文氏)<br>9月 大葉がんプロ教育講演会2019（FD研究業務研修会）<br>「CAR-T細胞療法の最前線～基礎研究から臨床応用へ～」<br>(大阪大学大学院医学系研究科 保山直毅氏)<br>11月 ICTを活用した教育に関する説明会<br>*教務部委員会・FD委員会共催<br>11月 シラバス作成に関する説明会<br>*教務部委員会・FD委員会共催<br>12月 第3回 薬学トップランナー研究講演会<br>「ファースト・イン・クラスのMEK 阻害剤トラメチニブの発見」<br>(京都府立医科大学名誉教授 創薬センターセンター長<br>大学院医学研究科創薬医学 特任教授 酒井敏行 先生) |
| 授業アンケート        | 学内専用ホームページへアンケート結果公開  | 学内専用ホームページへアンケート結果公開<br>「レスポンスによる授業手法改善のためのアンケート」のトライアル実施<br>・分析化学2<br>・応用分析学<br>・生物学<br>・生物無機化学   |
| 学生FD委員会        | 3月 第1回教員学生合同FD委員会   | 3月 第1回教員学生合同FD委員会（新型コロナウイルスの影響で実施見送り）  |
| ティーチング・ポートフォリオ | —   | 導入初年度  |

## 学校法人大阪医科薬科大学職員研修に関する基本方針

(平成28年8月9日施行)

この基本方針は、学校法人大阪医科薬科大学が設置する大学、学校及び病院等（以下、「大学等」という。）に所属する職員を対象にスタッフ・ディベロップメント（SD）を実施するための基本的事項を定めるものである。

1. SDとは、教育研究、診療活動（以下、「教育活動等」という。）の適切かつ効果的な運営を図るため、職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修（別に実施するファカルティ・ディベロップメント（FD）に関するものを除く。）を言い、その対象は、事務職員のほか教授等の教員や学長等の大学等執行部、技術職員等とする。
2. SDは、以下の内容について実施するものとする。
  - (1) 学校法人の組織のあり方に関すること。
  - (2) 各大学が定めるアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの3つのポリシーに基づく各種取組に係る自己点検・評価と内部質保証に関すること。
  - (3) 教育活動等におけるマネジメントに関わる専門的職員の育成に関すること。
  - (4) 大学改革、医療制度改革に関すること。
  - (5) 学生の厚生補導に関すること。
  - (6) 業務領域の知見の獲得を目的とすること（総務、財務、人事、企画、教務、研究、医事等）。
  - (7) その他、法人及び大学等の運営に関すること。
3. SDは、大学等の組織ごとに計画的に実施するほか、組織連携での実施や各組織内の部署単位での実施を可能とする。また、関連団体等が実施するセミナー等を活用することができるものとする。
4. 大学等の長は、SD活動の推進に積極的に取組むとともに、毎年1月末日までに次年度に行うSDの実実施計画を立てて理事長に報告し、了承を得なければならない。ただし、関連団体等が実施するセミナー等に係るものについては、その都度、理事長に了承を求めることができるものとする。
5. 理事長は、各組織のSD実施計画のうち、共同実施が好ましいものについて調整する

ほか、法人全体として実施する必要があるものについて企画、実施することができるものとする。

#### 附 則

この基本方針は、平成28年8月9日から施行する。



大阪薬科大学SD基本計画  
(平成31年度計画)

学校法人大阪医科薬科大学

## 1) 「職員研修に関する基本方針」について

学校法人大阪医科薬科大学では、「大学設置基準等の一部を改正する省令(平成29年4月1日施行)」を踏まえた「学校法人大阪医科薬科大学職員研修に関する基本方針」を策定している。本学においても職員の能力向上を目指し、本学の基本計画に基づくSDを平成28年度より実施している。

### 【平成31年度 大阪薬科大学SD基本計画の方針と基本的事項】

#### <方針>

今後、さらに法人、本学において、多様な雇用形態による職員の増大が予想され、リカレント教育の場として社会から大学への期待も大きくなる中で、ますます個々の人的資本の蓄積が重要になると予想される。職員の職能の多様化と高度化は、法人の発展だけではなく、ステークホルダーとの良好かつ円滑な関係を築く上でも必須で、そのための人材育成は欠くことができない。限られた人的資源管理を適切に行うためにも、前年度の検討事項を踏まえ、引き続き下記について注力していく。

- 1) 学外研修の積極的な参画
- 2) e-ラーニングの推進
- 3) 法人内及び他大学との共同開催研修の充実
- 4) 執行部層など、階層上位の者への研修の実施
- 5) 研修実施による効果測定方法の検討

#### <基本的事項>

1. SDとは、教育研究、診療活動(以下、「教育活動等」という。)の適切かつ効果的な運営を図るため、職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修(別に実施するファカルティ・ディベロップメント(FD)に関するものを除く。)を言い、その対象は、事務職員のほか教授等の教員や学長等の大学執行部、医療技術職員等とする。
2. SDは、以下の内容について実施するものとする。
  - (1) 学校法人の組織のあり方に関すること
  - (2) 各大学が定めるアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの3つのポリシーに基づく各種取組に係る自己点検・評価と内部質保証に関すること
  - (3) 教育研究診療におけるマネジメントに関わる専門的職員の育成に関すること
  - (4) 大学改革、医療制度改革に関すること
  - (5) 学生の厚生補導に関すること
  - (6) 業務領域の知見の獲得を目的とすること(総務、財務、人事、企画、教務、研究、医事等)
  - (7) その他、法人及び大学の運営に関すること
3. SDは、大学、学校及び病院等の組織ごとに計画的に実施するほか、組織連携での実施や各組織内の部署単位での実施を可能とする。また、関連団体等が実施するセミナー等を活用することができるものとする。
4. 大学、学校及び病院等の長は、SD活動の推進に積極的に取り組むとともに、毎年1月末日までに次年度に行うSDの実施計画を立てて理事長に報告し、了承を得なければならない。ただし、関連団体等が実施するセミナー等に係るものについては、その都度、理事長に了承を求めることができるものとする。
5. 理事長は、各組織のSD実施計画のうち、共同実施が好ましいものについて調整するほか、法人全体として実施する必要があるものについて企画、実施することができるものとする。

## 2) 大阪薬科大学の実施計画

### ① 各階層の研修対象者

|   |                               |
|---|-------------------------------|
| A | 執行部層（学長、教務部長、学生部長、キャリアサポート部長） |
| B | 教員（教授）                        |
| C | 教員（教授以外）                      |
| D | 事務職員 管理職（事務局長、事務局次長、課長）       |
| E | 事務職員、医療職員、技術職員、技能職員（上記以外）     |

### ② 年間計画

| No |                  | 研修名等   | 対象者       | 担当               | 実施計画スケジュール（月） |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
|----|------------------|--|-----------|------------------|---------------|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|--|---|---|--|--|
|    |                  |  |           |                  | 4             | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |  |   |   |  |  |
| 1  | 階層別研修            | 新入職員研修（フォロー研修）   | 新入職員      | 総務課              | →             |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
| 2  |                  | 事務局管理職 SD 会議   | D         | 医・企画課            |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  | → |   |  |  |
| 3  | テーマ別研修           | コンプライアンス研修   | A、B、C、D、E | 総務課              |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
| 4  |                  | メンタルヘルスケア研修  |           | 医・人事企画研修課        |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   | → |  |  |
| 5  |                  | 人権研修   |           | 学生課              |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
| 6  |                  | 学校法人大阪医科薬科大学職員研修に関する基本方針に係る研修<br>① 組織のあり方<br>② 各大学が定めるアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの3つのポリシーに基づく各種取組に係る自己点検・評価と内部質保証<br>③ 教育活動等におけるマネジメントに関わる専門的職員の育成<br>④ 大学改革、医療制度改革<br>⑤ 学生の厚生補導<br>⑥ 業務領域の知見の獲得<br>⑦ 専門的職員の育成 SD<br>⑧ その他、法人及び大学等の運営 |           | A、B、C、D、E        | ①③⑥⑦ 総務課      |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
|    |                  |  |           |                  | 医・人事企画研修課、企画課 |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
|    | ②総務課 医・学務部       |  |           |                  |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
|    | ④総務課 医・学務部、病院事務部 |  |           |                  |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
|    | ⑤総務課 学生課         |  |           |                  |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
|    | ⑥総務課 学生課         |  |           |                  |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
|    | ⑦総務課 学生課         |  |           |                  |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
|    | ⑧総務課 医・総務部       |  |           |                  |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
| 7  | 全学的研修            | F&SD「教育研究集会」等  | A、B、C、D、E | 医・学務部 臨床教育・研究支援課 |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
| 8  |                  | 他  | A、B、C、D、E |                  |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
| 9  | 所属別研修            | 学部の SD 活動  | B、C       | 総務課 臨床教育・研究支援課   |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
| 10 | 学外研修             | 日本私立大学連盟会議   | A         | 医・総務課            |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
| 11 |                  | 日本私立大学連盟研修会  | A、B、C、D、E | 総務課              |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
| 12 |                  | 大学コンソーシアムでのSD研修会（大阪、京都）  | A、B、C、D、E | 医・人事企画研修課        |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
| 13 |                  | 他大学のSD公開講座への参加   | A、B、C、D、E | 医・人事企画研修課        |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
| 14 |                  | SMBC ビジネスセミナー  | A、B、C、D、E | 医・人事企画研修課        |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |
| 15 |                  | 自己啓発（e-ラーニング）  | A、B、C、D、E | 医・人事企画研修課        |               |   |   |   |   |   |    |    |    |   |   |   |  |   |   |  |  |

※上表のほか、大阪医科大学 SD 基本計画に基づき実施される研修のうち、共同実施できる研修に参加する。

# 大阪医科大学、大阪薬科大学

## 平成31（令和元）年度 SD 実施状況一覧

| 区分     | 企画部署               | 実施日               | 内容（研修名・実施テーマ等）                    | 主な対象者               | 参加者数 |
|--------|--------------------|-------------------|-----------------------------------|---------------------|------|
| 階層別研修  | 大阪医科大学<br>人事企画研修課  | 4月2日              | 新入職員基本研修                          | 4月入職新卒者             | 171名 |
|        |                    | 5月15日             | 若手職員フォロー研修                        | 新卒入職後5年目の事務職員等      | 14名  |
|        |                    | 7月22日、<br>7月24日   | 管理職対象研修                           | 課長代理級・看護師長・看護主任以上の者 | 80名  |
|        |                    | 10月16日            | 新入事務職員フォロー研修                      | 4月入職新卒者             | 6名   |
|        |                    | 1月21日             | 昇格者・新任評価者研修                       | 2019年度管理職・監督職昇格者    | 32名  |
|        |                    | 11月23日～<br>11月24日 | 日本私立大学連盟「ヒューマン・リソース・マネジメント研修」(学外) | 課長・課長代理級            | 1名   |
| テーマ別研修 | 大阪薬科大学<br>人権委員会    | 8月28日             | 大学に求められる性的指向と性自認の多様性への配慮          | 全教職員                | 69名  |
|        | 大阪医科大学<br>人事企画研修課  | 6月12日             | ロジカルシンキング研修                       | 入職2～4年目事務職員         | 40名  |
|        |                    | 9月18日             | 問題解決研修                            | 入職2～4年目事務職員         | 43名  |
|        |                    | 9月30日             | 障がい者雇用研修                          | 全教職員                | 42名  |
| 全学的研修  | 大阪医科大学<br>人事企画研修課  | 5月1日～<br>3月31日    | 日本私立大学連盟「オンデマンド研修」(WEB受講)         | 全教職員                | 20名  |
|        | 大阪医科大学<br>研究支援センター | 11月20日            | 研究活動に対する本学の取組姿勢                   | 全教職員                | 212名 |
| 所属別研修  | 大阪薬科大学<br>総務課      | 7月24日             | 薬学教育に活かすためのアンガーマネジメント             | 大阪薬大の教職員            | 56名  |
|        | 大阪薬科大学<br>FD委員会    | 8月29日             | 九州大学および国際医療福祉大学におけるIPE            | 大阪薬大の教職員            | 59名  |
|        | 大阪薬科大学<br>総務課      | 9月10日             | 関西三薬科大学合同SD(大学が直面している問題について考える)   | 大阪薬大の事務職員           | 30名  |
|        | 大阪薬科大学<br>総務課      | 9月24日～<br>9月27日   | DVD「みんなで考えるLGBTs」上映会              | 大阪薬大の教職員            | 39名  |

| 区分        | 企画部署                             | 実施日            | 内容（研修名・実施テーマ等）               | 主な対象者               | 参加者数 |
|-----------|----------------------------------|----------------|------------------------------|---------------------|------|
| 所属別<br>研修 | 大阪薬科大学総務課                        | 2月26日          | 学生の厚生補導                      | 大阪薬大の教職員            | 33名  |
|           | 大阪医科大学<br>人事企画研修課                | 4月2日～<br>4月11日 | 新入事務職員導入研修                   | 大阪医大の4月入職新卒<br>事務職員 | 8名   |
|           | 大阪医科大学<br>中山国際医学医療交<br>流センター     | 4月26日          | アジアにおける医学教育と研究の<br>展開        | 大阪医大の教員             | 79名  |
|           | 大阪医科大学研究拠<br>点育成奨励事業             | 6月14日          | 医学部における国際バカロレア入<br>試の活用      | 大阪医大の教員             | 56名  |
|           | 大阪医科大学<br>医学教育センター、看<br>護学教育センター | 7月16日          | 多職種連携教育とシミュレーショ<br>ン教育法      | 大阪医大の教員             | 41名  |
|           |                                  | 9月9日           | シミュレーションを用いた多職種<br>連携教育      | 大阪医大の教員             | 25名  |
|           | 大阪医科大学<br>看護学教育センター              | 8月28日          | 教育の質向上のためのティーチン<br>グ・ポートフォリオ | 大阪医大の教員             | 66名  |
|           |                                  | 12月23日         |                              |                     | 37名  |
| 大阪医科大学学務課 | 12月11日                           | FD&SD 教育研究集会   | 大阪医大の教員、学生                   | 144名                |      |

| 授業科目の概要（社会的・職業的自立指導関係） |            |  |                                  |
|------------------------|------------|--|----------------------------------|
| 科目区分                   | 授業科目の名称    | 講義等の内容   | 備考                               |
| 基礎教育科目                 | キャリアデザイン概論 | 自己理解と職業理解を通して自分自身のキャリアデザインを考え、自立・自律した社会人としての意識・態度を身に付けることを目的とする。講義では、キャリアデザインの意義と薬学部卒業生の多くが進む業種と職種に関する概説の後、現在及び将来の薬剤師に求められる役割とその実践について討議を行わせる。この後、自己理解と職業理解に基づくキャリアデザインの具体例を学び、社会人として必要な能力の理解とその実践に向けた体験学習型演習を実施する。  | 共同<br>講義9時間<br>演習7時間             |
| 基礎薬学科目                 | 薬学入門       | <p>（概要）<br/>医療人・薬の専門家としての必要な基本的姿勢を身に付けるため、医療と社会における薬学・医学の役割や薬剤師の使命を理解することを目的とする。（オムニバス方式／計8回）</p> <p>（10 中村敏明／2回）<br/>薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について学習する。また、医療従事者が守るべき倫理規範、患者の基本的権利と自己決定権、医療事故、医療チーム内での薬剤師の役割、病気が患者に及ぼす心理的影響、患者や家族への配慮の大切さ等について学習する。</p> <p>（18 永井純也／1回）<br/>6年間で何を学ぶか、本学の教育方針、学習スケジュールについて理解させ、薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連付けを図る。</p> <p>（41 角山香織／1回）<br/>医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケア、医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性、病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について学習する。</p> <p>（17 阪本恭子／1回）<br/>生命・医療倫理の諸原則を学び、薬を扱う医療人としてどのような心構えで人間・生命に向き合うべきかを考え、人間の尊厳と生命の尊厳の意味について学習する。</p> <p>（16 藤森功／1回）<br/>薬剤師として薬の作用メカニズムや副作用を理解するために、生物系薬学や生命科学などの基礎知識の習得が必須であること、生命科学における基礎研究の成果がいかに関薬品開発に重要であるかについて学習する。</p> <p>（26 天満敬／2回）<br/>医薬品の創製に関わる基礎研究の重要性を放射性医薬品創薬を例に学習する。</p> | オムニバス                            |
| 医療薬学科目                 | 医療人マインド    | 病院の機能と役割、医療に関わる専門職種の役割・機能を理解し、医療人としてふさわしい態度を身に付け、また、医療人としての自覚を持たせることを目的とする。講義は、本学医学部・看護学部と合同で実施し、看護師のやりがいと醍醐味、地域に根ざす大学病院の看護の働き、これからの医師と看護師・多職種の協働、日本の保健医療行政、医師のやりがいと醍醐味、病院組織での医療職の協働と医療人マインド、特定機能病院の役割と患者にやさしい病院、薬剤師のやりがいと醍醐味、薬剤師の役割と機能、多職種の協働、MSW（メディカルソーシャルワーカー）のやりがいと醍醐味、地域連携の意味と連携機関と職種、附属病院でのMSWとしての活動、高槻市の健康課題と取り組み、大学病院への期待、医師・看護師・薬剤師の役割・機能の討論、放射線技師・臨床検査技師のやりがいと醍醐味、放射線技師・臨床検査技師の仕事、リハビリテーション部の機能と役割、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のやりがいと醍醐味、栄養士のやりがいと醍醐味、栄養士としての患者・家族への栄養指導、医療事務職のやりがいと醍醐味について学習する。   | 共同<br>メディア                       |
|                        | 早期体験学習     | 薬学生として学習に対するモチベーションを高めるために早期体験学習を中心に薬剤師及び薬学卒業生の活躍する現場を体験し、さらに、患者・生活者本位の視点に立つ医療人として果たすべき役割を理解し、その重要性や課題を討議することを目的とする。この体験学習では、コンプライアンス研修、医療現場における薬剤師のマナー（倫理）や薬局薬剤師・病院薬剤師の業務と果たすべき役割についての導入講義を経て、小グループ単位で地域の総合病院、薬局、ドラッグストア、製薬企業、介護施設等の見学を実施する。なお、見学前には施設体験の動機付けと目標設定についてグループディスカッションを行う。また、見学後には各薬剤師の役割や位置付け、現状での問題点などについてグループディスカッションを行った後、全体発表会を実施することで、それぞれの学びを共有する。   | 共同<br>講義12時間<br>現場体験4時間<br>演習8時間 |

# 学科間の教育課程の差異について

<設置の趣旨等を記載した書類より>

この度設置する薬学部においては、薬学科と薬科学科を設ける。

この薬科学科は平成30年度より学生募集を停止している学科であり、この度の大学統合にあたり、学生の権利保証のため、学生募集停止を継続したまま設置する学科である。教育課程については、大阪薬科大学薬学部薬学科の旧教育課程（平成27年度から平成29年度入学生適用）の1年次から3年次までを学部共通としており、4年次の教育課程のみが独自のものとなる。4年次では、薬科学科としての独自の授業科目である「バイオインフォマティクス」

「分子設計学」等を配置するとともに、卒業研究である「特別演習・実習（前期）」「特別演習・実習（後期）」を配置する。なお、薬剤師養成教育に係る授業科目は配置せず、卒業研究に注力することができるようにしている。

薬科学科の教育課程の編成の概要はこのような内容であるが、この度設置する薬学科の教育課程（令和3年度以降入学生適用）と大阪薬科大学薬学部薬学科の旧教育課程（平成27年度から平成29年度入学生適用）は教育課程の編成に係る基本的な考えは同じものの、全く同一ではないため、薬科学科の教育課程との差異を単純に抽出して対比させることはできない。

ついで、この度設置する薬科学科と大阪薬科大学薬学部薬学科（平成27年度から平成29年度入学生適用）の教育課程を下表のとおり対比させることをもって、教育課程の差異を示す。

(注)

- この度設置する薬学科の教育課程（令和3年度以降入学生適用）についても、大阪薬科大学薬学部薬学科の教育課程を踏襲しており、その教育課程の変遷については、別途「資料4：設置学部における教育課程の変更状況」に示すとおりです。
- 両学科は3年次までは共通の教育課程であり、4年次から薬学科と薬科学科の教育課程に分かれるため、4年次以降の教育課程の差異を示します。

## 薬学科・薬科学科 4 年次

| 区分        | 授業科目                 | 薬学科     |    |     | 薬科学科 |    |  | 備考   |
|-----------|----------------------|---------|----|-----|------|----|--|--|
|           |                      | 前期      | 後期 | 単位  | 前期   | 後期 | 単位   |  |
| 両学科共通科目   | 応用薬学<br>生物物理化学       | ○       |    | 1.5 | ○    |    | 1.5  | ●：必修科目<br>○：選択科目   |
|           | 薬品合成化学               | ○       |    | 1.5 | ○    |    | 1.5  |  |
|           | 医療薬学<br>薬理学4         | ●       |    | 1.5 | ○    |    | 1.5  |  |
| 薬学科独自科目   | 応用薬学<br>薬学英语         | ●       |    | 1   |      |    |  | 選択科目の卒業要件に関する差異<br><br>○薬学科<br>3年次及び4年次配当の応用薬学科目及び医療薬学科目から4単位以上、6年次配当の応用薬学科目及び医療薬学科目から2単位以上、計6単位以上修得を要する。<br><br>○薬科学科<br>3年次及び4年次配当の応用薬学科目及び医療薬学科目から3単位以上修得を要する。<br><br>※1年次及び2年次配当の基礎教育科目の選択科目については、両学科共通で5単位以上修得を要する。 |
|           | 医薬品化学1               | ●       |    | 1.5 |      |    |  |  |
|           | 医薬品化学2               |         | ●  | 1   |      |    |  |  |
|           | 薬事関連法・制度             | ●       |    | 1.5 |      |    |  |  |
|           | 臨床薬物動態学              | ●       |    | 1   |      |    |  |  |
|           | アドバンスト薬物治療学1         |         | ○  | 1   |      |    |  |  |
|           | 医療薬剤学                | ●       |    | 1.5 |      |    |  |  |
|           | 個別化医療                |         | ●  | 1   |      |    |  |  |
|           | コミュニティファーマシー         |         | ●  | 1.5 |      |    |  |  |
|           | 医薬品安全性学              |         | ●  | 1   |      |    |  |  |
|           | 医薬品情報演習              | ●       |    | 0.5 |      |    |  |  |
|           | 臨床栄養学                | ○       |    | 1   |      |    |  |  |
|           | 臨床感染症学               | ○       |    | 1   |      |    |  |  |
|           | 病態・薬物治療学演習           | ○       |    | 1   |      |    |  |  |
|           | 生命医療倫理               | ●       |    | 1.5 |      |    |  |  |
|           | 制度経済                 |         | ●  | 1.5 |      |    |  |  |
|           | 薬学基礎演習               |         | ●  | 0.5 |      |    |  |  |
|           | 臨床化学                 |         | ○  | 1   |      |    |  |  |
|           | 臨床生理学                |         | ○  | 1   |      |    |  |  |
|           | 実習                   | 臨床導入学習1 | ●  |     | 4    |    |  |  |
| 臨床導入学習2   |                      |         | ●  | 1   |      |    |  |  |
| 特別演習・実習 ※ |                      |         | ●  |     |      |    | ※ 薬学科の特別演習・実習は4年次前期から6年次前期の期間で行い、18単位取得する。 |  |
| 薬科学科独自科目  | 応用薬学<br>バイオインフォマティクス |         |    |     | ●    |    | 1.5  |  |
|           | 分子設計学                |         |    |     | ●    |    | 1.5  |  |
|           | 医薬品化学                |         |    |     | ○    |    | 1.5  |  |
|           | 特別演習・実習（前期）          |         |    |     | ●    |    | 5  |  |
|           | 特別演習・実習（後期）          |         |    |     |      | ●  | 6  |  |

## 薬学科 5 年次

| 区分 | 授業科目      | 薬学科 |    |    | 薬科学科 |    |    | 備考   |
|----|-----------|-----|----|----|------|----|----|--|
|    |           | 前期  | 後期 | 単位 | 前期   | 後期 | 単位 |  |
| 実習 | 病院実務実習    | ●   |    | 10 |      |    |    | ●：必修科目<br>○：選択科目<br>※ 薬学科の特別演習・実習は4年次前期から6年次前期の期間で行い、18単位取得する。 |
|    | 薬局実務実習    | ●   |    | 10 |      |    |    |  |
|    | 特別演習・実習 ※ |     | ●  |    |      |    |    |  |

## 薬学科 6 年次

| 区分     | 授業科目         | 薬学科 |    |     | 薬科学科 |    |  | 備考               |
|--------|--------------|-----|----|-----|------|----|--|------------------|
|        |              | 前期  | 後期 | 単位  | 前期   | 後期 | 単位   |                  |
| 応用薬学   | 薬局方総論        | ●   |    | 1   |      |    |  | ●：必修科目<br>○：選択科目 |
|        | 先端分子医科学1     | ○   |    | 0.5 |      |    |  |                  |
|        | 先端分子医科学2     | ○   |    | 0.5 |      |    |  |                  |
|        | 先端分子医科学3     | ○   |    | 0.5 |      |    |  |                  |
| 医療薬学科目 | アドバンスト薬物治療学2 | ○   |    | 0.5 |      |    |  |                  |
|        | アドバンスト薬物治療学3 | ○   |    | 0.5 |      |    |  |                  |
|        | 医薬品情報評価学     | ●   |    | 1   |      |    |  |                  |
|        | 医療政策論        | ○   |    | 0.5 |      |    |  |                  |
|        | 医療倫理論        | ○   |    | 0.5 |      |    |  |                  |
|        | 医療情報学        | ○   |    | 0.5 |      |    |  |                  |
|        | 漢方医学概論       | ○   |    | 0.5 |      |    |  |                  |
|        | レギュラトリーサイエンス | ○   |    | 0.5 |      |    |  |                  |
|        | 創薬薬理学        | ○   |    | 0.5 |      |    |  |                  |
|        | 薬学総合演習       |     | ●  | 3   |      |    |  |                  |
| 実習     | 特別演習・実習 ※    |     | ●  | 18  |      |    | ※ 薬学科の特別演習・実習は4年次前期から6年次前期の期間で行い、18単位取得する。 |                  |

## 平成31年度実務実習年間スケジュール

|                                 | Ⅰ期                                  | Ⅱ期                                 | Ⅲ期                                 | Ⅳ期                                  |
|---------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|
| ガイダンス                           | 平成30年12月7日（金）                       |                                    |                                    |                                     |
| 「履歴書」提出締切日                      | 平成30年12月25日（火）                      | 平成31年2月20日（水）                      | 平成31年2月20日（水）                      | —                                   |
| 実習期間                            | 平成31年2月25日（月）<br>∩<br>令和1年5月15日（水）  | 令和1年5月27日（月）<br>∩<br>令和1年8月11日（日）  | 令和1年8月26日（月）<br>∩<br>令和1年11月11日（月） | 令和1年11月25日（月）<br>∩<br>令和2年2月16日（日）  |
| 直前ガイダンス                         | 平成31年1月21日（月）                       | 平成31年4月23日（火）                      | 令和1年7月23日（火）                       | —                                   |
| 実習記録システム講習会                     | 平成31年1月21日（月）                       | 平成31年4月3日（水）                       | 令和1年7月23日（火）                       | —                                   |
| 「報告書」等の提出締切                     | 令和1年5月17日（金）                        | 令和1年8月20日（火）                       | 令和1年11月15日（金）                      | 令和2年2月21日（金）                        |
| 「報告会」実施予定日                      | 令和2年2月19日（水）頃を予定                    |                                    |                                    |                                     |
| 教員事前訪問                          | 平成31年1月28日（月）<br>∩<br>平成31年2月22日（金） | 平成31年4月30日（火）<br>∩<br>令和1年5月24日（金） | 令和1年7月29日（月）<br>∩<br>令和1年8月23日（金）  | 令和1年10月28日（月）<br>∩<br>令和1年11月22日（金） |
| 教員訪問第1回                         | 平成31年3月4日（月）<br>∩<br>平成31年3月29日（金）  | 令和1年6月3日（月）<br>∩<br>令和1年6月28日（金）   | 令和1年9月2日（月）<br>∩<br>令和1年9月27日（金）   | 令和1年12月2日（月）<br>∩<br>令和1年12月26日（木）  |
| 特研教員の<br>学生へのコンタクト<br>または登校日の設定 | 平成31年3月30日（土）<br>∩<br>平成31年4月14日（日） | 令和1年6月29日（土）<br>∩<br>令和1年7月14日（日）  | 令和1年9月28日（土）<br>∩<br>令和1年10月13日（日） | 令和2年1月7日（火）<br>∩<br>令和2年1月19日（日）    |
| 教員訪問第2回                         | 平成31年4月15日（月）<br>∩<br>令和1年5月10日（金）  | 令和1年7月15日（月）<br>∩<br>令和1年8月9日（金）   | 令和1年10月14日（月）<br>∩<br>令和1年11月8日（金） | 令和2年1月20日（月）<br>∩<br>令和2年2月14日（金）   |



## 教育課程と指定規則等との対比表

薬学教育モデル・コアカリキュラムの一般目標(GIO)と授業科目の対比について下表に示す。

※選択科目は○を付記

| 一般目標(GIO)   | 該当科目                                      |       |        |   |                             |              |
|---|---|-------|--------|---|-----------------------------|--------------|
|   | 1年  | 2年    | 3年     | 4年  | 5年                          | 6年           |
| <b>A 基本事項</b>   |   |       |        |   |                             |              |
| (1) 薬剤師の使命<br>医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。               | 薬学入門<br>医療人マインド<br>○専門職連携医療論<br>早期体験学習    |       | 生命医療倫理 | コミュニケーション<br>キャリアデザイン概論<br>医薬品化学2<br>○医薬品安全性学<br>個別化医療<br>臨床薬物動態学<br>コミュニティファーマシー |                             | ○多職種融合(連携)ゼミ |
| (2) 薬剤師に求められる倫理観<br>倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。                 | 薬学入門<br>早期体験学習                            |       | 生命医療倫理 | コミュニケーション<br>臨床導入学習1<br>薬事関連法・制度  |                             |              |
| (3) 信頼関係の構築<br>患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。                  | アカデミックスキル<br>薬学入門<br>医療人マインド<br>○専門職連携医療論 | 医療心理学 | 生命医療倫理 | コミュニケーション<br>○アドバンスト薬物治療学<br>コミュニティファーマシー<br>臨床導入学習1                              |                             |              |
| (4) 多職種連携協働とチーム医療<br>医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。                    | 薬学入門<br>医療人マインド<br>○専門職連携医療論<br>早期体験学習    |       |        | コミュニケーション<br>キャリアデザイン概論<br>コミュニティファーマシー   |                             | ○多職種融合(連携)ゼミ |
| (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成<br>生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。     | 情報科学学習<br>アカデミックスキル<br>薬学入門<br>早期体験学習     |       | 生命医療倫理 | キャリアデザイン概論<br>○アドバンスト薬物治療学<br>臨床導入学習1<br>特別演習・実習                                  | 病院実務実習<br>薬局実務実習<br>特別演習・実習 | 特別演習・実習      |
| <b>B 薬学と社会</b>  |   |       |        |   |                             |              |
| 人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。 |   |       |        |   |                             |              |
| (1) 人と社会に関わる薬剤師<br>人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人と社会と薬剤師の関わりを認識する。                                   | 薬学入門                                      | 医療心理学 | 生命医療倫理 |   |                             |              |

| 一般目標(GIO)   | 該当科目                    |  |  |   |    |    |
|---|-------------------------|--|--|---|----|----|
|   | 1年                      | 2年   | 3年   | 4年  | 5年 | 6年 |
| (2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範<br>調剤、医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の供給、その他薬事衛生に係る任務を薬剤師として適正に遂行するために必要な法規範とその意義を理解する。 |                         |  | 医薬品化学1<br>医療と法<br>製剤設計学  | 医薬品化学2<br>薬事関連法・制度                          |    |    |
| (3) 社会保障制度と医療経済<br>社会保障制度のもとで提供される医療と福祉について、現状と課題を認識するとともに、薬剤師が担う役割とその意義を理解する。                              | 薬学入門                    |  | 医療と法<br>製剤設計学  | ○医療政策論<br>コミュニティファーマシー<br>薬事関連法・制度<br>社会保障論 |    |    |
| (4) 地域における薬局と薬剤師<br>地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。                        | 薬学入門                    |  |  | ○医療政策論<br>コミュニティファーマシー<br>社会保障論             |    |    |
| C 薬学基礎  |                         |  |  |   |    |    |
| C1 物質の物理的性質<br>物質の物理的性質を理解するために、原子・分子の構造、熱力学、反応速度論などに関する基本的事項を身につける。  |                         |  |  |   |    |    |
| (1) 物質の構造<br>物質を構成する原子・分子の構造、および化学結合に関する基本的事項を修得する。   | 基礎有機化学<br>有機化学1<br>生化学1 | 物理化学2<br>物理化学3<br>分析化学2<br>有機化学3<br>有機スペクトル学演習 | 放射化学<br>○応用放射化学<br>○精密有機合成化学<br>物理薬剤学<br>製剤設計学<br>衛生薬学・放射化学実習<br>薬剤学実習 |   |    |    |
| (2) 物質のエネルギーと平衡<br>物質の状態を理解するために、熱力学に関する基本的事項を修得する。   | 物理化学1<br>分析化学1<br>有機化学1 | 物理化学2<br>物理化学3<br>生化学2<br>物理化学実習               | 応用分析学<br>物理薬剤学   |   |    |    |
| (3) 物質の変化<br>物質の変換過程を理解するために、反応速度論に関する基本的事項を修得する。   |                         | 物理化学3<br>物理化学実習                                | 物理薬剤学  |   |    |    |
| C2 化学物質の分析<br>化学物質(医薬品を含む)を適切に分析できるようになるために、物質の定性、定量に関する基本的事項を修得する。   |                         |  |  |   |    |    |

| 一般目標(GIO)  | 該当科目                                |  |   |         |    |    |
|--|-------------------------------------|--|---|---------|----|----|
|  | 1年                                  | 2年                                     | 3年  | 4年      | 5年 | 6年 |
| (1) 分析の基礎<br>化学物質の分析に用いる器具の使用法と得られる測定値の取り扱いに関する基本的事項を修得する。                                     | 分析化学1                               | 分析化学2<br>分析化学実習                        | 生物科学実習  |         |    |    |
| (2) 溶液中の化学平衡 溶液中の化学平衡に関する基本的事項を修得する。   | 分析化学1<br>基礎有機化学<br>生化学1             | 分析化学実習<br>物理化学実習                       | 生物科学実習  |         |    |    |
| (3) 化学物質の定性分析・定量分析<br>化学物質の定性分析および定量分析に関する基本的事項を修得する。  | 分析化学1                               | 生物無機化学<br>分析化学実習                       | 応用分析学<br>製剤設計学  |         |    |    |
| (4) 機器を用いる分析法<br>機器を用いる分析法の原理とその応用に関する基本的事項を修得する。  |                                     | 物理化学2<br>分析化学2<br>有機スペクトル学演習<br>分析化学実習 | 物理薬剤学<br>製剤設計学<br>○臨床化学<br>生物科学実習<br>薬剤学実習              | ○生物物理化学 |    |    |
| (5) 分離分析法<br>分離分析法に関する基本的事項を修得する。  | 生化学1<br>基礎有機化学実習                    | 分析化学2<br>分析化学実習                        | ○臨床化学<br>有機化学実習<br>生物科学実習                               | ○生物物理化学 |    |    |
| (6) 臨床現場で用いる分析技術<br>臨床現場で用いる代表的な分析技術に関する基本的事項を修得する。  | 医療薬学導入学習                            | 分析化学2<br>薬物治療学1<br>薬物治療学2              | 応用分析学<br>○応用放射化学<br>薬物治療学3<br>薬物治療学4<br>○臨床化学<br>生物科学実習 |         |    |    |
| C3 化学物質の性質と反応<br>化学物質を理解できるようになるために、代表的な有機化合物の構造、性質、反応、分離法、構造決定法、および無機化合物の構造と性質に関する基本的事項を修得する。 |                                     |  |   |         |    |    |
| (1) 化学物質の基本的性質<br>基本的な有機化合物の命名法、電子配置、反応、立体構造などに関する基本的事項を修得する。                                  | 基礎有機化学<br>有機化学1<br>生化学1<br>基礎有機化学実習 | 有機化学2<br>有機化学3                         | 有機化学4<br>○精密有機合成化学<br>有機化学実習                            |         |    |    |
| (2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応<br>有機化合物の基本骨格となる脂肪族および芳香族化合物の構造、性質、反応性などに関する基本的事項を修得する。                   | 基礎有機化学<br>有機化学1                     | 有機化学2<br>有機化学3                         |   |         |    |    |

| 一般目標(GIO)  | 該当科目                        |                 |                              |         |    |         |
|--|-----------------------------|-----------------|------------------------------|---------|----|---------|
|  | 1年                          | 2年              | 3年                           | 4年      | 5年 | 6年      |
| (3)官能基の性質と反応<br>官能基を有する有機化合物の性質、反応性に関する基本的事項を修得する。   | 基礎有機化学<br>有機化学1<br>基礎有機化学実習 | 有機化学2<br>有機化学3  | 有機化学4<br>○精密有機合成化学<br>有機化学実習 |         |    |         |
| (4)化学物質の構造決定<br>代表的な機器分析としての核磁気共鳴(NMR)、赤外吸収(IR)、質量分析による構造決定法の基本的事項を修得する。                                 |                             | 有機スペクトル学演習      | 有機化学実習                       |         |    |         |
| (5)無機化合物・錯体の構造と性質<br>代表的な無機化合物・錯体(医薬品を含む)の構造、性質に関する基本的事項を修得する。   |                             | 生物無機化学          |                              |         |    |         |
| C4 生体分子・医薬品の化学による理解<br>医薬品の生体内での作用を化学的に理解できるようになるために、医薬品標的および医薬品の構造と性質、生体反応の化学に関する基本的事項を修得する。            |                             |                 |                              |         |    |         |
| (1)医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質<br>医薬品の標的となる生体分子の基本構造と、その化学的な性質に関する基本的事項を修得する。                                |                             | 薬理学1            | 医薬品化学1<br>○臨床化学              | ○生物物理化学 |    |         |
| (2)生体反応の化学による理解<br>医薬品の作用の基礎となる生体反応の化学的理解に関する基本的事項を修得する。   | 生物学<br>生化学1                 | 薬理学1            | 医薬品化学1                       |         |    |         |
| (3)医薬品の化学構造と性質、作用<br>医薬品に含まれる代表的な構造およびその性質を医薬品の作用と関連づける基本的事項を修得する。                                       |                             | 薬理学1<br>薬理学2    | 医薬品化学1<br>製剤設計学              | 医薬品化学2  |    |         |
| C5 自然が生み出す薬物<br>自然界に存在する物質を医薬品として利用できるようになるために、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用および天然生物活性物質の単離、構造、物性、作用などに関する基本的事項を修得する。 |                             |                 |                              |         |    |         |
| (1)薬になる動植物<br>基原、性状、含有成分、品質評価などに関する基本的事項を修得する。   | 薬用植物学<br>薬用天然物化学            | 生薬学<br>漢方・生薬学実習 | 基礎漢方薬学                       |         |    | ○漢方医学概論 |
| (2)薬の宝庫としての天然物<br>医薬品資源としての天然生物活性物質を構造によって分類・整理するとともに、天然生物活性物質の利用に関する基本的事項を修得する。                         | 薬用天然物化学<br>基礎有機化学実習         | 漢方・生薬学実習        |                              |         |    |         |

| 一般目標(GIO)  | 該当科目                              |  |                            |                    |    |    |
|--|-----------------------------------|--|----------------------------|--------------------|----|----|
|  | 1年                                | 2年   | 3年                         | 4年                 | 5年 | 6年 |
| C6 生命現象の基礎<br>生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになるために、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項を修得する。 |                                   |  |                            |                    |    |    |
| (1)細胞の構造と機能<br>細胞膜、細胞小器官、細胞骨格などの構造と機能に関する基本的事項を修得する。                                     | 生物学                               |  |                            |                    |    |    |
| (2)生命現象を担う分子<br>生命現象を担う分子の構造、性質、役割に関する基本的事項を修得する。  | 生物学<br>生化学1<br>基礎細胞生物学<br>薬用天然物化学 | 生化学2<br>分子生物学                                      | 医薬品化学1<br>○臨床化学<br>生物科学実習  | ○生物物理化学            |    |    |
| (3)生命活動を担うタンパク質<br>生命活動を担うタンパク質の構造、性質、機能、代謝に関する基本的事項を修得する。                               | 生物学<br>生化学1<br>基礎細胞生物学            | 生化学2<br>分子生物学                                      | 分子細胞生物学<br>○臨床化学<br>生物科学実習 | ○生物物理化学            |    |    |
| (4)生命情報を担う遺伝子 生命情報を担う遺伝子の複製、発現と、それらの制御に関する基本的事項を修得する。                                    | 基礎細胞生物学                           | 分子生物学  | 分子細胞生物学                    |                    |    |    |
| (5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系<br>生体エネルギーの産生、貯蔵、利用、およびこれらを担う糖質、脂質、タンパク質、核酸の代謝に関する基本的事項を修得する。     | 生物学<br>薬用天然物化学                    | 生化学2   | 分子細胞生物学<br>○臨床化学           |                    |    |    |
| (6)細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達<br>細胞間コミュニケーション及び細胞内情報伝達の方法と役割に関する基本的事項を修得する。                    | 生物学<br>機能形態学1                     | 薬理学1   | 分子細胞生物学                    |                    |    |    |
| (7)細胞の分裂と死<br>細胞周期と分裂、細胞死に関する基本的事項を修得する。   | 基礎細胞生物学                           |  | 分子細胞生物学                    | ○先端分子医科学           |    |    |
| C7 人体の成り立ちと生体機能の調節<br>人体の成り立ちを個体、器官、細胞の各レベルで理解できるようになるために、人体の構造、機能、調節に関する基本的事項を修得する。     |                                   |  |                            |                    |    |    |
| (1)人体の成り立ち<br>遺伝、発生、および各器官の構造と機能に関する基本的事項を修得する。  | 基礎細胞生物学<br>機能形態学1                 | 分子生物学<br>機能形態学2<br>薬理学1<br>薬理学2<br>薬物治療学2<br>生物学実習 | 免疫学<br>分子細胞生物学<br>薬理学3     | 薬物治療学5<br>○医薬品安全性学 |    |    |

| 一般目標(GIO)  | 該当科目          |  |                                |              |    |    |
|--|---------------|--|--------------------------------|--------------|----|----|
|  | 1年            | 2年                                       | 3年                             | 4年           | 5年 | 6年 |
| (2) 生体機能の調節<br>生体の維持に関わる情報ネットワークを担う代表的な情報伝達物質の種類、作用発現機構に関する基本的事項を修得する。                         | 機能形態学1        | 生化学2<br>機能形態学2<br>薬理学1<br>薬理学2<br>薬物治療学2 | 分子細胞生物学<br>薬理学3<br>薬理学4        | ○アドバンスト薬物治療学 |    |    |
| C8 生体防御と微生物<br>生体の恒常性が崩れたときに生ずる変化を理解できるようにするために、免疫反応による生体防御機構とその破綻、および代表的な病原微生物に関する基本的事項を修得する。 |               |  |                                |              |    |    |
| (1) 身体をまもる<br>ヒトの主な生体防御反応としての免疫応答に関する基本的事項を修得する。   | 生物学<br>機能形態学1 |  | 免疫学<br>分子細胞生物学                 |              |    |    |
| (2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用<br>免疫応答の制御とその破綻、および免疫反応の臨床応用に関する基本的事項を修得する。                             | 生物学           | 生物学実習                                    | 免疫学                            |              |    |    |
| (3) 微生物の基本<br>微生物の分類、構造、生活環などに関する基本的事項を修得する。   | 生物学           | 微生物学<br>生物学実習                            | 病原微生物学                         | 臨床感染症学       |    |    |
| (4) 病原体としての微生物<br>ヒトと微生物の関わりおよび病原微生物に関する基本的事項を修得する。  |               | 微生物学                                     | 病原微生物学                         | 臨床感染症学       |    |    |
| D 衛生薬学   |               |  |                                |              |    |    |
| D1 健康<br>人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献できるようにするために、現代社会における疾病とその予防、栄養と健康に関する基本的知識、技能、態度を修得する。              |               |  |                                |              |    |    |
| (1) 社会・集団と健康<br>人々(集団)の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するために、保健統計と疫学に関する基本的事項を修得する。                        |               |  | 衛生薬学3<br>衛生薬学・放射化学実習           |              |    |    |
| (2) 疾病の予防<br>健康を理解し疾病の予防に貢献できるようにするために、感染症、生活習慣病、職業病などについての現状とその予防に関する基本的事項を修得する。              |               | 微生物学                                     | 衛生薬学3<br>病原微生物学<br>衛生薬学・放射化学実習 | 臨床感染症学       |    |    |

| 一般目標(GIO)  | 該当科目     |                                 |   |                               |    |    |
|--|----------|---------------------------------|---|-------------------------------|----|----|
|  | 1年       | 2年                              | 3年  | 4年                            | 5年 | 6年 |
| (3) 栄養と健康<br>食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品機能、食品衛生に関する基本的事項を修得する。  |          | 微生物学<br>衛生薬学1<br>薬物治療学2         | 衛生薬学3<br>病原微生物学<br>衛生薬学・放射化学実習                                  |                               |    |    |
| D2 環境<br>人々の健康にとってより良い環境の維持と公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、化学物質などのヒトへの影響、適正な使用、および地球生態系や生活環境と健康との関わりにおける基本的知識、技能、態度を修得する。 |          |                                 |   |                               |    |    |
| (1) 化学物質・放射線の生体への影響<br>化学物質などの生体への有害作用を回避し、適正に使用できるようになるために、化学物質の毒性などに関する基本的事項を修得する。                             |          | 衛生薬学1                           | 衛生薬学2<br>衛生薬学・放射化学実習  | ○医薬品安全性学                      |    |    |
| (2) 生活環境と健康<br>地球生態系や生活環境を保全、維持できるようになるために、環境汚染物質などの成因、測定法、生体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基本的事項を修得する。                     |          |                                 | 衛生薬学2<br>衛生薬学・放射化学実習  |                               |    |    |
| E 医療薬学   |          |                                 |   |                               |    |    |
| E1 薬の作用と体の変化<br>疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を理解する。  |          |                                 |   |                               |    |    |
| (1) 薬の作用<br>医薬品を薬効に基づいて適正に使用できるようになるために、薬物の生体内における作用に関する基本的事項を修得する。  |          | 薬理学1<br>薬理学2<br>生物薬剤学1<br>生物学実習 | 医薬品化学1<br>生物薬剤学2<br>製剤設計学<br>薬物治療学3<br>薬物治療学4<br>薬物速度論<br>薬理学実習 | 医薬品化学2<br>○医薬品安全性学<br>臨床薬物動態学 |    |    |
| (2) 身体の病的変化を知る<br>身体の病的変化から疾患を推測できるようになるために、代表的な症候、病態・臨床検査に関する基本的事項を修得する。  | 医療薬学導入学習 | 薬物治療学1<br>薬物治療学2                | ○臨床化学   | 薬物治療学5<br>○アドバンスト薬物治療学        |    |    |
| (3) 薬物治療の位置づけ<br>医療チームの一員として薬物治療に参画できるようになるために、代表的な疾患における治療と薬物療法に関する基本的事項を修得する。                                  |          | 薬物治療学2                          | 薬物治療学3<br>薬物治療学4  | 薬物治療学5<br>○アドバンスト薬物治療学        |    |    |

| 一般目標(GIO)   | 該当科目     |                                  |   |                                   |    |            |
|---|----------|----------------------------------|---|-----------------------------------|----|------------|
|   | 1年       | 2年                               | 3年  | 4年                                | 5年 | 6年         |
| (4)医薬品の安全性<br>医療における医薬品のリスクを回避できるようになるために、有害事象(副作用、相互作用)、薬害、薬物乱用に関する基本的事項を修得する。   | 医療薬学導入学習 | 薬理学1<br>薬物治療学2                   | 薬物治療学3<br>薬物治療学4                            | ○アドバンスト薬物治療学<br>○医薬品安全性学<br>個別化医療 |    |            |
| E2 薬理・病態・薬物治療<br>患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。 |          |                                  |   |                                   |    |            |
| (1)神経系の疾患と薬<br>神経系・筋に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。   | 医療薬学導入学習 | 薬理学1<br>薬理学2<br>薬物治療学2           | 医薬品化学1<br>薬理学3<br>薬物治療学3<br>薬物治療学4<br>薬理学実習 | 医薬品化学2<br>○アドバンスト薬物治療学            |    | ○アドバンスト薬理学 |
| (2)免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬<br>免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。                   |          | 薬理学1<br>薬理学2<br>薬物治療学1<br>薬物治療学2 | 免疫学<br>薬理学3<br>薬物治療学3                       | 医薬品化学2<br>薬物治療学5<br>○医薬品安全性学      |    | ○アドバンスト薬理学 |
| (3)循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬<br>循環器系・血液・造血器系・泌尿器系・生殖器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。          | 医療薬学導入学習 | 薬理学1<br>薬理学2<br>薬物治療学1<br>薬物治療学2 | 薬理学4<br>薬物治療学3<br>薬物治療学4<br>薬理学実習           | 医薬品化学2<br>薬物治療学5<br>○アドバンスト薬物治療学  |    | ○アドバンスト薬理学 |
| (4)呼吸器系・消化器系の疾患と薬<br>呼吸器系・消化器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。                                     | 医療薬学導入学習 | 薬理学1<br>薬物治療学1<br>薬物治療学2         | 薬理学3  | 医薬品化学2<br>○アドバンスト薬物治療学            |    |            |



| 一般目標(GIO)  | 該当科目     |                          |   |   |    |            |
|--|----------|--------------------------|---|---|----|------------|
|  | 1年       | 2年                       | 3年  | 4年  | 5年 | 6年         |
| (5)代謝系・内分泌系の疾患と薬<br>代謝系・内分泌系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。  | 医療薬学導入学習 | 薬理学2<br>薬物治療学1           | 薬理学4                                      | 医薬品化学2<br>薬物治療学5<br>○アドバンスト薬物治療学                      |    | ○アドバンスト薬理学 |
| (6)感覚器・皮膚の疾患と薬<br>感覚器・皮膚の疾患と薬の薬理作用・機序および副作用に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。   |          | 薬理学1<br>薬物治療学2           | 医薬品化学1<br>薬物治療学3<br>薬物治療学4                | 医薬品化学2<br>薬物治療学5<br>個別化医療                             |    |            |
| (7)病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬<br>病原微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)、および悪性新生物に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。          |          | 微生物学<br>薬物治療学1<br>薬物治療学2 | 免疫学<br>病原微生物学<br>薬理学4<br>薬物治療学3<br>薬物治療学4 | 医薬品化学2<br>薬物治療学5<br>○アドバンスト薬物治療学<br>臨床感染症学<br>臨床薬物動態学 |    | ○アドバンスト薬理学 |
| (8)バイオ・細胞医薬品とゲノム情報<br>医薬品としてのタンパク質、遺伝子、細胞を適正に利用するために、それらを用いる治療に関する基本的知識を修得し、倫理的態度を身につける。併せて、ゲノム情報の利用に関する基本的事項を修得する。                              |          | 薬物治療学2                   | 薬物治療学3<br>薬物治療学4                          | 薬物治療学5<br>○アドバンスト薬物治療学                                |    |            |
| (9)要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション<br>適切な薬物治療および地域の保健・医療に貢献できるようにするために、要指導医薬品・一般用医薬品およびセルフメディケーションに関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的事項を修得する。 |          |                          |   | ○アドバンスト薬物治療学<br>コミュニティファーマシー<br>臨床導入学習1               |    |            |
| (10)医療の中の漢方薬<br>漢方の考え方、疾患概念、代表的な漢方薬の適応、副作用や注意事項などに関する基本的事項を修得する。   |          | 漢方・生薬学実習                 | 基礎漢方薬学<br>薬物治療学3<br>薬物治療学4                |   |    | ○漢方医学概論    |

| 一般目標(GIO)  | 該当科目 |                 |                          |  |         |         |
|--|------|-----------------|--------------------------|--|---------|---------|
|  | 1年   | 2年              | 3年                       | 4年   | 5年      | 6年      |
| (11)薬物治療の最適化<br>最適な薬物治療の実現に貢献できるようになるために、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。   |      | 薬物治療学2          | 薬物治療学3<br>薬物治療学4         | ○アドバンスト薬物治療学<br>個別化医療                                |         |         |
| E3 薬物治療に役立つ情報<br>薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、処方設計を提案したり、臨床上の問題解決ができるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工、臨床研究デザイン・解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。 |      |                 |                          |  |         |         |
| (1)医薬品情報<br>医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理・評価、EBM の実践、生物統計ならびに臨床研究デザイン・解析に関する基本的事項を修得する。   |      | 数理統計学           | 医薬品情報学                   | 医療統計学<br>○アドバンスト薬物治療学<br>個別化医療<br>臨床導入学習1<br>特別演習・実習 | 特別演習・実習 | 特別演習・実習 |
| (2)患者情報<br>患者からの情報の収集、評価に必要な基本的事項を修得する。  |      |                 | 医薬品情報学                   | ○アドバンスト薬物治療学   |         |         |
| (3)個別化医療<br>薬物治療の個別化に関する基本的事項を修得する。  |      | 薬物治療学1          | 生物薬剤学2<br>薬物速度論          | ○アドバンスト薬物治療学<br>○医薬品安全性学<br>個別化医療<br>臨床薬物動態学         |         |         |
| E4 薬の生体内運命 薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらを応用する基本的技能を身につける。  |      |                 |                          |  |         |         |
| (1)薬物の体内動態<br>吸収、分布、代謝、排泄の各過程および薬物動態学的相互作用に関する基本的事項を修得する。  |      | 物理化学3<br>生物薬剤学1 | 生物薬剤学2<br>製剤設計学<br>薬剤学実習 | ○生物物理化学<br>○アドバンスト薬物治療学<br>個別化医療<br>臨床薬物動態学          |         |         |
| (2)薬物動態の解析<br>薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する。  |      |                 | 薬物速度論<br>○臨床化学<br>薬剤学実習  | 個別化医療<br>臨床薬物動態学                                     |         |         |

| 一般目標(GIO)  | 該当科目                                  |                 |                                  |  |                  |              |
|--|---------------------------------------|-----------------|----------------------------------|--|------------------|--------------|
|  | 1年                                    | 2年              | 3年                               | 4年   | 5年               | 6年           |
| E5 製剤化のサイエンス<br>製剤化の意義と製剤の性質を理解するために、薬物と製剤材料の物性、製剤設計、および薬物送達システムに関する基本的事項を修得する。  |                                       |                 |                                  |  |                  |              |
| (1) 製剤の性質<br>薬物と製剤材料の物性に関する基本的事項を修得する。   |                                       | 物理化学3<br>物理化学実習 | 物理薬剤学<br>製剤設計学<br>薬剤学実習          |  |                  |              |
| (2) 製剤設計<br>製剤の種類、製造、品質などに関する基本的事項を修得する。   |                                       |                 | 製剤設計学<br>薬剤学実習                   |  |                  |              |
| (3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)<br>薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫した DDS に関する基本的事項を修得する。                                    |                                       |                 | 製剤設計学                            |  |                  |              |
| F 薬学臨床<br>患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。                                 |                                       |                 |                                  |  |                  |              |
| (1) 薬学臨床の基礎<br>医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場で必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。   | 薬学入門<br>医療人マインド<br>早期体験学習<br>医療薬学導入学習 |                 |                                  | ○アドバンスト薬物治療学<br>コミュニティファーマシー<br>臨床導入学習1<br>臨床導入学習2 | 病院実務実習<br>薬局実務実習 |              |
| (2) 処方せんに基づく調剤<br>処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。  | 医療薬学導入学習                              |                 | ○応用放射化学<br>臨床薬学概論<br>衛生薬学・放射化学実習 | ○アドバンスト薬物治療学<br>個別化医療<br>臨床導入学習1<br>臨床導入学習2        | 病院実務実習<br>薬局実務実習 |              |
| (3) 薬物療法の実践<br>患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。                  | 医療薬学導入学習                              |                 | ○臨床化学                            | ○アドバンスト薬物治療学<br>個別化医療<br>臨床導入学習1<br>臨床導入学習2        | 病院実務実習<br>薬局実務実習 |              |
| (4) チーム医療への参画 [A(4)参照]<br>医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。 | 医療人マインド<br>○専門職連携医療論                  |                 |                                  | 臨床感染症学<br>コミュニティファーマシー<br>臨床導入学習1                  | 病院実務実習<br>薬局実務実習 | ○多職種融合(連携)ゼミ |

| 一般目標(GIO)  | 該当科目     |    |      |   |                  |         |
|--|----------|----|------|---|------------------|---------|
|  | 1年       | 2年 | 3年   | 4年                                      | 5年               | 6年      |
| (5)地域の保健・医療・福祉への参画〔B(4)参照〕<br>地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。 | 医療薬学導入学習 |    |      | ○アドバンスト薬物治療学<br>コミュニティファーマシー<br>臨床導入学習1 | 病院実務実習<br>薬局実務実習 |         |
| G 薬学研究<br>薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。  |          |    |      |   |                  |         |
| (1)薬学における研究の位置づけ<br>研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。   |          |    | 医療と法 | 特別演習・実習                                 | 特別演習・実習          | 特別演習・実習 |

# 学校法人大阪医科薬科大学 薬学部規程細則（平成30～令和2年度入学生適用）

（令和3年4月1日施行）

（目 的）

**第1条** 大阪医科薬科大学薬学部薬学科における授業科目の履修に関しては、大阪医科薬科大学薬学部規程（以下、「薬学部規程」という。）に定めるもののほか、この細則による。

2 この細則は、令和3年4月1日に大阪薬科大学から薬学部へ転入学した学生のうち、平成30年度から令和2年度大阪薬科大学入学生に適用する。

（授業科目、履修及び授業日程の公示）

**第2条** 授業科目、単位数及び配当年次は別表1のとおりとする。

2 授業科目は原則として、配当されている学年次において履修しなければならない。

3 各学年次において履修する授業科目の内容、授業時間表及び担当教員はシラバスにより公示する。

4 各学年次において学生が1年間に履修できる授業科目の単位数の合計は、原則として55単位を上限とする。なお、各学年次での履修単位数を算定する際、複数の学年次にわたり配当されている授業科目は、その授業科目の単位数を各学年次に按分し算定する。

5 学業成績が優秀な学生は、前項に定める単位数の上限を適用しないことを認める場合がある。

（成 績）

**第3条** 授業科目の成績の評価は、授業科目毎に担当教員が授業内容に対する学生の学習到達度によって行い、到達目標及び成績評価方法はシラバスに示す。

2 前項の評価は、学則第21条第2項の規定にかかわらず、原則として100点法によって行い、60点以上を合格、59点以下を不合格とし、S（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）とする。なお、Dのうち29点以下のものを特にEとする。

3 前項の規定にかかわらず、一部の授業科目は、論文、報告書等の審査により合・否を判定する。

（単位の認定）

**第4条** 薬学部規程第8条に定めるほか、第11条の規定により必修科目、選択必修科目の単位が未修得で進級した場合、次年度以降に実施される再試験又は4年次及び6年次の再試験終了後に実施される特別再試験を受験し、単位修得の認定を受けることができる。ただし、選択科目は次年度に再試験を実施しない。

(GPA)

**第5条** GPAは、各学期の履修科目によるGPA（以下、「学期GPA」という。）、各年度の履修科目によるGPA（以下、「年度GPA」という。）及び入学時からのすべての学期の履修科目によるGPA（以下、「累積GPA」という。）の三種類を算出する。

2 学期GPAは、当該学期に履修したすべての授業科目の、当該学期の最終の成績評定により算出する。年度GPAは、当該年度に履修したすべての授業科目の、当該年度の最終の成績評定により算出する。また、累積GPAは、GPA算出時点までに履修したすべての授業科目の、算出時点での最終の成績評定により算出する。

3 前項にかかわらず、次の各号に該当する授業科目はGPAの算出対象外とする。

(1) 合否で判定し、成績の評点を表示しない授業科目

(2) 学則第24条により本学における履修とみなし単位を与え、成績の評点を表示しない授業科目

4 GPAの算出のためのGPは、授業科目履修の成績の評定ごとにSが4点、Aが3点、Bが2点、Cが1点、D及びEが0点とする。なお、試験を欠席した場合のGPは0点とする。

5 GPAは、次の計算式により算出する。なお、得られた数値に小数が生じた場合は、小数点以下第3位を四捨五入し、通知する。

$$GPA = \frac{\text{対象授業科目のGP} \times \text{当該授業科目の単位数}}{\text{対象授業科目の単位数}} \text{の合計}$$

6 各学期の成績が確定した段階で、学期GPA、年度GPA、累積GPA、あるいはこれらの組み合わせが一定の基準を下回った場合は、成業の見込みを立てるため、当該学生に対し面談等による修学指導を行う。

7 累積GPAが1未満の学期が3期続いた場合は、学則第29条第2項により退学を勧告する。

8 前項の期間には、休学した学期は含まない。

9 年度GPAは、指定する奨学金の選考に用いる。その他各種GPAは、学修成果の分析等に用いるものとする。

(試験の種類)

**第6条** 試験は定期試験、追試験、再試験及び特別再試験に分ける。

(定期試験)

**第7条** 定期試験を学期末に各1回行い、それぞれ前期定期試験及び後期定期試験とする。

2 定期試験における成績の評点は、試験の評点により、又は試験の評点に平常の成績などを含め、100点を満点とした整数によって表示する。

(追試験)

**第8条** 次の理由により定期試験を欠席した者に対し、各学期末に行う定期試験終了後に追試験を実施することがある。

- (1) 忌引（一親等又は二親等死亡の場合）又は就職試験、大学院入学試験の場合
  - (2) 傷病
  - (3) その他やむを得ない理由
- 2 追試験の受験を希望する者は、所定の期日までに試験欠席届及びその理由を証明する書類（又は理由書）を提出しなければならない。
- 3 前項の試験欠席届が提出された場合、審議のうえ追試験の実施を決定する。
- 4 追試験における成績の評点は、試験の評点により、又は試験の評点に平常の成績などを含め、第1項第1号の場合は定期試験と同様に100点、同項第2号の場合は90点を限度として表示する。同項第3号の場合の上限点は審議のうえ決定する。

(再試験)

**第9条** 試験は原則として各学期末に行う定期試験終了後に行う。

- 2 定期試験を受験し、成績が合格と判定されなかった者は、次の各号をいずれも満たす場合に限り、再試験を受験することができる。
- (1) 当該科目の出席回数とその授業回数の3分の2以上であること
  - (2) 当該科目の定期試験における成績の評点が30点以上であること
- 3 前項にかかわらず、2年次から4年次において、下位年次配当科目に単位未修得科目がある場合は、別表1に規定する当該科目の配当年次に実施する再試験を受験することができる。ただし、第13条第1項に規定する再履修の場合を除く。
- 4 定期試験を欠席した場合、再試験を受験することはできない。ただし、前条に定めるとおり、欠席理由により追試験を実施することがある。なお、追試験を不合格又は欠席した場合であっても、当該学期に実施する再試験は受験することはできない。
- 5 再試験における成績の評点は、試験の評点により、又は試験の評点に平常の成績などを含め、60点を限度として表示する。
- 6 第3項にかかわらず、選択科目の再試験は、履修した年度のみ受験することができる。
- 7 前各項にかかわらず、基礎教育科目の選択科目は、再試験を実施しない。

(特別再試験)

**第10条** 4年次の再試験終了後、第11条第5項に規定する進級に必要な履修授業科目のうち、単位未修得科目について4年次特別再試験を行う。

- 2 前項の単位未修得科目のうち、必修科目及び選択必修科目が5科目を超える場合は、4年次特別再試験を受験することができない。また、選択科目の受験は、基礎教育科目以外の2年次から4年次に履修した科目に限る。
- 3 6年次の再試験終了後、別表2に規定する卒業に必要な履修授業科目のうち、単位未

修得科目について6年次特別再試験を行う。

- 4 特別再試験における成績の評点は、試験の評点により、又は試験の評点に平常の成績などを含め、60点を限度として表示する。
- 5 定期試験を実施せずに、他の適切な方法で学修の成果を評価し単位を与える科目（実習、実技、演習等）については、特別再試験を実施しない。

（進 級）

**第11条** 進級査定は、年度末に行う。

- 2 1年次から2年次への進級は、1年次に課せられた必修科目及び選択必修科目のうち、単位未修得科目が5科目以下のとき認められる。
- 3 2年次から3年次への進級は、次の各号すべてを満たしたときに認められる。
  - (1) 2年次までに課せられた必修科目及び選択必修科目の単位未修得科目が5科目以下であること
  - (2) 基礎教育科目の選択科目を6単位以上修得していること（ただし、教養科目は4単位以上修得していること）
- 4 3年次から4年次への進級は、次を満たしたときに認められる。
  - (1) 3年次までに課せられた必修科目及び選択必修科目の単位未修得科目が5科目以下であること
- 5 4年次から5年次への進級は、次の各号すべてを満たしたときに認められる。
  - (1) 4年次までに課せられた必修科目及び選択必修科目をすべて修得していること
  - (2) 2年次から4年次に課せられた基礎教育科目以外の選択科目を4単位以上修得していること
  - (3) 薬学共用試験に合格していること
- 6 5年次から6年次への進級は、1年以上の在学を満たしたとき認められる。

（卒 業）

**第12条** 本学に6年以上在学し、別表2に定める履修すべき授業科目のすべての単位を修得したとき卒業が認められる。

- 2 卒業の認定は、毎年度末に行う。ただし、やむを得ない理由により、この認定を受けることができなかった者については、次年度においてこれを行うことができる。

（留 年）

**第13条** 原級に留め置かれた場合、原則として当該年次までの単位未修得のすべての授業科目を再履修するものとする。

- 2 原級に留め置かれた場合、当該年度に限り薬学部規程第3条第2項の規定にかかわらず、一つ上位の学年次に配当されている授業科目の履修（先取り履修）を認めることがある。



3 前項に定める先取り履修についての取扱いは、別に定める。

(改 廃)

**第14条** この細則の改廃は、薬学部教授会の議を経て、学長が決定する。

#### 附 則

- 1 この細則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 令和3年4月1日に大阪薬科大学から薬学部へ転入学した学生の大阪薬科大学において修得した単位等については、薬学部へ継承する。

(別表1) 授業科目及び単位年次配当表

&lt;薬学部薬学科：平成30～令和2年度入学生適用&gt;

| 区分                         | 授業科目           | 必<br>選 | 1年次 |    | 2年次 |     | 3年次 |    | 4年次 |     | 5年次 |    | 6年次 |    |
|----------------------------|----------------|--------|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|----|
|                            |                |        | 前期  | 後期 | 前期  | 後期  | 前期  | 後期 | 前期  | 後期  | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 |
| 教<br>養<br>科<br>目           | 文学の世界(教養)      | ○      | 1   |    | 1   |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 歴史と社会(教養)      | ○      | 1   |    | 1   |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 地球環境論(教養)      | ○      | 1   |    | 1   |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 政治と社会(教養)      | ○      | 1   |    | 1   |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 基礎心理学(教養)      | ○      | 1   |    | 1   |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 法と社会(教養)       | ○      | 1   |    | 1   |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 経済の世界(教養)      | ○      | 1   |    | 1   |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 社会分析の基礎(教養)    | ○      |     | 1  |     | 1   |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 人間と宗教(教養)      | ○      |     | 1  |     | 1   |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 文化人類学(教養)      | ○      |     | 1  |     | 1   |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 倫理と社会(教養)      | ○      |     | 1  |     | 1   |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | コーチング論(教養)     | ○      |     | 1  |     | 1   |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | スポーツ・運動実習2(教養) | ○      |     | 1  |     | 1   |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 数理論理学(教養)      | ○      |     | 1  |     | 1   |     |    |     |     |     |    |     |    |
| 基<br>礎<br>教<br>育<br>科<br>目 | 数学1            | ●      | 1   |    |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 数学2            | ●      |     | 1  |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 数理統計学          | ●      |     |    |     | 1.5 |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 物理学1           | ●      | 1   |    |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 物理学2           | ●      |     | 1  |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 英語リスニング1       | ●      | 1   |    |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 英語リスニング2       | ●      |     | 1  |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 英語リーディング1      | ●      | 1   |    |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 英語リーディング2      | ●      |     | 1  |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 英語スピーキング1      | ●      |     |    |     | 1   |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 英語スピーキング2      | ●      |     |    |     |     | 1   |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 英語ライティング1      | ●      |     |    |     | 1   |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 英語ライティング2      | ●      |     |    |     |     | 1   |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | ドイツ語1          | ※1     | ▲   | 1  |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | ドイツ語2          | ※1     | ▲   |    | 1   |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | フランス語1         | ※1     | ▲   | 1  |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | フランス語2         | ※1     | ▲   |    | 1   |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 中国語1           | ※1     | ▲   | 1  |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 中国語2           | ※1     | ▲   |    | 1   |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | ハングル1          | ※1     | ▲   | 1  |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | ハングル2          | ※1     | ▲   |    | 1   |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | 異文化言語演習1       | ●      |     |    |     |     |     | 1  |     |     |     |    |     |    |
|                            | 異文化言語演習2       | ●      |     |    |     |     |     |    | 1   |     |     |    |     |    |
|                            | 心理社会           | ●      |     |    |     |     | 1.5 |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | コミュニケーション      | ●      |     |    |     |     |     |    |     | 1.5 |     |    |     |    |
|                            | 身体運動科学         | ●      |     | 1  |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
|                            | スポーツ・運動実習1     | ●      |     | 1  |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
| 情報科学                       | ○              |        |     | 1  |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
| 情報科学演習                     | ●              |        | 1   |    |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
| アカデミックスキル                  | ●              |        | 1   |    |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
| 化学                         | ●              |        | 1   |    |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |
| 化学演習                       | ●              |        | 1   |    |     |     |     |    |     |     |     |    |     |    |

| 区分         | 授業科目       | 必選 | 1年次 |     | 2年次 |     | 3年次 |     | 4年次 |     | 5年次 |    | 6年次 |    |
|------------|------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|
|            |            |    | 前期  | 後期  | 前期  | 後期  | 前期  | 後期  | 前期  | 後期  | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 |
| 科教基礎<br>科目 | 生物学        | ●  | 1   |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 医工薬連環科学    | ○  |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
| 基礎薬学<br>科目 | 薬学入門       | ●  | 1   |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 基礎細胞生物学    | ●  |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 基礎有機化学     | ●  | 1.5 |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 有機化学1      | ●  |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 有機化学2      | ●  |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 有機化学3      | ●  |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 有機化学4      | ●  |     |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 有機スペクトル学演習 | ●  |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 物理化学1      | ●  |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 物理化学2      | ●  |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 物理化学3      | ●  |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 分析化学1      | ●  |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 分析化学2      | ●  |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 放射化学       | ●  |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 生化学1       | ●  |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 生化学2       | ●  |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 生化学3       | ●  |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 微生物学       | ●  |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 機能形態学1     | ●  |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
| 機能形態学2     | ●          |    |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
| 生物無機化学     | ●          |    |     | 1   |     |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
| 免疫学        | ●          |    |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |    |     |    |
| 応用薬学<br>科目 | 薬学英语       | ●  |     |     |     |     |     |     | 1   |     |     |    |     |    |
|            | 医療統計学      | ●  |     |     |     |     |     | 1   |     |     |     |    |     |    |
|            | 薬用植物学      | ●  | 1.5 |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 生薬学        | ●  |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 基礎漢方薬学     | ●  |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 薬用天然物化学    | ●  |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 衛生薬学1      | ●  |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 衛生薬学2      | ●  |     |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 衛生薬学3      | ●  |     |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 衛生薬学4      | ●  |     |     |     |     |     | 1.5 |     |     |     |    |     |    |
|            | 臨床感染症学     | ●  |     |     |     |     |     |     | 1.5 |     |     |    |     |    |
|            | 分子細胞生物学    | ●  |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |    |     |    |
|            | ゲノム医科学     | ●  |     |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 応用分析学      | ●  |     |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 応用放射化学     | ○  |     |     |     |     |     | 1   |     |     |     |    |     |    |
|            | 生物物理化学     | ○  |     |     |     |     |     |     | 1   |     |     |    |     |    |
|            | 物理薬剤学      | ●  |     |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |    |     |    |
|            | 精密有機合成化学   | ○  |     |     |     |     |     | 1   |     |     |     |    |     |    |
|            | 医薬品化学1     | ●  |     |     |     |     |     | 1.5 |     |     |     |    |     |    |
|            | 医薬品化学2     | ●  |     |     |     |     |     |     | 1.5 |     |     |    |     |    |
| 薬局方総論      | ●          |    |     |     |     |     |     |     | 0.5 |     |     |    |     |    |
| 先端分子医科学1   | ○          |    |     |     |     |     |     |     | 0.5 |     |     |    |     |    |
| 先端分子医科学2   | ○          |    |     |     |     |     |     |     |     | 0.5 |     |    |     |    |

| 区分                         | 授業科目          | 必<br>選 | 1年次   |     | 2年次 |     | 3年次 |     | 4年次 |     | 5年次 |    | 6年次   |     |
|----------------------------|---------------|--------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-------|-----|
|                            |               |        | 前期    | 後期  | 前期  | 後期  | 前期  | 後期  | 前期  | 後期  | 前期  | 後期 | 前期    | 後期  |
| 医<br>療<br>薬<br>学<br>科<br>目 | 早期体験学習 1      | ●      | ← 1 → |     |     |     |     |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 早期体験学習 2      | ●      |       | 0.5 |     |     |     |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 医療人マインド       | ●      | 1     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 専門職連携医療論      | ○      |       |     | 1   |     |     |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 連携医療学         | ●      |       |     |     |     |     |     |     | 1   |     |    |       |     |
|                            | 医薬看融合ゼミ       | ○      |       |     |     |     |     |     |     |     |     |    |       | 0.5 |
|                            | 病態生化学         | ●      |       |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 薬理学 1         | ●      |       |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 薬理学 2         | ●      |       |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 薬理学 3         | ●      |       |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 薬理学 4         | ●      |       |     |     |     |     | 1.5 |     |     |     |    |       |     |
|                            | 製剤学           | ●      |       |     |     |     |     |     | 1.5 |     |     |    |       |     |
|                            | 生物薬剤学 1       | ●      |       |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 生物薬剤学 2       | ●      |       |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 薬物動態解析学       | ●      |       |     |     |     |     | 1.5 |     |     |     |    |       |     |
|                            | 臨床薬物動態学       | ●      |       |     |     |     |     |     |     | 1   |     |    |       |     |
|                            | 薬物治療学 1       | ●      |       |     | 1.5 |     |     |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 薬物治療学 2       | ●      |       |     |     | 1.5 |     |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 薬物治療学 3       | ●      |       |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 薬物治療学 4       | ●      |       |     |     |     |     | 1.5 |     |     |     |    |       |     |
|                            | 薬物治療学 5       | ●      |       |     |     |     |     |     | 1.5 |     |     |    |       |     |
|                            | アドバンスト薬物治療学 1 | ○      |       |     |     |     |     |     |     |     | 0.5 |    |       |     |
|                            | アドバンスト薬物治療学 2 | ○      |       |     |     |     |     |     |     |     | 0.5 |    |       |     |
|                            | 医療薬剤学         | ●      |       |     |     |     |     |     |     | 1   |     |    |       |     |
|                            | 個別化医療         | ●      |       |     |     |     |     |     |     |     | 1   |    |       |     |
|                            | コミュニティファーマシー  | ●      |       |     |     |     |     |     |     |     | 1.5 |    |       |     |
|                            | 医薬品安全性学       | ○      |       |     |     |     |     |     |     | 1   |     |    |       |     |
|                            | 医薬品情報学        | ●      |       |     |     |     | 1   |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 医薬品情報演習       | ●      |       |     |     |     |     |     |     | 1   |     |    |       |     |
|                            | 薬剤経済学         | ●      |       |     |     |     |     |     |     |     |     |    |       | 0.5 |
|                            | 臨床栄養学         | ○      |       |     |     |     |     |     |     | 0.5 |     |    |       |     |
|                            | 病態・薬物治療学演習    | ○      |       |     |     |     |     |     |     | 1   |     |    |       |     |
|                            | 生命医療倫理        | ●      |       |     |     |     | 1.5 |     |     |     |     |    |       |     |
|                            | 医療と法          | ●      |       |     |     |     |     |     | 1   |     |     |    |       |     |
|                            | 医療制度          | ●      |       |     |     |     |     |     |     | 1   |     |    |       |     |
|                            | 薬事関連法・制度      | ●      |       |     |     |     |     |     |     | 1.5 |     |    |       |     |
| 医療政策論                      | ○             |        |       |     |     |     |     |     |     | 0.5 |     |    |       |     |
| 医療倫理論                      | ○             |        |       |     |     |     |     |     |     | 0.5 |     |    |       |     |
| 漢方医学概論                     | ○             |        |       |     |     |     |     |     |     |     |     |    | 0.5   |     |
| レギュラトリーサイエンス               | ○             |        |       |     |     |     |     |     | 0.5 |     |     |    |       |     |
| 創薬薬理学                      | ○             |        |       |     |     |     |     |     |     |     |     |    | 0.5   |     |
| 薬学基礎演習                     | ●             |        |       |     |     |     |     |     |     | 0.5 |     |    |       |     |
| 臨床化学                       | ○             |        |       |     |     |     |     | 1   |     |     |     |    |       |     |
| 臨床生理学                      | ○             |        |       |     |     |     |     | 1   |     |     |     |    |       |     |
| 臨床導入学習 1                   | ●             |        |       |     |     |     |     |     | 3   |     |     |    |       |     |
| 臨床導入学習 2                   | ●             |        |       |     |     |     |     |     |     | 1   |     |    |       |     |
| 統合薬学演習                     | ●             | ※ 2    |       |     |     |     |     |     |     |     | 2   |    |       |     |
| 薬学総合演習                     | ●             |        |       |     |     |     |     |     |     |     |     |    | ← 3 → |     |

| 区分               | 授業科目      | 必<br>選 | 1年次 |    | 2年次 |     | 3年次 |    | 4年次 |    | 5年次 |        | 6年次 |    |
|------------------|-----------|--------|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|--------|-----|----|
|                  |           |        | 前期  | 後期 | 前期  | 後期  | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期     | 前期  | 後期 |
| 実<br>習<br>科<br>目 | 基礎薬学実習    | ●      | 0.5 |    |     |     |     |    |     |    |     |        |     |    |
|                  | 基礎有機化学実習  | ●      |     | 1  |     |     |     |    |     |    |     |        |     |    |
|                  | 有機化学実習    | ●      |     |    |     |     | 1   |    |     |    |     |        |     |    |
|                  | 漢方・生薬学実習  | ●      |     |    |     | 0.5 |     |    |     |    |     |        |     |    |
|                  | 分析化学実習    | ●      |     |    | 1   |     |     |    |     |    |     |        |     |    |
|                  | 物理・放射化学実習 | ●      |     |    |     | 1   |     |    |     |    |     |        |     |    |
|                  | 生物学実習     | ●      |     |    | 1   |     |     |    |     |    |     |        |     |    |
|                  | 生物科学実習    | ●      |     |    |     |     | 1   |    |     |    |     |        |     |    |
|                  | 衛生薬学実習    | ●      |     |    |     |     |     | 1  |     |    |     |        |     |    |
|                  | 薬理学実習     | ●      |     |    |     |     |     | 1  |     |    |     |        |     |    |
|                  | 薬剤学実習     | ●      |     |    |     |     |     | 1  |     |    |     |        |     |    |
|                  | 病院実務実習    | ●      |     |    |     |     |     |    |     |    |     | ← 10 → |     |    |
|                  | 薬局実務実習    | ●      |     |    |     |     |     |    |     |    |     | ← 10 → |     |    |
|                  | 特別演習・実習   | ● ※3   |     |    |     |     |     |    |     | ←  | 16  | →      |     |    |

●：必修科目 ▲：選択必修科目 ○：選択科目

選択科目は、同時間に複数科目開講することがある

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、ハングルより1カ国語を選択必修

※2 統合薬学演習は4年次前期から6年次前期の期間内のいずれかで行う

※3 特別演習・実習は4年次前期から6年次前期の期間で行う

(別表2) 卒業に必要な単位数

<薬学部薬学科：平成30～令和2年度入学生適用>

| 種別     | 区分等   | 単位数  | 備考   |
|--------|---|--|--|
| 必修科目   | 基礎教育科目<br>基礎薬学科目<br>応用薬学科目<br>医療薬学科目<br>実習  | 25.5単位<br>32単位<br>25単位<br>46単位<br>46単位       |  |
| 選択必修科目 | 基礎教育科目<br>「ドイツ語1,2」、「フランス語1,2」、「中国語1,2」、「ハングル1,2」から1カ国語2科目  | 2単位  |  |
| 選択科目   | ①基礎教育科目<br>＜教養科目＞1・2年次配当<br>「文学の世界（教養）」、「歴史と社会（教養）」、<br>「地球環境論（教養）」、「政治と社会（教養）」、<br>「基礎心理学（教養）」、「法と社会（教養）」、<br>「経済の世界（教養）」、「社会分析の基礎（教養）」、<br>「人間と宗教（教養）」、「文化人類学（教養）」、<br>「倫理と社会（教養）」、「コーチング論（教養）」、<br>「スポーツ・運動実習2（教養）」、<br>「数理論理学（教養）」各1科目1単位<br>＜その他＞<br>「情報科学（1単位）」（1年次配当）、<br>「医工薬連環科学（1.5単位）」（2年次配当）、<br>「他の大学等との単位互換の制度を利用して履修した科目」  | 6単位以上（教養科目からは4単位以上）                          | 教養科目は1年次では各学期に1科目、2年次では各学期に2科目まで選択して履修できる。             |
|        | ②応用薬学科目、医療薬学科目<br>2年次配当 「専門職連携医療論（1単位）」<br>3年次配当 「応用放射化学（1単位）」、<br>「精密有機合成化学（1単位）」、「臨床化学（1単位）」、<br>「臨床生理学（1単位）」<br>4年次配当 「生物物理化学（1単位）」、<br>「先端分子医科学1（0.5単位）」、「先端分子医科学2（0.5単位）」、<br>「医療政策論（0.5単位）」、「医療倫理論（0.5単位）」、<br>「レギュラトリーサイエンス（0.5単位）」、<br>「医薬品安全性学（1単位）」、「病態・薬物治療学演習（1単位）」、<br>「アドバンスト薬物治療学1（0.5単位）」、<br>「アドバンスト薬物治療学2（0.5単位）」、<br>「臨床栄養学（0.5単位）」<br>6年次配当 「医薬看融合ゼミ（0.5単位）」、<br>「漢方医学概論（0.5単位）」、「創薬薬理学（0.5単位）」 | 4.5単位以上（2～4年次配当科目からは4単位以上、6年次配当科目からは0.5単位以上） | ・3年次配当科目は、2科目まで選択して履修できる。<br>・6年次配当科目は、2科目まで選択して履修できる。 |
| 合計     |   | 187単位以上                                      |  |

- ・各科目の配当年次学期及び単位数については学則別表1を参照すること。
- ・選択科目は、各項目に示された単位数以上の単位を修得すること。
- ・単位互換の取扱いについては「単位互換実施に関する規程」に定める。